

平安京左京二条四坊十五町跡・
東京極大路跡

京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 二〇一五―五

平安京左京二条四坊十五町跡・東京極大路跡

2015年

公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

平安京左京二条四坊十五町跡・
東京極大路跡

2015年

公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所



1区東京極大路路面（路面Ⅲ、北西から）



1 1区埋納遺構160（北から）



2 1区土坑146出土 金銅製銃（金1）

序 文

京都市内には、いにしへの都平安京をはじめとして、数多くの埋蔵文化財包蔵地（遺跡）が点在しています。平安京以前にさかのぼる遺跡及び平安京建都以来、今日に至るまで営々と生活が営まれ、各時代の生活跡が連綿と重なりあっています。このように地中に埋もれた埋蔵文化財（遺跡）は、過去の京都の姿をうかびあがらせてくれます。

公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所は、遺跡の発掘調査をとおして京都の歴史の解明に取り組んでいます。その調査成果を市民の皆様に広く公開し、活用していただけるよう努めていくことが責務と考えています。現地説明会の開催、写真展や遺跡めぐり、京都市考古資料館での展示公開、小中学校での出前授業、ホームページでの情報公開などを積極的に進めているところです。

このたび、マンション新築計画に伴う平安京跡の発掘調査について調査成果を報告いたします。本報告の内容につきましてお気づきのことがございましたら、ご教示賜りますようお願い申し上げます。

末尾になりましたが、当調査に際しまして多くのご協力とご支援を賜りました多くの関係各位に厚く感謝し、御礼を申し上げます。

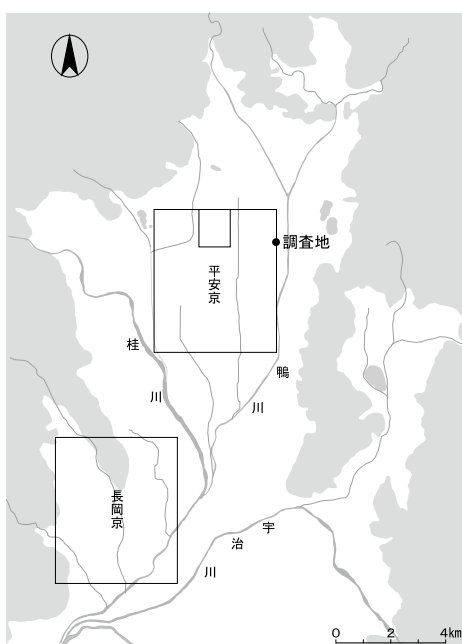
平成27年10月

公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所
所 長 井 上 満 郎

例 言

- | | |
|----------|---|
| 1 遺 跡 名 | 平安京跡（文化財保護課番号 14 H 014） |
| 2 調査所在地 | 京都市中京区御幸町通竹屋町上る毘沙門町546番 他 |
| 3 委 託 者 | 京阪電鉄不動産株式会社 代表取締役 三浦達也 |
| 4 調査期間 | 1・2区：2014年8月4日～2014年11月25日
3区：2015年7月6日～2015年7月31日 |
| 5 調査面積 | 1・2区：482㎡、3区：94㎡ |
| 6 調査担当者 | 1・2区：柏田有香、3区：持田 透 |
| 7 使用地図 | 京都市発行の都市計画基本図（縮尺1：2,500）「御所」を参考にし、作成した。 |
| 8 使用測地系 | 世界測地系 平面直角座標系VI（ただし、単位（m）を省略した） |
| 9 使用標高 | T.P.：東京湾平均海面高度 |
| 10 使用土色名 | 農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版 標準土色帖』に準じた。 |
| 11 遺構番号 | 1・2区調査、3区調査毎に通し番号を付し、遺構の種類を前に付けた。 |
| 12 遺物番号 | 1・2区調査、3区調査毎に通し番号を付し、写真番号も同一とした。 |
| 13 本書作成 | 柏田有香・持田 透 |
| 14 執筆分担 | 柏田有香：第1～3・5章
持田 透：第1・4章 |
| 15 備 考 | 上記以外に調査・整理ならびに本書作成には、調査業務職員及び資料業務職員があたった。 |

(調査地点図)



目 次

第1章 調査経過	1
第2章 位置と環境	3
1. 位置と環境	3
2. 周辺の調査	3
第3章 1・2区の調査	5
1. 遺 構	5
(1) 基本層序	5
(2) 第1期(平安時代前期)の遺構	9
(3) 第2期(平安時代中期前半)の遺構	9
(4) 第3期(平安時代中期後半から後期)の遺構	12
(5) 第4期(平安時代末から鎌倉時代)の遺構	14
(6) 第5期(室町時代)の遺構	18
(7) 第6期(桃山時代から江戸時代)の遺構	20
2. 遺 物	22
(1) 土器類	22
(2) 土製品	35
(3) 瓦類	35
(4) 金属製品・銭貨	38
(5) 石製品	40
第4章 3区の調査	55
1. 遺 構	55
(1) 基本層序	55
(2) 第1期(平安時代前期以前)の遺構	57
(3) 第3期(平安時代中期後半から後期)の遺構	59
(4) 第4期(平安時代末から鎌倉時代)の遺構	59
(5) 第5期(室町時代)の遺構	60
(6) 第6期(桃山時代から江戸時代)の遺構	60
2. 遺 物	63
(1) 土器類	64
(2) 瓦類	70
(3) 石製品	71
第5章 ま と め	77

図版目次

巻頭図版 1	遺構	1 区東京極大路路面（路面Ⅲ、北西から）
巻頭図版 2	遺構・遺物	1 1 区埋納遺構 160（北から） 2 1 区土坑 146 出土 金銅製錠（金 1）
図版 1	1～3 区 遺構	第 1 期遺構平面図（1：200）
図版 2	1～3 区 遺構	第 2 期遺構平面図（1：200）
図版 3	1～3 区 遺構	第 3 期遺構平面図（1：200）
図版 4	1～3 区 遺構	第 4 期遺構平面図（1：200）
図版 5	1～3 区 遺構	第 5 期遺構平面図（1：200）
図版 6	1～3 区 遺構	第 6 期遺構平面図（1：200）
図版 7	1・2 区 遺構	1 東京極大路路面断面（西から） 2 第 1 期北半全景（東から） 3 第 1 期南半全景（北から）
図版 8	1・2 区 遺構	1 埋納遺構 158・159（北西から） 2 埋納遺構 160・161（北西から） 3 溝 290（北から）
図版 9	1・2 区 遺構	1 第 3 期北半全景（東から） 2 土坑 150（北東から） 3 第 3 期南半全景（北東から）
図版 10	1・2 区 遺構	1 土坑 151（北から） 2 土坑 175（北から） 3 礎石 139（西から） 4 第 4 期北半全景（東から）
図版 11	1・2 区 遺構	1 第 4 期南半溝群（北北西から） 2 路面Ⅳ（北から） 3 集石 15（東から） 4 掘立柱建物 1（北東から） 5 柱穴 108（北から） 6 柱列 2 の柱穴 80（南から）
図版 12	1・2 区 遺構	1 第 5 期北半全景（東から） 2 路面Ⅴ（北東から）
図版 13	1・2 区 遺構	1 第 6 期北半全景（東から）

2 第6期南半全景（北から）

3 石室67（東から）

4 水溜66（西から）

図版14	1・2区	遺物	埋納遺構160・159、路面Ⅲ構築土出土土器類
図版15	1・2区	遺物	路面Ⅲ構築土、土坑175出土土器類
図版16	1・2区	遺物	土坑150・54出土土器類
図版17	1・2区	遺物	土坑54、井戸102出土土器類
図版18	1・2区	遺物	土坑196、水溜66出土土器類
図版19	1・2区	遺物	土坑197出土土器類、土製品
図版20	1・2区	遺物	瓦類
図版21	1・2区	遺物	金属製品、銭貨、石製品
図版22	3区	遺構	1 第1期全景（北から） 2 炉88（東から） 3 炉88（北東から）
図版23	3区	遺構	1 第3期全景（北から） 2 埋納遺構45（東から） 3 溝76（西から）
図版24	3区	遺構	1 第4期全景（北から） 2 溝37、ピット42・44（北から） 3 集石40（北東から） 4 井戸36（南から）
図版25	3区	遺構	1 第5期全景（北から） 2 第6期全景（北から）
図版26	3区	遺構	1 埋甕6（西から） 2 埋甕23（南から） 3 埋甕31（西から） 4 集石22（南から） 5 石室12（西から） 6 石室34（東から）
図版27	3区	遺物	埋納遺構45、井戸36、土坑50ほか出土土器類
図版28	3区	遺物	土坑30・54出土土器類
図版29	3区	遺物	埋甕6、石室12出土土器類
図版30	3区	遺物	瓦類、石製品

挿 図 目 次

図1	調査地位置図（1：2,500）	1
図2	調査前全景（北西から）	2
図3	作業風景	2
図4	調査区配置図（1：500）	2
図5	北壁・東壁断面図（1：100）	6
図6	北壁・東壁断面土層名	7
図7	路面断面図（1：50）	8
図8	溝290・291断面図（1：50）	9
図9	埋納遺構実測図（1：20、1：10）	10
図10	柱穴170・109実測図（1：50、1：20）	11
図11	礎石139、土坑151・295、溝156、柱列1実測図（1：20、1：50）	13
図12	土坑150実測図（1：50）	14
図13	溝280・281・285・292・293・294・307断面図（1：50）	15
図14	掘立柱建物1、柱列2・3、土坑146実測図（1：50）	16
図15	柱穴108・110、集石15実測図（1：20）	17
図16	柱列5実測図（1：50）	19
図17	土坑91実測図（1：50）	19
図18	墨書土器実測図（1：3）	23
図19	路面Ⅰ構築土、ピット74出土土器実測図（1：4）	23
図20	埋納遺構159・160、溝290出土土器実測図（1：4）	24
図21	路面Ⅲ構築土出土土器実測図（1：4）	26
図22	土坑175・150・151、平安後期砂層、平安末整地層出土土器実測図（1：4）	28
図23	土坑146・90・54出土土器実測図（1：4）	29
図24	井戸102出土土器実測図（1：4）	31
図25	土坑196出土土器実測図（1：4）	32
図26	土坑197、水溜66出土土器実測図（1：4）	34
図27	土製品実測図（1：2）	35
図28	軒丸瓦拓影及び実測図（1：4）	36
図29	軒平瓦・熨斗瓦拓影及び実測図（1：4）	37
図30	金属製品実測図（1：2）	38
図31	銭貨拓影（1：2）	39
図32	石製品実測図（1：2、1：4）	40

図33	3区南壁・西壁断面図（1：100）	56
図34	炉88、ピット群実測図（1：50）	57
図35	埋納遺構45、溝76、土坑83、溝37実測図（1：10、1：50）	58
図36	集石40、土坑50実測図（1：50）	59
図37	埋甕6・23・31、石室12・34、集石22実測図（1：20、1：50）	61
図38	土坑46・54実測図（1：50）	62
図39	土坑94・83・67、埋納遺構45ほか出土土器実測図（1：4）	65
図40	井戸36、集石40、土坑50出土土器実測図（1：4）	66
図41	土坑30出土土器実測図（1：4）	67
図42	石室34、土坑54出土土器実測図（1：4）	67
図43	埋甕6、石室12出土土器実測図（1：4）	68
図44	埋甕6・23・31出土甕実測図（1：8）	69
図45	瓦拓影及び実測図（1：4）	70
図46	石製品実測図（1：2）	71

表 目 次

表1	1・2区 遺構概要表	5
表2	1・2区 遺物概要表	22
表3	掲載銭貨一覧表	39
表4	試掘土坑1 緡銭枚数一覧表	39
表5	1・2区 土器類・土製品一覧表	42
表6	1・2区 瓦類一覧表	53
表7	3区 遺構概要表	55
表8	3区 遺物概要表	63
表9	3区 土器類・土製品一覧表	72
表10	3区 瓦類一覧表	76

平安京左京二条四坊十五町跡・東京極大路跡

第1章 調査経過

この調査は、京都市中京区御幸町通竹屋町上る毘沙門町546番他で実施したマンション新築計画に伴うものである。調査地は、西半が平安京左京二条四坊十五町跡、東半が平安京東京極大路に該当する。工事に先立ち、京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課（以下「文化財保護課」という）が試掘調査を実施したところ、平安時代から室町時代の遺構や東京極大路路面の石敷きなどが確認されたため、発掘調査の指導が行われ、公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所が委託を受けて調査を実施することとなった。調査は、試掘調査の成果を受けて左京二条四坊十五町の宅地利用の変遷と、これまで本格的な発掘調査が行われていなかった東京極大路の敷設状況を考古学的に解明することを目的とした。

発掘調査区は、文化財保護課の指導により、逆「L」字形に設定した（図4）。場内で残土処理を行うため反転調査とし、北半を1区、南半を2区とした。調査面積は計482㎡である。2014年8月4日に1区の調査を開始し、10月10日に終了した。10月14日から2区の調査を開始し、11月25日に全ての調査を終了した。1区、2区ともに第1面（桃山時代から江戸時代）、第2面（室町時代）、第3面（平安時代末から鎌倉時代）、第4面（平安時代中期後半から後期）、第5面（平安時代中期前半）、第6面（平安時代前期）の計6面の調査を行った。それぞれの遺構面において記録

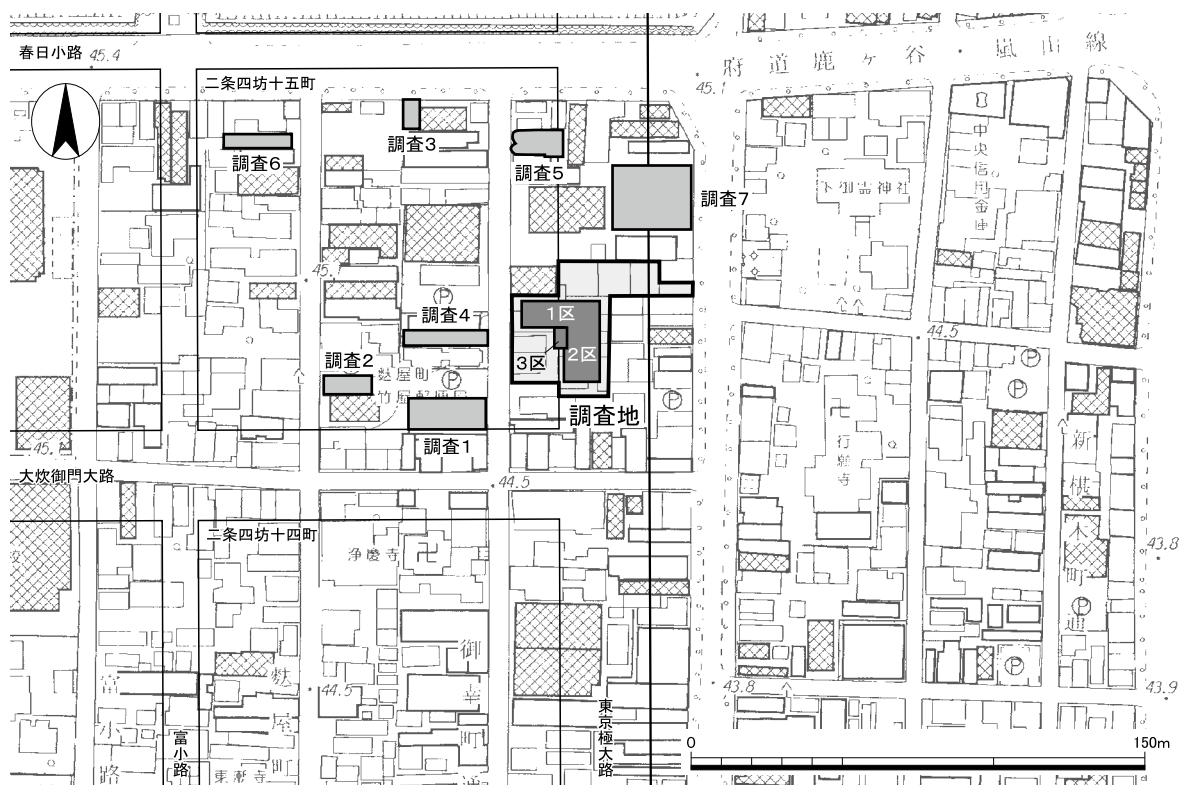


図1 調査地位置図（1：2,500）



図2 調査前全景（北西から）



図3 作業風景

作業を行い、各遺構面の調査終了時には文化財保護課の検査指導を受けた。調査では、東半で平安時代前期から室町時代までの東京極大路路面と側溝、西半では江戸・室町時代の町屋跡、平安時代から鎌倉時代の掘立柱建物跡、平安時代後期の門跡の可能性のある土坑などを検出した。

なお、1区・2区の調査が終了した後に時間を置いて追加調査を行った。発掘調査区は文化財保護課の指導により3区が追加設定された（図4）。

追加調査は2015年7月6日から同年7月31日まで行った。調査面積は94㎡である。1・2区の調査と同様、第1面（桃山時代から江戸時代）から第6面（平安時代前期）までの調査を行った。各面の調査終了時に文化財保護課の検査指導を受けた。調査では平安時代から江戸時代までの東京極大路沿いの宅地の変遷をたどれる遺構を検出した。

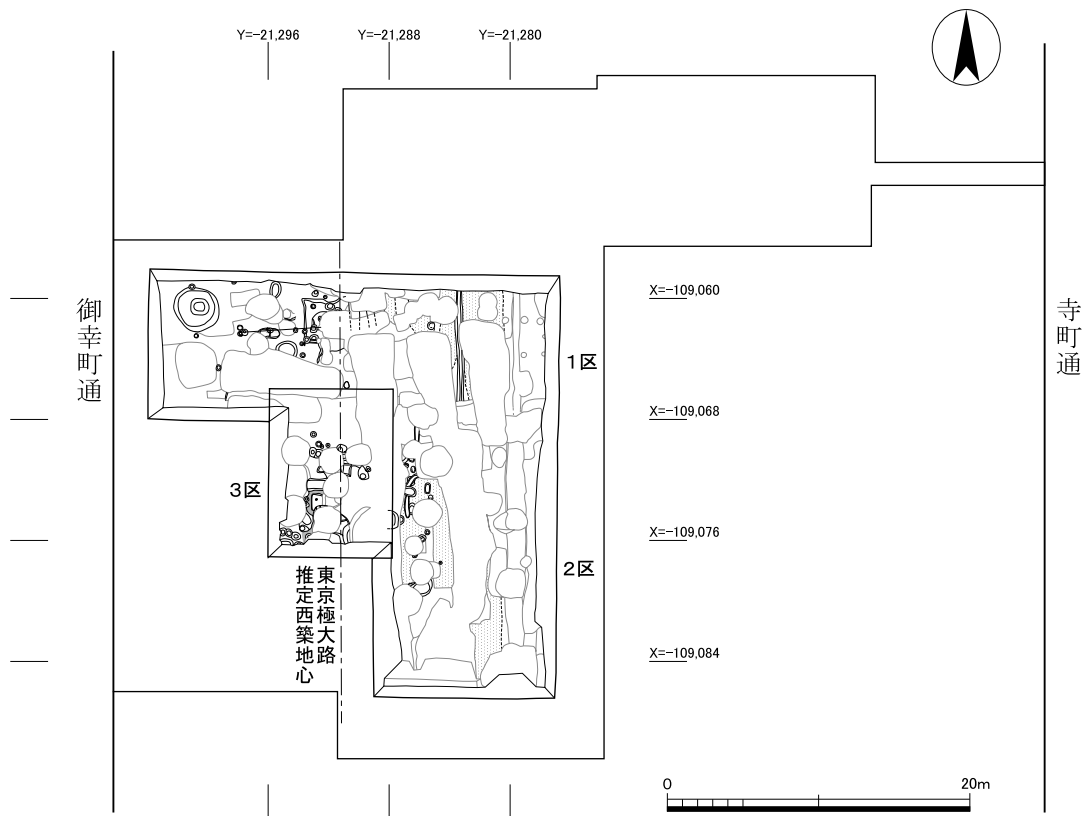


図4 調査区配置図（1：500）

第2章 位置と環境

1. 位置と環境（図1）

調査地は現在の丸太町通から御幸町通を南に約80m進んだ東側に位置する。丸太町通は平安京の春日小路を踏襲するが、御幸町通は豊臣秀吉による京都改造政策の一環である天正地割により敷設された路である。調査地西半は平安京の条坊で左京二条四坊十五町、東半が東京極大路に該当する。平安京の東端で、鴨川からの距離が近く氾濫の影響を受けやすい位置にあることから、平安時代中期前半まではあまり開発が進まなかったようである。中期中葉以降、東京極大路の東側に、藤原兼家の法興院、藤原道長の法成寺などの造営が行われ、東京極大路に沿っての開発が活発になる。調査地の位置する左京二条四坊十五町については、『山槐記』の記述などから平安時代末期に蹴鞠の達人刑部卿藤原頼輔の邸宅が存在し、頼輔の死後、卿局と呼ばれた藤原兼子の所領になったとされる。これを養女の藤原重子（脩明門院）の里第とし、重子は正治2年9月11日、ここで順徳天皇を産んだとされ、卿局はその後、この邸宅を後鳥羽上皇に献上し京極殿と呼ばれたとされる²⁾。しかし、藤田勝也氏によれば、『山槐記』の記述から、治承三年（1179）年四月、堀川宰相頼定の娘、内女房の按察典侍が高倉天皇との子（後の潔子内親王）を出産し、その場所は春日南・京極西の宅で、その後刑部卿頼輔の沙汰で七夜儀が同邸で行われているものの、それによってこの邸宅の主が頼輔である確証はないとし、この時出生した潔子内親王が伊勢斎宮から帰京後、出生地のこの春日京極に住まいを設けたことから、この邸の元の主は祖父頼定の可能性が高いとする。また、この邸は方一町に満たず⁴⁾、三間四面の檜皮葺の寝殿以外の建物は全て板葺で、織戸中門があり、東の京極面に棟門を開いたとされる⁷⁾。また、藤田氏は藤原兼子の所有で養女重子の里第となり、その後、後鳥羽院が移徙した京極殿は、京極東・大炊御門北で東京極大路を挟んで東側であると指摘する。そうであれば、鎌倉時代以後の左京二条四坊十五町の伝領に関する史料は存在しないこととなる。

調査地の東半が含まれる東京極大路の規模については、『延喜式』左右京職の京程により「東極大路十丈。」と規定されている。この幅は築地心から築地心までの距離であるため、築地幅6尺の半分3尺と犬行幅5尺、側溝幅4尺を考えると路面幅は7丈6尺（約22.8m）ということになる。

2. 周辺の調査（図1）

平安京左京二条四坊十五町内では、過去に試掘・立会調査が数件実施されている。調査1では鎌倉から江戸時代までの4時期の遺物包含層が確認されている⁹⁾。調査2でも鎌倉時代の遺物包含層が確認されている¹⁰⁾ほか、調査3では平安時代中期の遺物包含層が見つかった¹¹⁾。御幸町通を挟んで今調査地の西で実施された調査4では平安時代前期・中期、鎌倉時代、桃山時代の各時期の土坑が見つかった¹²⁾。調査5では平安時代後期から鎌倉時代の落ち込み¹³⁾、調査6では平安時代後期の落ち込みが見つかった¹⁴⁾。これらの成果からは、当町では平安時代前期から利用はあるものの、

京の中心が左京に移る中期以降、さらに東京極の東側や鴨東の白河街区の開発が進む平安時代後期から鎌倉時代に最も利用が活発になったと考えられる。

東京極大路の調査については、今調査地の北東で実施された試掘調査（調査7）で時期不明の路面が見つ¹⁵⁾かっている。また、京都御苑内の調査で平安時代から室町時代前半のある時期まで使用されたと見られる路面が検出されているが、掘削深度の制限があり部分的な確認に留まる¹⁶⁾。さらに、地下鉄東西線敷設に伴う調査で、平安時代前期の遺物を含む路面、東側溝、西側溝の可能性のある溝が検出されているが、後世の削平が著しく、明確な時期や規模は不明瞭である¹⁷⁾。

註

- 1) 「春日学区」『史料京都の歴史 第7巻上京区』平凡社 1980年
- 2) 山田邦和「左京全町の概要」『平安京提要』角川書店 1994年
- 3) 「山槐記」治承三年四月十七日、十八日各条。（「山槐記二」『増補史料大成』第二十七巻 臨川書店 1965年）
- 4) 「業資王記」正治元年三月二十三日条。（「業資王記」『続史料大成21 伯家五代記』臨川書店 1967年）
- 5) 関西大学藤田勝也教授より御教示をいただいた。
- 6) 前掲註3の十七日条に、春日南・京極西の「角」とある。藤田教授の御教示による。
- 7) 「山槐記」治承三年四月二十四日条。（前掲註3文献に同じ）
- 8) 『延喜式』「左右京職京程」（『新訂増補国史大系 延喜式 前篇・交替式・弘仁式』吉川弘文館 1972年）
- 9) 「HL212」『京都市内遺跡試掘立会調査概報 昭和58年度』京都市文化観光局 1984年
- 10) 「HL256」『京都市内遺跡試掘立会調査概報 昭和59年度』京都市文化観光局 1985年
- 11) 「HL91」『京都市内遺跡試掘立会調査概報 昭和60年度』京都市文化観光局 1986年
- 12) 「HL105」『京都市内遺跡試掘立会調査概報 平成2年度』京都市文化観光局 1991年
- 13) 「HL85」『京都市内遺跡立会調査概報 平成7年度』京都市文化市民局 1996年
- 14) 「HL222」『京都市内遺跡立会調査概報 平成7年度』京都市文化市民局 1996年
- 15) 「HL113」『京都市内遺跡試掘立会調査概報 平成2年度』京都市文化観光局 1991年
- 16) 『平安京左京北辺四坊－第1分冊（公家町形成前）－』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2004年
- 17) 小森俊寛他「平安京左京三条一～四坊」『平成2年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1994年

第3章 1・2区の調査

1. 遺 構

(1) 基本層序 (図5～7)

調査地は現状では現代盛土のためほぼ平坦になっており、標高は45.0～45.1mである。現地表面から0.6～1.8mが近現代盛土で、その下に近世整地層が0.1～0.6mの厚さで堆積する(図5-3・46・56層)調査区西半ではその下に上から順に室町時代の整地層(4層)、平安時代末の整地層(5層)、平安時代後期の整地層(8層)が堆積する。5層と8層の間には、氾濫堆積物由来と考えられる層厚0.05～0.15mの平安時代後期の遺物を含む砂層(7層)と、その上に砕いた土器を敷いた層(6層)が確認できた。平安時代後期から末の遺物を含む。平安時代後期の整地層を除去すると灰黄褐色砂礫の基盤層となる。基盤層には、わずかながら弥生時代後期の遺物片が含まれ、その頃以降の河川氾濫による自然堆積層と考えられる。基盤層上面の標高は1区北西端で約43.8m、1区中央南端で約43.5mと北から南に低くなる。

調査区東半では、近世整地層の下が、室町時代の路面構築土となる。路面構築土は、上から順に室町時代、鎌倉時代、平安時代後期、平安時代中期、平安時代前期の5面確認できた。平安時代前期の路面構築土を除去すると、砂礫、もしくは均質シルトの基盤層となる。基盤層上面の標高は1区北東端で約43.5m、2区南東端では約43.1mで、北から南に低くなる。

調査は、各整地層の上面で、第1面(桃山時代から江戸時代)、第2面(室町時代)、第3面(平安時代末から鎌倉時代)、第4面(平安時代中期後半から後期)、第5面(平安時代中期前半)、第6面(平安時代前期)として調査を行った。しかし、大規模な現代攪乱により遺構面が分断され、また宅地部分と東京極大路路面の整地の方法が異なることなどから、調査時には同時期の遺構面の拡がりを捉えられなかった部分がある。そこで、整理作業で遺構の重複関係や出土遺物の時期を検討し、第1期(平安時代前期)、第2期(平安時代中期前半)、第3期(平安時代中期後半から後期)、第4期(鎌倉時代)、第5期(室町時代)、第6期(桃山時代から江戸時代)の6期に再整理

表1 1・2区 遺構概要表

時 代	時 期	遺 構
平安時代～ 鎌倉時代	第1期(平安時代前期)	路面Ⅰ、ピット74
	第2期(平安時代中期前半)	路面Ⅱ、溝290・291、埋納遺構158・159・160・161、柱穴109・170、土坑163・168
	第3期(平安時代中期後半～後期)	路面Ⅲ、溝144・156、柱列1、土坑150・151・175・295、礎石139
	第4期(平安時代末～鎌倉時代)	路面Ⅳ、溝165・166・169・194・280・281・285・292・293・294・307、掘立柱建物1、柱列2・3・4、柱穴108・110・115、集石15、土坑146
室町時代	第5期(室町時代)	路面Ⅴ、溝101・231・274、柱列5、礎石60・61・62、集石17・230、土坑54・91・200
桃山時代～ 江戸時代	第6期(桃山時代～江戸時代)	井戸23・24・102・221・222・223・224、水溜16・22・66、石室67・220、土坑1・2・196・197・210、溝239

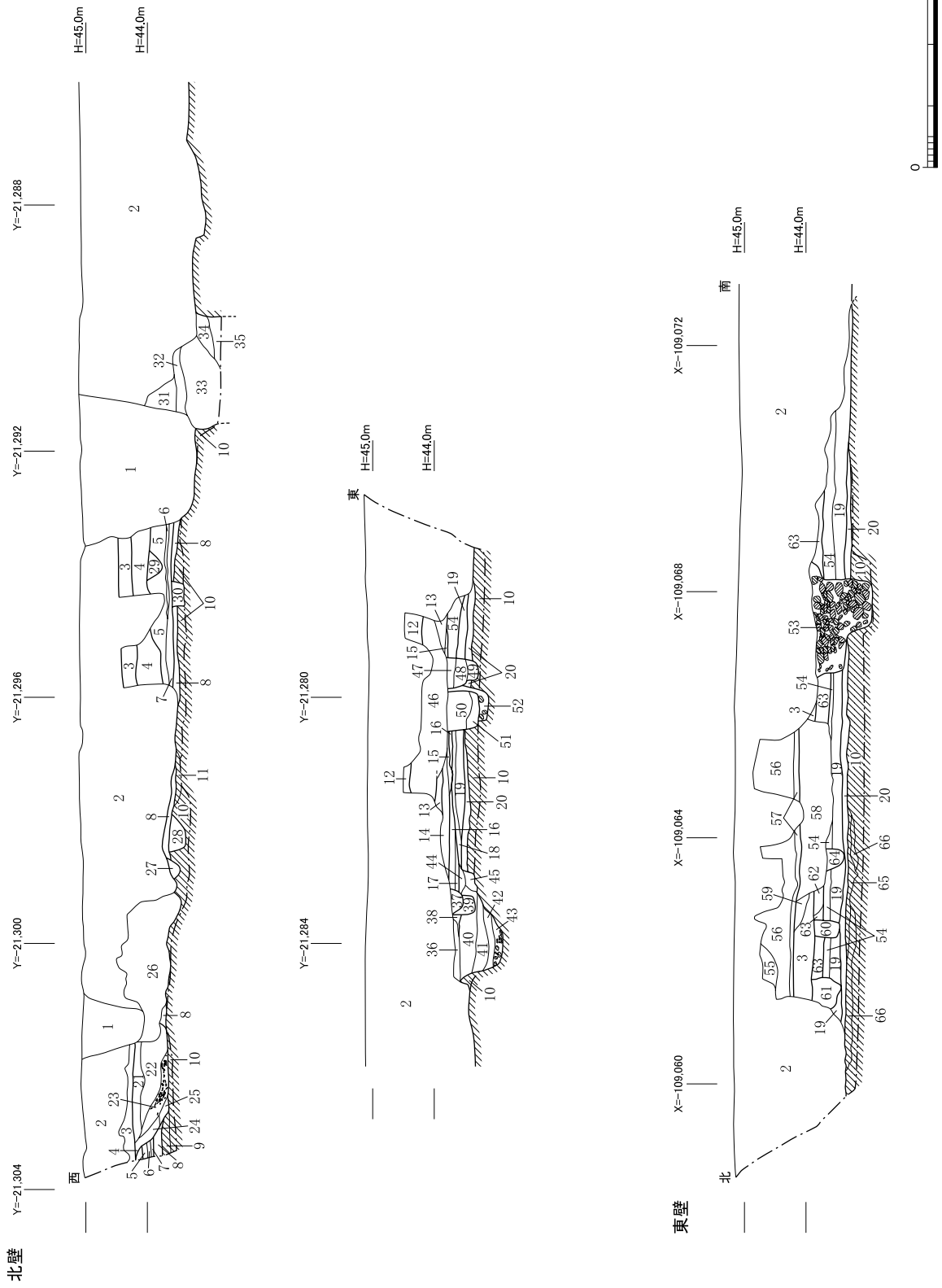
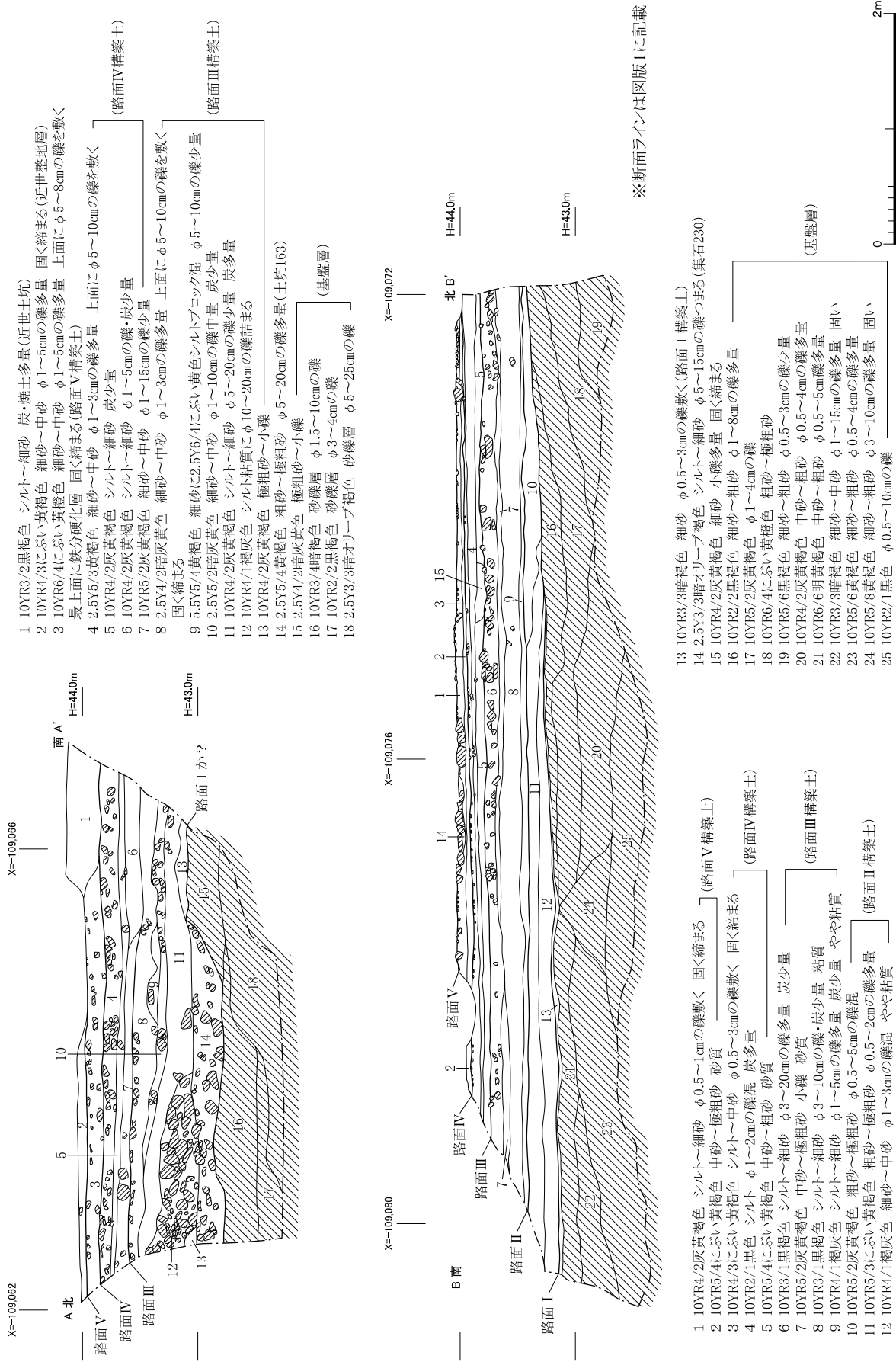


図5 北壁・東壁断面図 (1 : 100)

- | | | |
|----|---------------|---------------------------------------|
| 1 | 現代境乱 | |
| 2 | 5YR4/3にぶい赤褐色 | 粘土 炭・旋瓦多量(近現代盛土) |
| 3 | 2.5Y4/3オリーブ褐色 | シルト～細砂 小礫多量 炭少量(平安後期整地層) |
| 4 | 10YR4/3にぶい黄褐色 | シルト～細砂 小礫多量 φ1～5cmの礫少量(平安後期整地層) |
| 5 | 10YR3/2黒褐色 | シルト～細砂 土器片多量 小礫・φ1～5cmの礫中量(平安末～鎌倉整地層) |
| 6 | 砕いた土師皿層 | |
| 7 | 10YR5/2灰黄褐色 | 中砂～極粗砂 φ0.5～1cmの礫多量(平安後期砂層) |
| 8 | 10YR3/1黒褐色 | シルト～細砂 φ1～3cmの礫少量 炭中量(平安後期整地層) |
| 9 | 10YR2/1黒色 | 砂礫 中砂～粗砂 φ0.5～2cmの礫多量(基盤層) |
| 10 | 10YR5/2灰黄褐色 | 砂礫 粗砂～極粗砂 φ2～10cmの礫多量(基盤層) |
| 11 | 10YR4/4褐色 | 細砂～中砂(基盤層) |
| 12 | 5YR4/6明赤褐色 | シルト(盛土)最下層に炭堆積(近世火災層) |
| 13 | 2.5Y4/2暗灰黄色 | シルト～細砂 φ1～5cmの礫中量(路面V構築土) |
| 14 | 10YR3/2黒褐色 | シルト～細砂 φ3～20cmの礫多量(路面IV構築土) |
| 15 | 10YR5/2灰黄褐色 | 粗砂～極粗砂 φ1～3cmの礫多量(砂層) |
| 16 | 10YR3/1黒褐色 | シルト～細砂 φ1～5cmの礫・炭多量(路面III構築土) |
| 17 | 10YR5/2灰黄褐色 | 中砂～極粗砂(砂層) |
| 18 | 10YR4/2灰黄褐色 | シルト～細砂 φ1～3cmの礫多量 非常に固く締まる(路面II構築土) |
| 19 | 10YR4/4褐色 | 中砂～極粗砂 φ1～5cmの礫多量(砂層) |
| 20 | 10YR5/2灰黄褐色 | 細砂 φ1～5cmの礫多量 固く締まる(路面I構築土) |
| 21 | 2.5Y4/1黄灰色 | シルト～細砂 小礫・炭多量 |
| 22 | 10YR4/3にぶい黄褐色 | シルト～細砂 φ1～5cmの礫中量 |
| 23 | 10YR4/2灰黄褐色 | シルト～細砂 土器片・炭多量 |
| 24 | 10YR4/2灰黄褐色 | シルト～細砂 小礫少量 |
| 25 | 10YR3/2黒褐色 | シルト～細砂 炭少量 |
| 26 | 10YR3/1黒褐色 | シルト～細砂 小礫・炭・焼土多量(幕末土坑) |
| 27 | 2.5Y3/2黒褐色 | 細砂 炭少量 |
| 28 | 10YR5/2灰黄褐色 | 細砂～粗砂 φ1～5cmの礫多量 |
| 29 | 10YR4/2灰黄褐色 | 細砂 小礫・炭中量 |
| 30 | 2.5Y4/1黄灰色 | シルト～細砂 φ1～3cmの礫多量 |
| 31 | 10YR3/3暗褐色 | 中砂 φ3～5cmの礫多量 |
| 32 | 10YR3/2黒褐色 | 細砂 炭・φ1～5cmの礫多量 |
| 33 | 10YR4/2灰黄褐色 | シルト～細砂 φ1～10cmの礫少量 |
| 34 | 10YR4/2灰黄褐色 | シルト～細砂 φ1～5cmの礫多量 |
| 35 | 10YR4/3にぶい黄褐色 | シルト～細砂 φ10～20cmの礫混 |
| 36 | 10YR4/2灰黄褐色 | シルト～細砂 炭少量(近世土坑) |
| 37 | 10YR4/2灰黄褐色 | シルト～細砂 φ1～10cmの礫中量(溝101か) |
| 38 | 2.5Y4/2暗灰黄色 | シルト～細砂 φ1～3cmの礫少量 固く締まる(路面III構築土) |
| 39 | 10YR3/1黒褐色 | シルト～細砂 φ1～5cmの礫多量(溝144) |
| 40 | 2.5Y4/1黄灰色 | 細砂～中砂 φ1～10cmの礫中量 |
| 41 | 2.5Y3/2黒褐色 | 極細砂～細砂 φ1～5cmの礫中量 |
| 42 | 2.5Y3/1黒褐色 | 極細砂～小礫 |
| 43 | 10YR3/1黒褐色 | シルト～細砂 粘土にφ3～15cmの礫多量(土坑168) |
| 44 | 10YR4/2灰黄褐色 | シルト～細砂 φ3～10cmの礫少量 |
| 45 | 10YR4/2灰黄褐色 | 細砂～中砂 φ5～20cmの礫詰まる |
| 46 | 10YR3/1黒褐色 | シルト～細砂 φ1～10cmの礫中量 炭多量(近世盛土) |
| 47 | 10YR4/2灰黄褐色 | シルト～細砂 炭少量(溝165) |
| 48 | 10YR4/1褐灰色 | 細砂 φ1～5cmの礫多量(溝165) |
| 49 | 10YR4/3にぶい黄褐色 | 細砂 φ1～5cmの礫多量(溝165) |
| 50 | 10YR4/2灰黄褐色 | シルト～細砂 φ0.5～15cmの礫多量(溝169) |
| 51 | 10YR3/1黒褐色 | シルト～細砂 極粗砂・小礫多量(溝194) |
| 52 | 10YR4/2灰黄褐色 | 細砂 φ3～10cmの礫多量 |
| 53 | 10YR3/2黒褐色 | 細砂 φ10～30cmの礫詰まる(石室67) |
| 54 | 10YR3/2暗褐色 | 細砂～粗砂 φ1～5cmの礫多量(平安後期整地層) |
| 55 | 10YR5/2灰黄褐色 | 中砂～極粗砂 φ1～5cmの礫多量(平安後期整地層) |
| 56 | 10YR4/2灰黄褐色 | シルト～細砂 炭・焼土混(近世盛土) |
| 57 | 7.5YR5/6明褐色 | シルト～細砂(近世火災層) |
| 58 | 10YR3/2黒褐色 | シルト～細砂 φ5～30cmの礫・炭・漆喰混 |
| 59 | 10YR4/4褐色 | シルト～細砂 φ1～10cmの礫・炭少量 |
| 60 | 10YR3/3暗褐色 | シルト～細砂 炭少量(掘立1・柱穴136) |
| 61 | 10YR3/2黒褐色 | シルト～細砂 φ1～10cmの礫・炭少量(掘立1・柱穴134) |
| 62 | 10YR2/2黒褐色 | 細砂 炭多量 |
| 63 | 10YR4/4褐色 | 極細砂～細砂(鎌倉整地層) |
| 64 | 10YR3/2黒褐色 | 極細砂～細砂 φ1～5cmの礫少量 炭中量(掘立1・柱穴138) |
| 65 | 2.5Y5/3黄褐色 | 細砂～中砂(基盤層) |
| 66 | 2.5Y5/3黄褐色 | 中砂～極粗砂(基盤層) |

図6 北隣・東隣断面土層名



- 1 10YR3/2黒褐色 シルト～細砂 炭・焼土多量(近世土坑)
- 2 10YR4/3にぶい黄褐色 細砂～中砂 φ1～5cmの礫多量 固く締まる(近世整地層)
- 3 10YR6/4にぶい黄褐色 細砂～中砂 φ1～5cmの礫多量 上面にφ5～8cmの礫を敷く
最上面に鉄分硬化層 固く締まる(路面V構築土)
- 4 2.5Y5/3黄褐色 細砂～中砂 φ1～3cmの礫多量 上面にφ5～10cmの礫を敷く
(路面IV構築土)
- 5 10YR4/2灰黄褐色 シルト～細砂 炭少量
- 6 10YR4/2灰黄褐色 シルト～細砂 φ1～5cmの礫・炭少量
- 7 10YR5/2灰黄褐色 細砂～中砂 φ1～15cmの礫少量
- 8 2.5Y4/2暗灰黄色 細砂～中砂 φ1～3cmの礫多量 上面にφ5～10cmの礫を敷く
固く締まる
- 9 5.5Y5/4黄褐色 細砂に2.5Y6/4にぶい黄褐色シルトプロット混 φ5～10cmの礫少量
- 10 2.5Y5/2暗灰黄色 細砂～中砂 φ1～10cmの礫中量 炭少量
- 11 10YR4/2灰黄褐色 シルト～細砂 φ5～20cmの礫少量 炭多量
- 12 10YR4/1褐灰色 シルト粘質にφ10～20cmの礫詰まる
- 13 10YR4/2灰黄褐色 極粗砂～小礫
- 14 2.5Y5/4黄褐色 粗砂～極粗砂 φ5～20cmの礫多量(土坑163)
- 15 2.5Y4/2暗灰黄色 極粗砂～小礫
- 16 10YR3/4暗褐色 砂礫層 φ1.5～10cmの礫
(基礎層)
- 17 10YR2/2黒褐色 砂礫層 φ3～4cmの礫
- 18 2.5Y3/3暗オリーブ褐色 砂礫層 φ5～25cmの礫

- 13 10YR3/3暗褐色 細砂 φ0.5～3cmの礫敷く(路面I構築土)
- 14 2.5Y3/3暗オリーブ褐色 シルト～細砂 φ5～15cmの礫つまる(集石230)
- 15 10YR4/2灰黄褐色 細砂 小礫多量 固く締まる
- 16 10YR2/2黒褐色 細砂～粗砂 φ1～8cmの礫多量
- 17 10YR5/2灰黄褐色 φ1～4cmの礫
- 18 10YR6/4にぶい黄褐色 粗砂～極粗砂
- 19 10YR5/6黒褐色 細砂～粗砂 φ0.5～3cmの礫少量
- 20 10YR4/2灰黄褐色 中砂～粗砂 φ0.5～4cmの礫多量
- 21 10YR6/6明黄褐色 中砂～粗砂 φ0.5～5cm礫多量
- 22 10YR3/3暗褐色 細砂～中砂 φ1～15cmの礫多量 固い
- 23 10YR5/6黄褐色 細砂～粗砂 φ0.5～4cmの礫多量
- 24 10YR5/8黄褐色 細砂～粗砂 φ3～10cmの礫多量
- 25 10YR2/1黒色 φ0.5～10cmの礫

図7 路面断面図 (1:50)

を行った。以下に、各時期の主要な遺構について概説する。

(2) 第1期（平安時代前期）の遺構（図版1・7）

この時期の遺構は少ない。西半の宅地部分では少数のピットや浅い土坑状遺構を検出した。東半では、東京極大路の路面を検出した。

路面 I 東半で検出した。西端はY=-21,285.5ライン付近で第2期の溝290に削平される。東端は調査区外に延び、検出範囲は東西約7.7m、南北約25.0mある。上面の標高は北端で約43.5m、南端では43.15mで北から南に低くなる。層厚は0.05~0.15m（図5-20層、図6-Bライン13層）あり、全体に径0.5~5.0cmの礫が混ざり固く締まる。9世紀前半代に位置付けられる土器類が出土した。

ピット74 西半で検出した。径約0.2m、検出面からの深さは約0.15mある。埋土から完形に近い土師器の椀と皿が出土した。埋納遺構の可能性はある。

(3) 第2期（平安時代中期前半）の遺構（図版2）

西半の宅地部分で少数の柱穴、東半では溝、土器埋納遺構、東京極大路路面などを検出した。

路面 II 東半で検出した。西端はY=-21,285.8ライン付近、東端はY=-21,281.2付近で溝290と溝291の間で確認できた。検出範囲は東西約4.5m、南北約20.0mある。上面の標高は北端で約43.7m、南端では43.4mで北から南に低くなる。構築土の層厚は0.05~0.25m（図5-18・19層、図6-Bライン10~13層）あり、最上層には径0.5~5.0cmの礫が混ざり固く締まる。

溝290（図8、図版8） 南半西端で検出した南北方向の溝である。X=-109,065より北は大規模な現代攪乱により削平される。検出長約17.0m、検出幅2.0~3.2m、深さは0.3~0.6mある。底の標高は42.9~43.05mで全体的に凹凸がある。北端では底部付近で土器埋納遺構群を検出した。埋土は、最下層に溝が機能している時の堆積と考えられる砂質の細~中砂層（図8-6・7層）が確

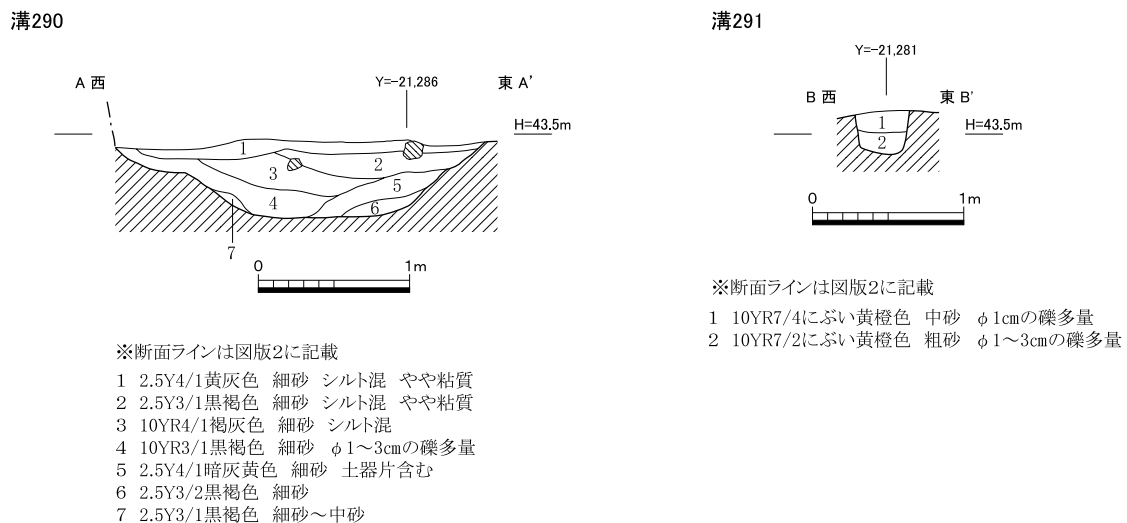


図8 溝290・291断面図（1：50）

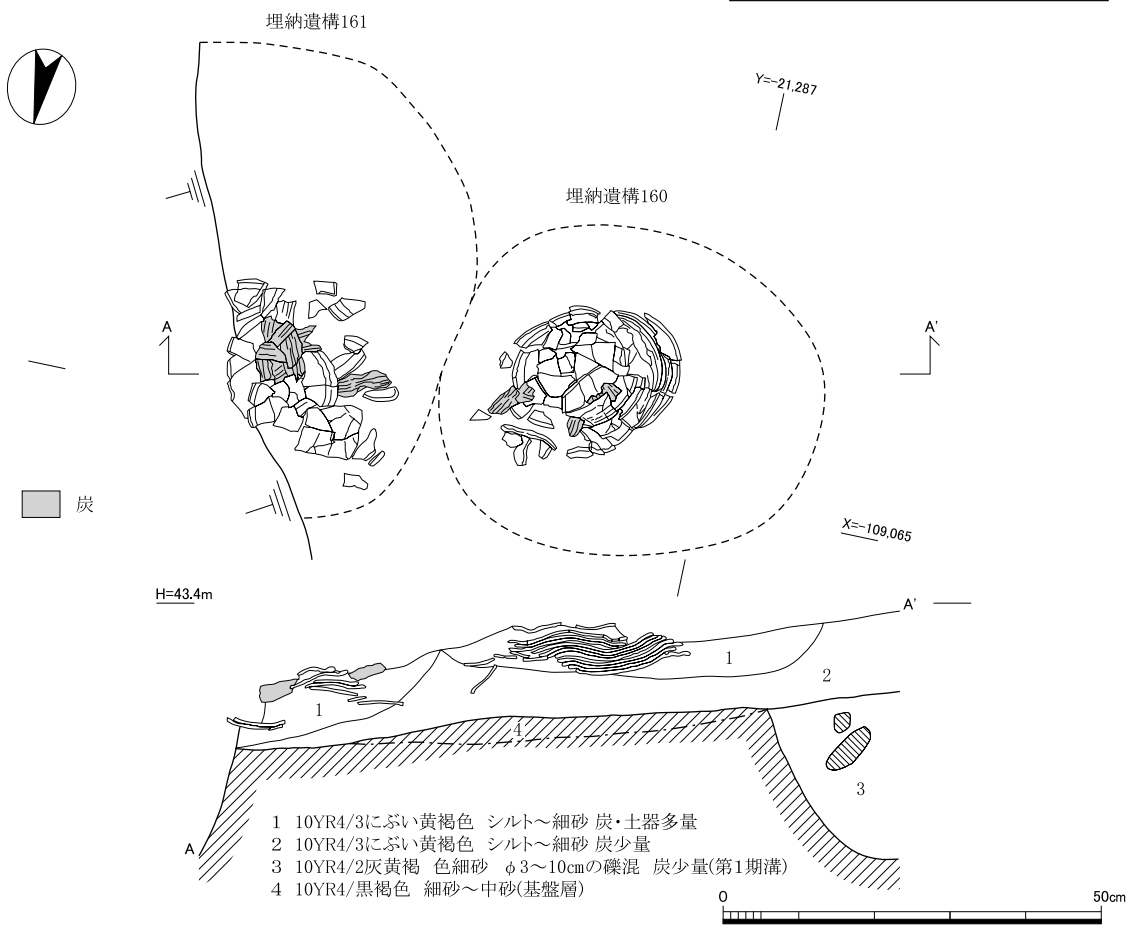
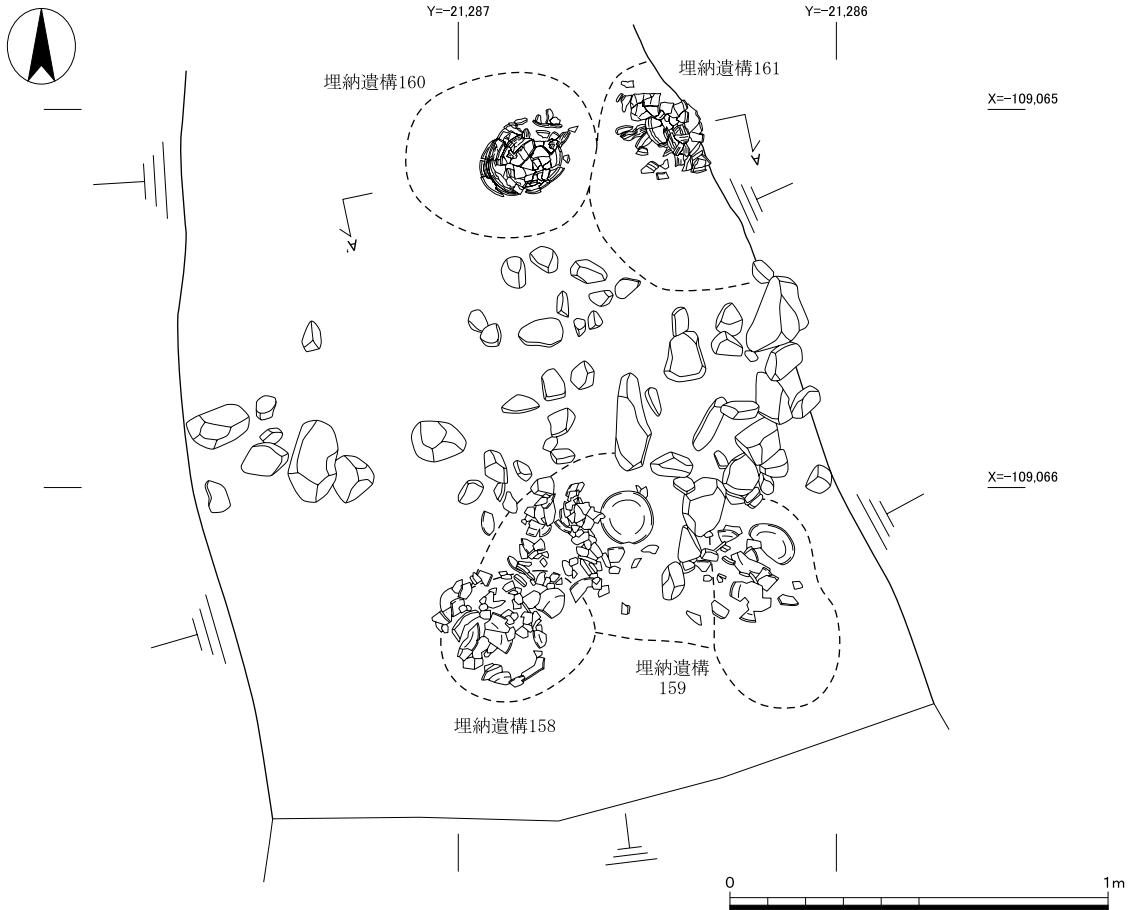


図9 埋納遺構実測図 (1 : 20、1 : 10)

認できた。それより上は人為的に埋められたものと考えられ、遺物を多量に含む。位置的にみて、東京極大路西側溝として機能した溝である可能性がある。

溝291(図8) 南半東寄りで検出した南北方向の溝である。検出長約15.0m、幅0.3~0.5m、深さは0.25~0.3mある。断面形は逆台形を呈し、底部の標高は南が北よりわずかに低い。埋土は礫が多量に混じる粗い砂で固く締まる(図12-10・11層)。この溝291より東側には礫混じりの固く締まる路面構築土が存在しないため、路面の東を限る溝である可能性がある。

埋納遺構158~161(図9、巻頭図版2、図版8) 中央、溝290の底付近で検出した。溝290が底から約0.1m埋まった段階で掘り込み、土器を納めた遺構である。4つのまとまりが捉えられた。南側の埋納遺構158・159は不整形で、完形の土師器皿と割れた土師器皿、径3~15cmの礫、炭が混じって埋まる。深さは0.1~0.2mある。北側の埋納遺構160は、平面円形で、径約0.5m、深さは約0.07mある。完形の土師器皿を正位置に12枚重ねて納める。炭が少量混じる。埋納遺構160東に接する埋納遺構161は、東半を攪乱されるが平面円形と考えられ、径約0.65m、深さは約0.1mある。完形に近い土師器皿数枚が裏向きに埋まり、炭が多量に混じる。炭は全てスギであった。

土坑163・168 北半東寄りで検出した。北側の土坑168は残存長が東西約0.2m、南北約0.2mで、東肩は2段に落ち、断面形は逆台形状を呈する(図5-40~45層)。深さは約0.7mあり、底面の標高は約42.9mである。埋土最下層は粘質の土に径3~15cmの礫が多量に混じる(43層)。土坑163は残存長が東西約1.5m、南北約4.0mで、断面系はU字状を呈し深さは約0.25mある。底面の標高は約42.8mである(図7-Aライン14層)。砂質の土に径5~20cmの礫が多量に混じる。この土坑163・168は、斜行して溝290と接続する可能性があるが、間に大規模な現代攪乱を挟み、根拠を欠く。

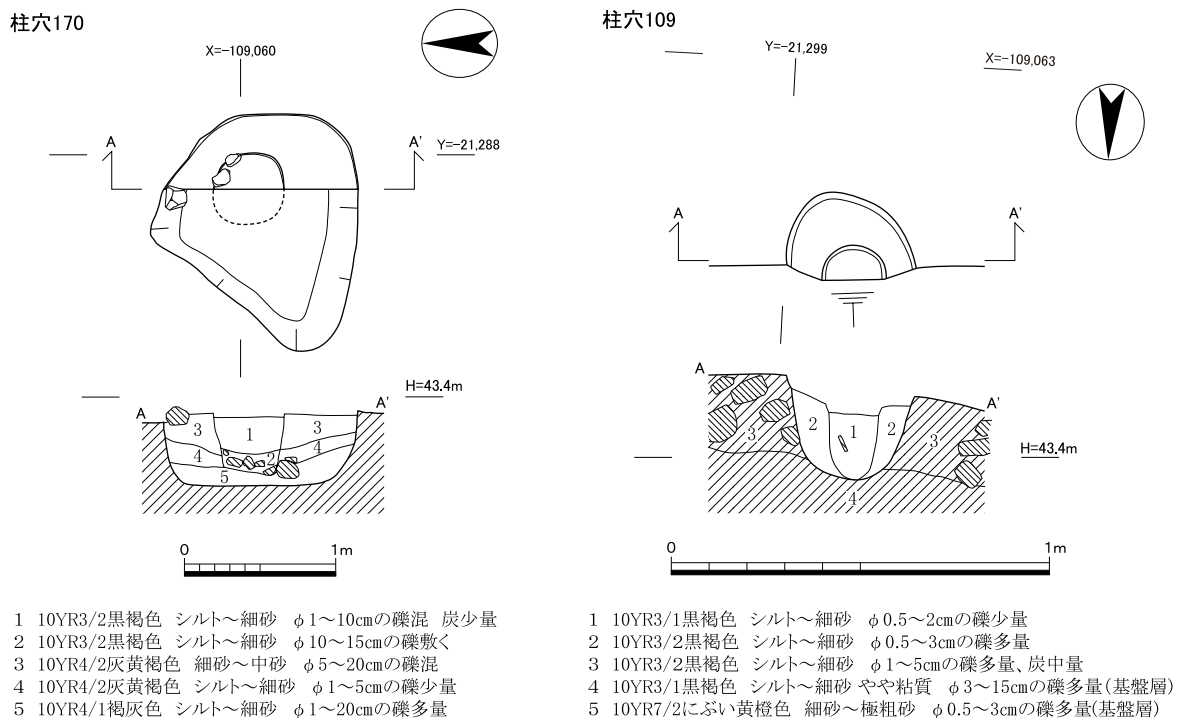


図10 柱穴170・109実測図(1:50、1:20)

柱穴170(図10) 中央北端で検出した。土坑と考え半裁したところ、断面で柱痕跡が認められ、柱穴と判明した。掘形の平面形は不整形で、東西長約1.55m、南北長約1.35m、深さは約0.5mある。柱痕跡は平面円形で、径約0.45m、深さは約0.4mある。底には径10～15cmの礫が敷かれている。東京極大路推定西築地心から東に約3mに位置し、東京極大路に関連する柱穴の可能性があるが、対となる柱穴は調査区内では検出されなかった。

柱穴109(図10) 北半西寄りで検出した。北半を攪乱されるが、平面円形と推測され、掘形の径約0.45m、深さは約0.25mある。柱痕跡の径は約0.15mある。

(4) 第3期(平安時代中期後半から後期)の遺構(図版3・9)

西半の宅地部分では柱列や多数の柱穴、土坑を検出した。東半では溝、礎石、東京極大路路面などを検出した。

路面Ⅲ(巻頭図版1) 東半で検出した。西端はY=-21,288ライン付近、東端はY=-21,280付近で確認した。検出幅は東西約8.0m、南北約25.5mある。上面の標高は北端で約43.8m、南端では43.7mで北から南に緩やかに低くなる。第2期の溝290、土坑163・168を埋めてさらに南半部では水平に土を積み重ね大規模な造成を行っている(図7-Bライン6～9層)。構築土の層厚は0.05～0.35mあり、最上面には径1～20cmの礫が敷き詰められ、非常に固く締まる(図7-Aライン8層、Bライン6層)。路面上にはピットや礎石が少数認められた。

溝144 北半東寄り、路面Ⅲ上で検出した南北方向の溝である。検出長約7.5m、幅0.3～0.4m、深さは0.35～0.4mある。断面形は方形で、埋土には礫を多量に含む(図5-39層)。

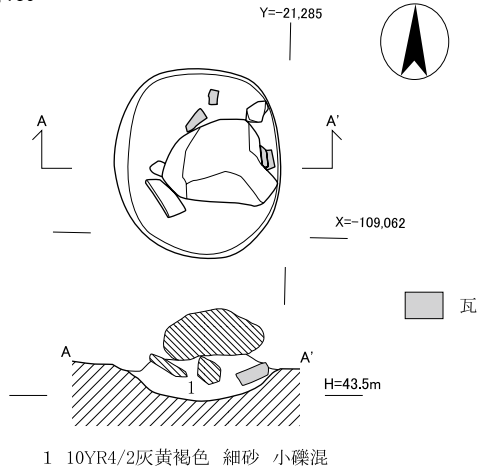
溝156(図11) 北半中央で検出した南北方向の溝である。検出長約1.1m、幅約1.6m深さは約0.4mある。断面形は東肩が浅く、2段に落ちる形状を呈する。東京極大路推定西築地心に近く、東京極大路に関連する溝である可能性がある。

礎石139(図11、図版10) 北半中央、路面Ⅲ上で検出した。掘形は平面円形で径約0.45m、深さは約0.1mある。径約0.1～0.2mの礫と軒瓦を根固めとして入れ、その上に径約0.3mの石を平らな面を上にして据える。石材は砂岩である。

柱列1(図11) 北半西寄りで検出した東西方向の柱列である。3間分を検出した。方位は北に対して約3度西に振れる。柱間は1.3～1.6mで不等間である。柱穴の掘形は、柱穴119が円形径約0.4m、深さは約0.2mある。他は隅丸方形で径0.3～0.5m、深さは0.25～0.3mある。いずれも柱痕跡は確認できなかった。

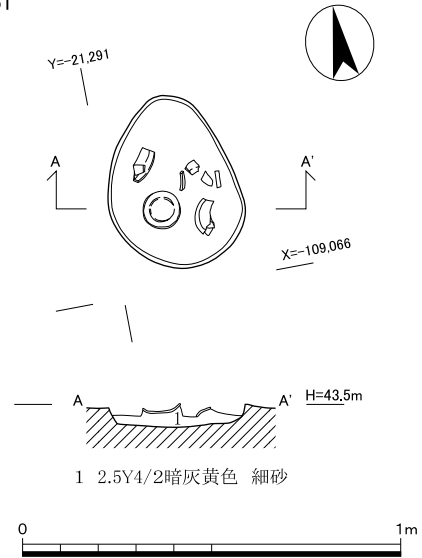
土坑150(図12、図版9) 北半中央で検出した。東と南を攪乱されるが、平面長方形と考えられる。検出長は東西約2.8m、南北約4.6m、深さは約0.3mある。埋土には径1～15cmの礫が多量に混じる。第3期の遺構面は、上面を平安時代後期の遺物を含む洪水層由来と考えられる砂層(図5-7層)に覆われており、その砂を除去した段階で土坑150部分が整地面より盛り上がった状態で検出された。また、土坑150付近ではスサの混じる焼けた壁土片が複数出土しており、掘込地業とその上に築かれた土壁構造をもつ構築物の基礎の可能性がある。完掘した底で土坑西端に並ぶ

礎石139



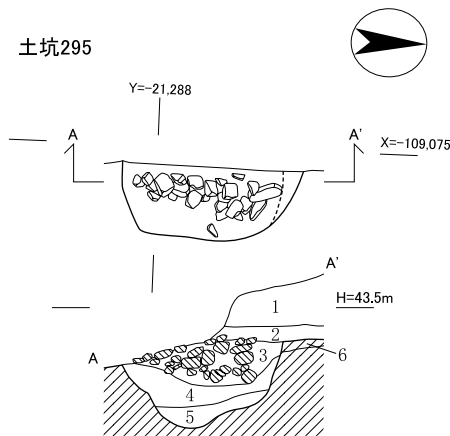
1 10YR4/2灰黄褐色 細砂 小礫混

土坑151



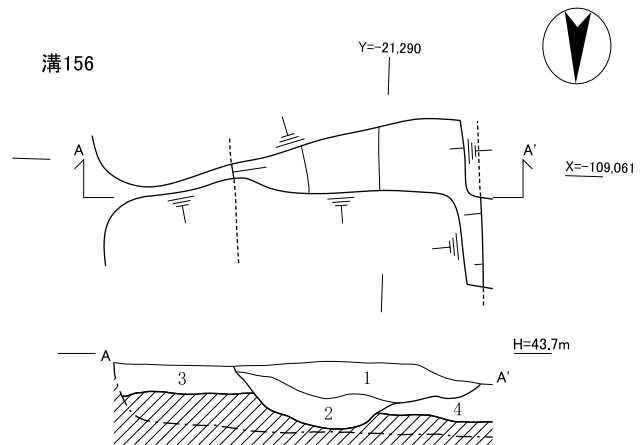
1 2.5Y4/2暗灰黄色 細砂

土坑295



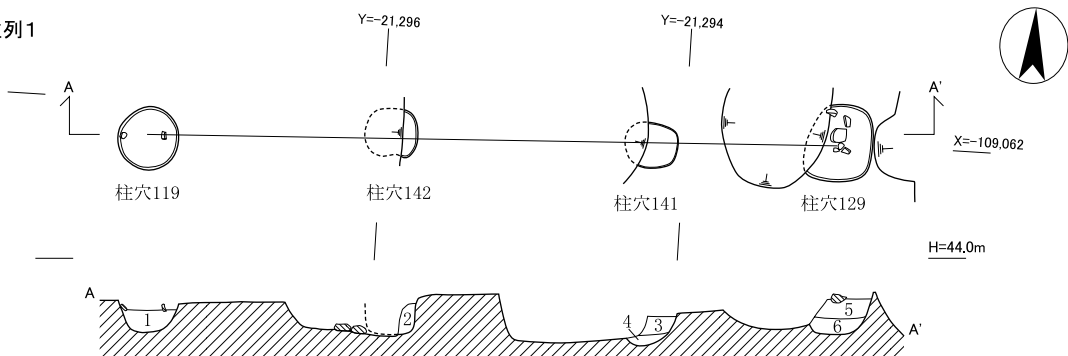
- 1 10YR3/1黒褐色 シルト～細砂 φ1～5cmの礫 炭少量
- 2 10YR3/2黒褐色 中砂～粗砂 φ1～5cmの礫多量
- 3 10YR2/1黒色 粘質シルト φ5～20cmの礫多量
- 4 10YR3/1黒褐色 粘質シルト～細砂 炭多量
- 5 10YR3/1黒褐色 粘質シルト～細砂 φ1～5cmの礫多量
- 6 10YR3/2黒褐色 シルト～細砂 φ3～10cmの礫混

溝156



- 1 10YR3/2黒褐色 シルト～細砂 小礫少量 土器片多量
- 2 10YR4/2灰黄褐色 中砂～極粗砂 φ1～4cmの礫多量
- 3 10YR4/1褐灰色 中砂～極粗砂 φ1～10cmの礫中量
- 4 10YR4/3にぶい黄褐色 シルト～細砂 φ1～5cmの礫多量 土器片多量

柱列1



- 1 10YR3/3暗褐色 シルト～細砂 φ1～2cmの礫混 炭少量
- 2 10YR3/3暗褐色 シルト～細砂 φ7～15cmの礫混 炭少量
- 3 10YR2/3黒褐色 シルト～細砂 極粗砂混
- 4 10YR2/2黒褐色 シルト～細砂
- 5 10YR2/3黒褐色 シルト～細砂 φ3～10cmの礫多量



図11 礎石139、土坑151・295、溝156、柱列1実測図 (1:20、1:50)

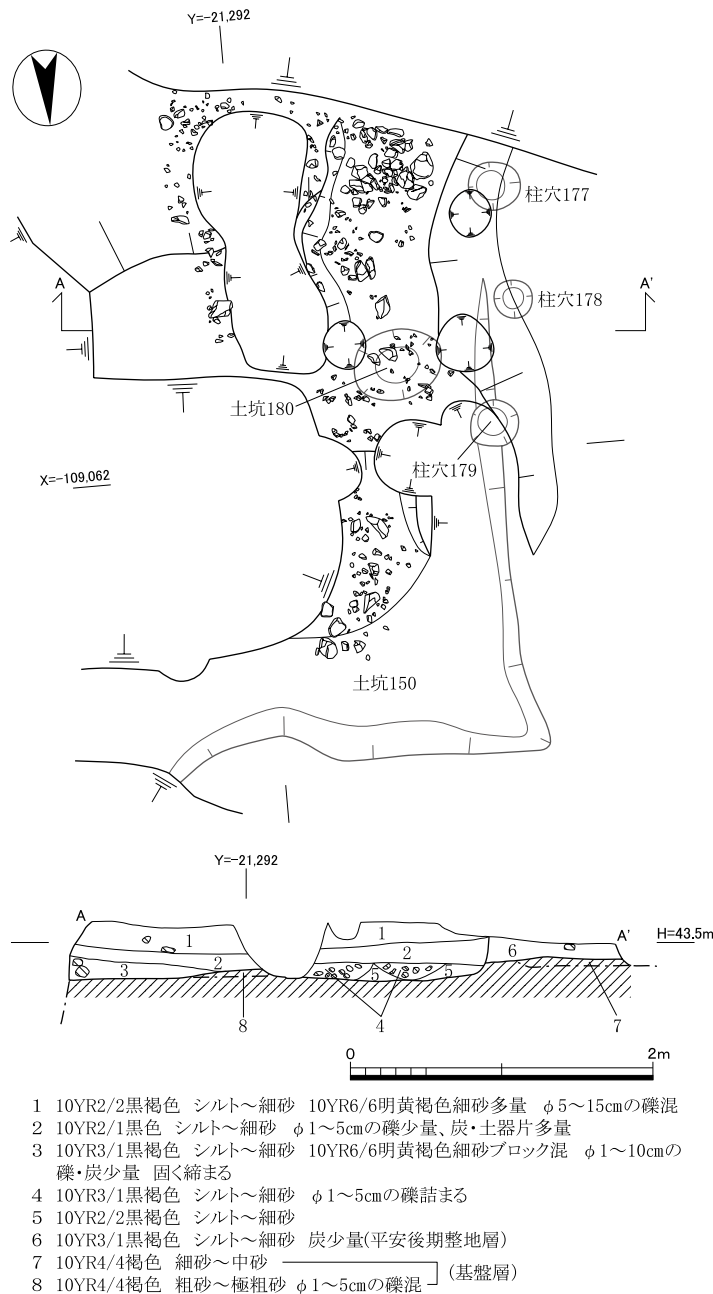


図12 土坑150実測図(1:50)

層に径5～20cmの礫が多量に詰まる(断面図3層)。

(5) 第4期(平安時代末から鎌倉時代)の遺構(図版4・10)

西半の宅地部分では三和土が確認でき、その上面で柱列や多数の柱穴を検出した。東半では集石遺構、溝群、掘立柱建物、柱列、東京極大路路面などを検出した。

路面Ⅳ(図版11) 東半で検出した。西端はY=-21,286.5ライン付近、東端はY=-21,280.5付近で確認した。検出幅は東西約5.5m、南北19.5mある。上面の標高は北端で約43.9m、南端でも43.9mでほぼ平坦である。構築土の層厚は0.1～0.35mあり、最上面には径0.5～10cmの礫が敷かれる(図7-Aライン4層、Bライン3層)。図7の断面図では路面Ⅲと路面Ⅳの層間には水平堆積

3基の柱穴177～179と土坑180を検出した。柱穴は平面円形で径0.25～0.3m、深さは0.1～0.25mある。土坑180は平面楕円形で長径約0.6m、深さは約0.2mある。いずれも時期を判別できる遺物が出土せず、土坑150に関連するものであるかは不明である。

土坑151(図11、図版10) 中央で検出した。平面不整形円で長径約0.45m、深さは約0.05mある。完形の土師器皿が正位置で出土した。埋納遺構の可能性はある。

土坑175(図版10) 北半西端で検出した。平面不整形円で長径約3.0m、深さは約1.8mある。中央部が1段低く、断面形は漏斗状を呈する。埋土は締まりの悪い径5～15cmの礫を含む細～粗砂で9世紀前葉～10世紀後葉の遺物を含む。井戸枳材の痕跡などは確認できなかった。

土坑295(図11) 南半西端で検出した。西半は調査区外へ延びる。平面形は隅丸方形と推測され、径約1.1m、深さは約0.6mある。上

が3層確認できることから、少なくとも2回以上の路面の修復が行われた可能性がある。

溝165・166・169・194 北半東寄りで検出した南北方向の溝群である。検出長1.5～8.5m、幅0.4～0.6m、深さは0.5～0.7mある。断面形は逆台形状を呈する(図5-47～52層)。これらは、後述する溝280・281・285・291・292・293・294・307のいずれかと接続する可能性が高いが、間に攪乱を挟み、根拠に欠ける。

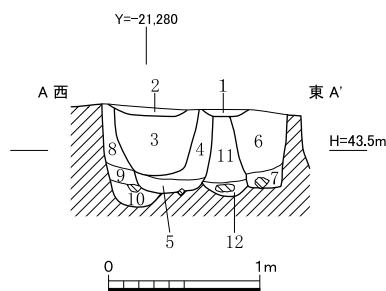
溝280・281・285・292・293・294・307(図13、図版11) 南半東寄りで検出した南北方向の溝群である。ほぼ同じ場所に何度も掘り代えを行ったものと考えられ、複雑に重複する。検出長は6.5～13.5m、幅0.3～0.55m、最後に掘られた溝280・281は浅く、深さ約0.05m、それ以外は深さ0.3～0.5mある。断面形は逆台形状を呈し、いずれも埋土には礫を含み固く締まる。これらは先述した溝165・166・169・194のいずれかと接続し、路面の東を限る溝である可能性が高い。完掘した底では後述する南北方向の柱列4を検出している。

掘立柱建物1(図14、図版11) 北半東端で検出した。東西2間、南北2間の小規模な掘立柱建物である。方位はほぼ正方位を向く。柱間は1.0～1.3mの不等間である。建物を構成する柱穴の掘形は隅丸方形のものと不整円形のものがあり、長径0.3～0.55m、深さは0.1～0.25mある。北側の柱穴132～134は柱痕跡が確認できた。柱痕跡から推測される柱径は約0.1mある。

柱列2(図14、図版11) 北半中央で検出した。北半西側では東西約4.5m、南北約4.5mの範囲に整地面の上に灰白色のシルト層を貼り固く敲き締まる三和土が確認でき(図版4)、その三和土を切り込む柱列である。東西1間分を検出した。柱間は約2.0mで、方位は北に対して西に約2度振れる。東側の柱穴80の掘形は平面楕円形で長径約0.4m、深さは約0.3mある。断面観察で径約0.2mの柱痕跡が確認できた。底には地下式の礎石が据えられ、最上面では完形の土師器皿が出土した。柱抜き取り後に置かれたものと考えられる。西側の柱穴86の掘形は平面円形と推測され、長径約0.6m、深さは約0.3mある。柱痕跡は確認できなかったが、底には地下式の礎石が据えられていた。

柱列3(図14) 北半中央、三和土を切り込む東西方向の柱列である。東西2間分を検出した。柱間は約0.9mの等間である。方位は北に対して約2度西に振れる。西端の柱穴84は長径約0.2mのチャートの礎石が三和土上に直接据わる。中央の柱穴97は平面円形で径約0.25m、深さは約0.1mある。東端の柱穴100は、径約0.3mの平面円形の掘形に長径約0.25mのチャートの礎石が据わる。

柱列4 南半東寄りで検出した南北方向の柱列である。推定9間分を検出した。柱間は0.7～0.9

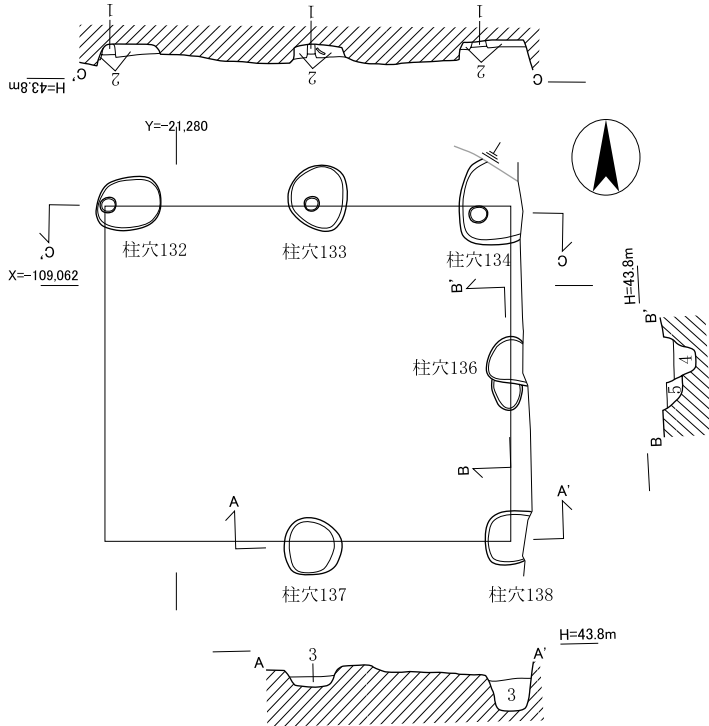


※断面ラインは図版4に記載

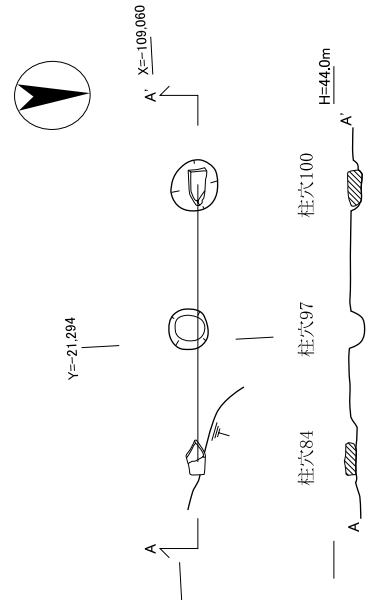
- 1 2.5Y4/2暗灰黄色 細砂(溝280)
- 2 2.5Y4/2暗灰黄色 細砂 φ1～5cmの礫少量(溝281)
- 3 2.5Y4/2暗灰黄色 細砂 φ3～5cmの礫少量(溝285)
- 4 10YR3 黒褐色細砂 φ1～10cmの礫多量
- 5 10YR3/1黒褐色 シルト～細砂やや粘質 φ1～5cmの礫中量 (溝292)
- 6 10YR5/2灰黄褐色 細砂 φ3cmの礫含む
- 7 10YR4/3にぶい黄褐色 細砂 φ3～5cmの礫多量 (溝293)
- 8 10YR4/2灰黄褐色 細砂 φ3cmの礫含む
- 9 10YR4/1褐灰色 細砂 (溝294)
- 10 10YR4/1褐灰色 細砂シルト混
- 11 10YR4/2灰黄褐色 細砂～中砂 φ1～5cmの礫中量
- 12 2.5Y3/2黒褐色 細砂 φ5～10cmの礫多量 (溝307)

図13 溝280・281・285・292・293・294・307 断面図(1:50)

掘立柱建物1

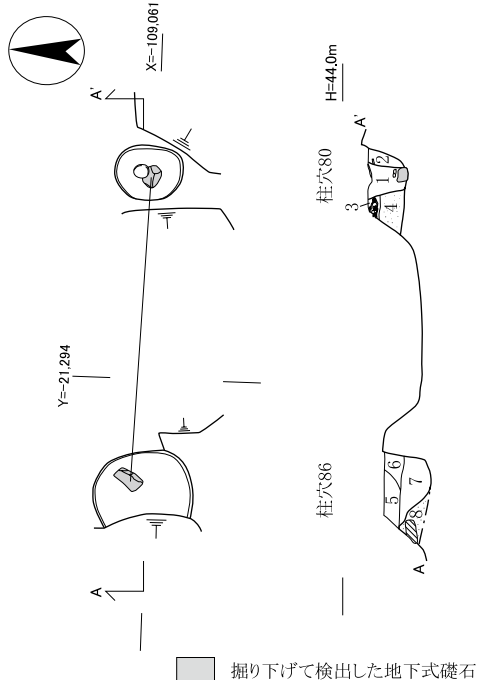


柱列3



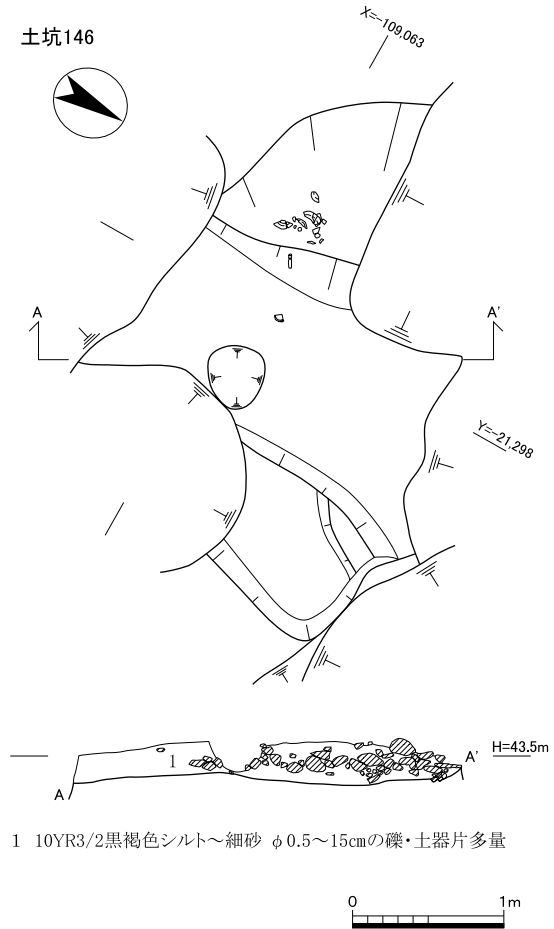
- 1 10YR2/1黒色 シルト～細砂 炭混 やや粘質
- 2 10YR3/2黒褐色 シルト～細砂に10YR7/6明黄褐色細砂ブロック多量
- 3 10YR3/2黒褐色 シルト～細砂 炭少量
- 4 10YR3/2黒褐色 シルト～細砂 炭微量
- 5 10YR3/3暗褐色 シルト～細砂 やや粘質

柱列2



- 1 10YR3/2黒褐色 シルト～細砂 φ1～4cmの礫少量
- 2 10YR5/3にぶい黄褐色 細砂～粗砂
- 3 10YR5/2灰黄褐色 シルト～細砂 土器片多量(平安未整地層)
- 4 10YR6/3にぶい黄橙色 細砂～中砂(平安後期砂層)
- 5 10YR3/2黒褐色 シルト～細砂 粗砂混
- 6 10YR4/2灰黄褐色 シルト～細砂
- 7 10YR4/1褐灰色 シルト～細砂 φ3～5cmの礫少量
- 8 10YR6/3にぶい黄橙色 細砂～極粗砂(平安後期砂層)

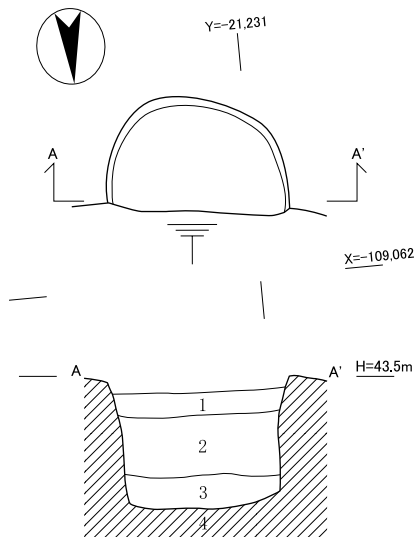
土坑146



- 1 10YR3/2黒褐色シルト～細砂 φ0.5～15cmの礫・土器片多量

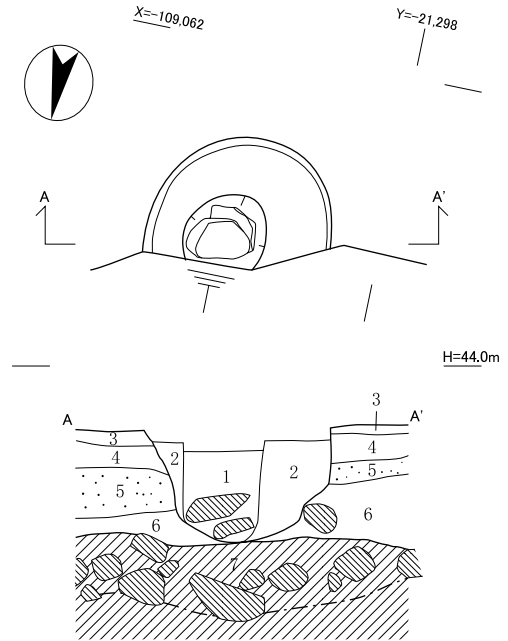
図14 掘立柱建物1、柱列2・3、土坑146実測図(1:50)

柱穴110



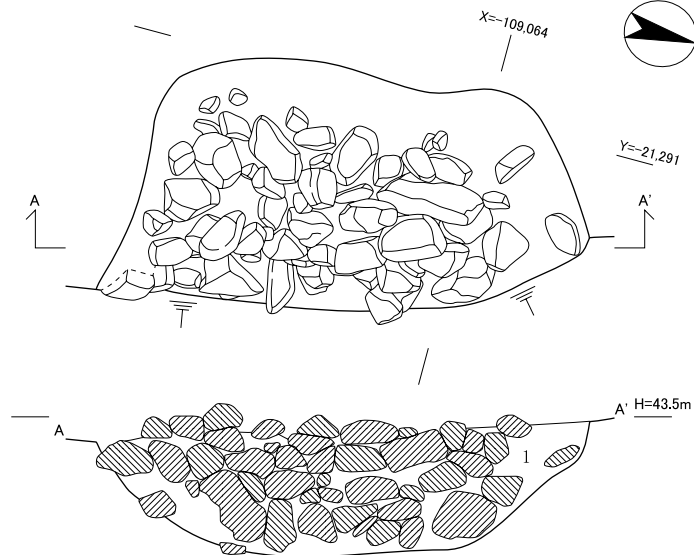
- 1 10YR4/2灰黄褐色 シルト～細砂 φ1～5cmの礫少量
- 2 10YR5/2灰黄褐色 細砂～粗砂 φ1～3cmの礫中量
- 3 10YR4/3にぶい黄褐色 シルト～細砂
- 4 10YR3/1黒褐色 シルト～細砂 やや粘質 φ3～15cmの礫多量(基盤層)

柱穴108



- 1 10YR2/2黒褐色 シルト～細砂
- 2 10YR3/3暗褐色 シルト～細砂 粗砂混
- 3 10YR5/3にぶい黄褐色 シルト～細砂
- 4 10YR6/3にぶい黄橙色 細砂～中砂 土器片多量(平安末整地層)
- 5 10YR7/2にぶい黄橙色 中砂～極粗砂(平安後期砂層)
- 6 10YR3/2黒褐色 シルト～細砂 φ1～5cmの礫多量 炭中量
- 7 10YR3/1黒褐色 シルト～細砂 やや粘質 φ3～15cmの礫多量(基盤層)

集石15



- 1 10YR4/1褐灰色 シルト粘質 炭微量 φ3～25cmの礫詰まる



図15 柱穴108・110、集石15実測図 (1:20)

mの不等間である。柱掘形の径は0.2～0.35 mある。上部は先述した溝280・281・285・291・292・293・294・307に削平されており、残存深は全て0.1 m未満であった。

柱穴108・110・115 (図15、図版11) 北半西寄りで検出した柱穴群である。柱穴108は、掘形の平面形が円形で、径約0.5 m、深さは約0.3 mある。柱痕跡から推測される柱径は約0.2 mあり、柱痕跡の底には地下式礎石が2石重ねて据えられていた。石材は砂岩である。柱穴110は、掘形の平面形は不整円形で、径約0.5 m、深さは約0.35 mある。柱痕跡は確認できなかった。柱穴115は、掘形の平面形は不整円形で長径約0.55 m、深さは約0.25 mある。掘形の北東角で柱当たりを検出した。径約0.2 m、深さは約0.05 mある。

集石15 (図15、図版11) 北半中央で検出した。東半は攪乱により失われるが、平面形は不整円形と推測され残存径は約1.3 m、深さは約0.35 mある。埋土には径3～25 cmの礫が詰まる。礎石据え付け穴の可能性はあるが、調査区内では対となる遺構を検出できなかった。

土坑90 北半中央で検出した。不整円形の土坑で径約0.8 m、深さは約0.4 mある。断面形は半円形状を呈する。埋土は2.5Y3/3暗オリーブ褐色の細砂で、土器片がまとまって出土した。

土坑146 (図14) 北半西寄りで検出した。不整形な土坑で、検出幅は東西約3.0 m、南北約2.5 m、深さは約0.25 mある。埋土には径0.5～15 cmの礫とともに多量の土器片や金属製品が混じる。

(6) 第5期 (室町時代) の遺構 (図版5・12)

西半では礎石、集石、土坑などを検出した。東半では溝、柱列、集石、東京極大路路面などを検出した。

路面V (図版12) 東半で検出した。西端はY= -21,285.5ライン付近、東端はY= -21,280付近で確認した。検出幅は東西約5.5 m、南北26.0 mある。上面の標高は北端で約44.0 m、南端で約44.0 mで、ほぼ平坦である。構築土の層厚は0.05～0.15 mあり、最上面には径0.5～10 cmの礫が敷かれる (図7-Aライン3層、Bライン1層)。図7の断面図では路面IVと路面Vの層間には水平堆積が2層確認でき、少なくとも1回以上の路面の修復が行われた可能性がある。

溝101 北半東寄り、路面V上で検出した南北方向の溝である。検出長約3.3 m、幅約0.4 m、深さは約0.2 mある。断面形は半円形状を呈する。埋土は10YR4/3にぶい黄褐色の細砂である。

溝231 南半西端で検出した南北方向の溝である。西肩は調査区外へ延びる。南半で、現代攪乱によって、東肩が削平され底部のみが残る。検出長は約12.5 m、検出幅は約1.0 m、深さは約0.7 mある。底の標高は北端で約43.3 m、南端で43.2 mあり北から南に低くなる。埋土は最下層が10YR4/1褐灰色のシルトで溝機能時の堆積と考えられ、一部グライ化する。15世紀代の遺物を含む。上層は10YR3/1黒褐色シルト～細砂で径3～15 cmの礫を多量に含む。第5期段階の東京極大路西側溝の可能性はある。

溝274 南半東寄りで検出した南北方向の溝である。検出長約7.0 m、幅約0.5 m、深さは約0.2 mある。断面形は半円形状を呈する。埋土は2.5Y4/2暗灰黄色のシルト～細砂で径1～2 cmの礫を含む。

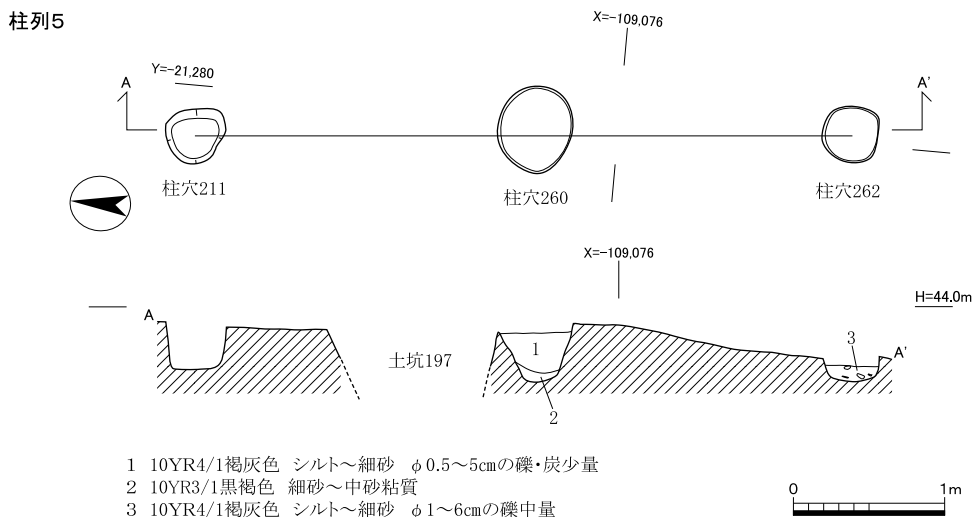


図16 柱列5実測図（1：50）

集石17 北半中央西寄りで検出した。東西約0.7m、南北約1.2m、深さは約0.5mある。断面形はU字状を呈する。埋土は10YR3/1黒褐色の粘質シルトで径5～15cmの礫が詰まる。

集石230 南半西寄り、路面V上で検出した。東半は攪乱されるが、平面円形と推測され、径約0.7m、深さは約0.05mある。径5～15cmの礫が平坦面を上にして詰まる（図7-Bライン14層）。

柱列5（図16） 南半東寄りで検出した南北方向の柱列である。南北2間分を検出した。方位は北に対して約4度西に振れる。柱間は約2.1mの等間である。柱掘形の平面形は不整円形で、径0.35～0.4m、深さは0.15～0.4mある。

礎石60・61・62 北半中央で検出した。15世紀の整地層上に据えられた礎石群である。礎石60は径約0.4mの石の上に径約0.3mの石が乗る。いずれも平坦面を上にして据わる。石材はいずれも砂岩である。礎石61は径約0.3mのチャートが平坦面を上にして据わる。礎石62は径約0.3m、深さ約0.1mの円形掘形の中に径0.1～0.2mの石材3石が据わる。この上に礎石が据えられていたと考えられる。

土坑54 北半西端で検出した大規模土坑である。東肩のみを検出し、南北と西端は調査区外に延びる。検出長は東西約5.0m、南北約8.0mあり、深さは深い所で約0.6mある。埋土から多量の土師器皿や石製品が出土した（図5-21～25層）。廃棄物処理土坑の可能性はある。

土坑91（図17） 北半西寄りで検出した。平面形は隅丸方形を呈し、東西長約1.2m、南北長約1.2m、深さは約0.2mある。中央やや北寄りに径約0.4mの石が平坦面を上に向けて据わる。石材は砂石である。礎石の可能性はある。

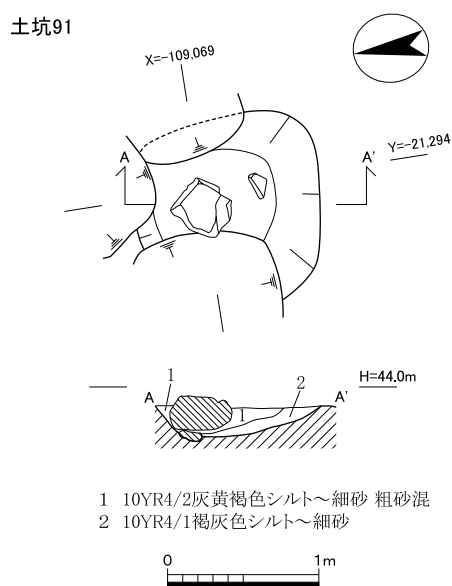


図17 土坑91実測図（1：50）

土坑200 南半東寄り、路面V上で検出した。東西長約1.3m、南北幅約0.5m、深さは約0.4mある。埋土は2.5Y4/2暗灰色のシルト～細砂に径8～18cmの礫を多量に含む。

(7) 第6期（桃山時代から江戸時代）の遺構（図版6・13）

石室、井戸、水溜、溝、土坑などを検出した。町屋に関連する遺構群と考えられる。水溜は井戸と同じ円形石組遺構であるが、底部が湧水層に達しないため、水を溜めるための遺構と判断した。時期は16世紀後半から19世紀までのものがある。井戸と水溜はX=-109,060ラインを中心に東西に、Y=-21,285.5ラインを中心に南北に並んで検出した。

石室67（図版13） 北半東端の壁際で検出した。東半は調査区外に延び、南半は攪乱を受ける。掘形は東西2.0m以上、南北は約2.0mある。底は南側が一段下がり（図5-68層）、検出面からの深さは北半で約0.5m、南半で約1.0mある。北半は5段分の石組が残る。埋土には崩れた石が詰まる。石の径は0.1～0.25mある。18世紀代の遺物が出土した。

石室220 北半東寄りで検出した。北と東西は攪乱を受け、南側の石組の2～3段分が一部残る。残存長は東西約1.5m、南北約1.3m、深さは検出面から約0.35mある。石の径は0.2～0.35mある。17世紀代の遺物が少量出土した。

井戸23 北半北東部で検出した。井戸24に削平される。円形石組井戸で、掘形の直径は約1.3mある。石組部分は内法で径約0.9mある。標高42.5mまで掘り下げたが、底は検出できていない。石材はチャート、砂岩が主体となる。石の大きさは径0.1～0.2mある。埋土から18世紀後半代の遺物が出土した。

井戸24 井戸23の西で検出した。埋土に径0.2～0.4mの石が多量に混じり、円形石組井戸であったと考えられる。掘形の直径は約1.4mある。標高42.5mまで掘り下げたが、底は検出できていない。埋土から19世紀代の遺物が出土した。

井戸102 北半西寄りで検出した。底で方形の木枠の痕跡を確認した。円形石組井戸であったと考えられるが、石抜き取りの際に壁が壊され、東壁上端が拡がり、西壁は抉られ、平面は歪な楕円形を呈する。上端で東西約2.2m、南北約1.6m、深さは検出面から約1.5mある。底の標高は約42.4mである。埋土から17世紀前半代の遺物が出土した。木枠痕跡は平面長方形で東西約0.55m、南北約0.4m、深さは約0.3mある。底から軟質施釉陶器の香炉が出土した。

井戸221 南半西寄りで検出した。埋土に径0.2～0.4mの石が混じり、円形石組井戸であったと考えられる。掘形の直径は約2.1mある。標高42.2mまで掘り下げたが、底は検出できていない。埋土から18世紀代の遺物が出土した。

井戸222 南半西寄りで検出した。円形石組井戸であったと考えられる。掘形の直径は約1.9mある。標高42.2mまで掘り下げたが、底は検出できなかった。埋土から18世紀後半代の遺物が出土した。

井戸223 南半西寄りで検出した。円形石組井戸であったと考えられる。掘形の直径は約1.6mある。標高42.2mまで掘り下げたが、底は検出できなかった。埋土から18世紀代の遺物が出土し

た。

井戸224 中央で検出した。東半は現代攪乱に削平される。円形石組溝で、3段分の石組のみが残る。掘形の直径は約2.0mある。石組部分は内法で径約0.8m、深さは検出面から約1.8mある。底の標高は約42.18mである。石材は花崗岩が主体でチャート、砂岩が混じる。石の大きさは径0.2～0.35mある。埋土から18世紀代の遺物が出土した。

水溜16 北半西寄りで検出した円形の石組遺構である。掘形の直径は約1.1mで、石組部分は外法径が約1.0m、内法径が約0.6mある。深さは検出面から約0.6mで、底の標高は約43.4mである。石組みの石材は花崗岩、チャート、砂岩が混在する。石の大きさは径0.1～0.3mある。埋土から19世紀代の遺物が出土した。

水溜22 北半東寄りで検出した円形の石組遺構である。南側は現代攪乱、東側は井戸24に削平される。掘形の直径は約1.0mと推測される。石組部分は外法径が約0.7m、内法径が約0.55m、深さは約0.5mある。底の標高は約43.1mである。石組の石材はチャート、砂岩に花崗岩が少量混じる。石の大きさは径0.1～0.25mある。埋土から18世期末～19世紀初頭の遺物が出土した。

水溜66 (図版13) 北半東寄りで検出した隅丸方形の石組遺構である。掘形は東西約1.2m、南北約1.25mある。深さは検出面から約0.4mあり、底の標高は約43.5mである。北東部のみ石組が残る。石材はチャートと砂岩が主体となり、大きさは径0.1～0.2mある。埋土から18世紀代の遺物が出土した。

集石26 北半西寄りで検出した。南半は攪乱を受ける。平面円形で径約1.0m、深さは約0.35mある。径0.05～0.1mの礫が詰まる。16世紀末～17世紀初頭の遺物が出土した。

土坑1 北半東端で検出した。平面形は隅丸長方形を呈し、東西長約1.2m、南北長約1.4m、深さは約0.4mある。底は平坦で断面形は方形を呈する。埋土から18世紀後半の遺物、炭、貝殻が多量に出土した。

土坑2 北半東端で出土した。平面形は歪な隅丸長方形で、東西長約1.7m、南北長約1.0m、深さは約0.4mある。底は平坦で断面形は逆台形状を呈する。埋土から18世紀後半の遺物、炭化物、貝殻が多量に出土した。

土坑196 南半東寄りで検出した。現代攪乱に削平され、平面形は不整円形を呈する。残存径は約1.5m、検出面からの深さは約1.0mある。断面形状はU字状を呈する。埋土から17世紀前半の遺物が出土した。

土坑197 土坑196の南東で検出した。平面形は不整円形を呈する。径約1.5m、深さは検出面から約1.5mある。断面形はU字状を呈する。埋土から17世紀中葉の遺物が出土した。

溝239 南半西寄りで検出した南北方向の溝である。Y=-21,285.5ラインに並ぶ井戸群に削平される。検出長約13.3m、幅0.4～0.7m、深さは検出面から約0.2mある。底の標高は北端で約43.8m、南端では約43.7mで南が北よりわずかに低い。埋土から16世紀後半の遺物が出土した。

2. 遺物

調査では、整理コンテナにして111箱の遺物が出土した。出土遺物には、土器・陶磁器類、土製品、瓦類、金属製品、銭貨、石製品がある。全体の約9割を土器・陶磁器類が占め、それ以外は微量である。遺物の帰属時期は、弥生土器が1片あるほかは、平安時代から江戸時代までのものである。江戸時代の遺物が最も多く約4割を占め、次いで平安時代中期、室町時代後期の遺物がそれぞれ約2割を占める。平安時代前期と室町時代前期の遺物は微量である。

以下では、主要な遺構から出土した遺物について種別に概要を述べる。なお、土器類・土製品、瓦類の個別の詳細については表5・6にまとめた。

(1) 土器類 (図18～26、図版14～19、表5)

墨書土器 (図18) 調査中に出土した墨書がある土器をまとめた。共伴する土師器皿などから5点全て、京都Ⅲ期中段階、10世紀後葉のものと考えられる。

1は内黒の²⁾黒色土器碗である。底部に墨書があり「大師」と読める³⁾。2は近江系の緑釉陶器碗である。底部に墨書があり「東」と読める。3～5は灰釉陶器碗である。3・4の墨書は判読できない。5は「上斬」と読める⁴⁾。

路面Ⅰ構築土 (図19) 少量の土師器、須恵器が出土した。京都Ⅰ期新段階に属する資料と考える。

6は土師器の碗である。外面はヘラケズリする。7は土師器の杯である。外面下半をヘラケズリする。8～10は土師器皿で、口径は19.4～20.5cmある。11は須恵器の杯Aである。

表2 1・2区 遺物概要表

時代	内容	コンテナ箱数	Aランク点数	Bランク箱数	Cランク箱数
弥生時代	土器				
平安時代	土師器、須恵器、黒色土器、白色土器、灰釉陶器、緑釉陶器、瓦器、輸入陶磁器、土製品、壁土、瓦類、石製品、銭、金属製品		土師器80点、須恵器15点、黒色土器5点、白色土器2点、灰釉陶器23点、緑釉陶器22点、瓦器6点、輸入陶磁器13点、土製品2点、瓦30点、石製品3点		
鎌倉時代	土師器、須恵器、瓦質土器、輸入陶磁器、瓦類、銭、金属製品		土師器17点、須恵器1点、瓦質土器1点、輸入陶磁器1点、瓦4点、銭貨34点、金属製品2点		
室町時代	土師器、取鍋、瓦質土器、焼締陶器、施釉陶器、輸入陶磁器、瓦類、石製品		土師器41点、取鍋1点、瓦質土器3点、施釉陶器1点、輸入陶磁器1点、瓦2点、石製品2点、銭貨2点		
桃山時代～江戸時代	土師器、瓦質土器、焼締陶器、軟質施釉陶器、施釉陶器、磁器、輸入陶磁器、土製品、瓦類、石製品、銭貨、金属製品、骨、貝殻		土師器54点、瓦質土器2点、焼締陶器17点、軟質施釉陶器1点、施釉陶器31点、輸入陶磁器5点、土製品4点、瓦2点、銭貨8点		
合計		142箱	438点 (28箱)	3箱	111箱

※ コンテナ箱数の合計は、整理後、遺物を抽出したため、出土時より31箱多くなっている。

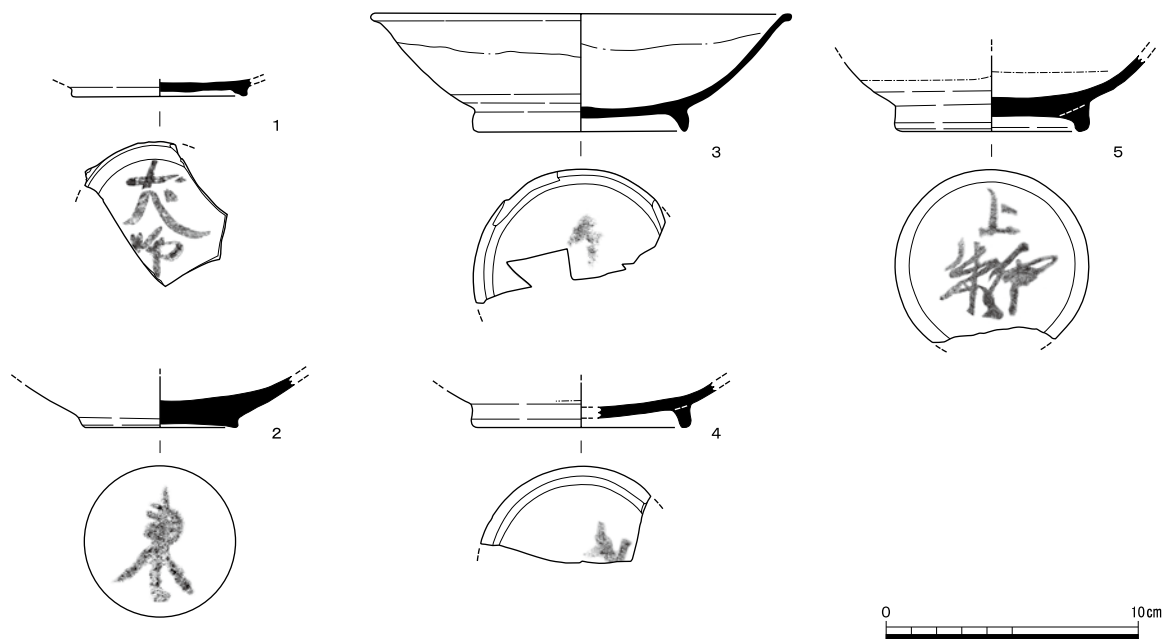
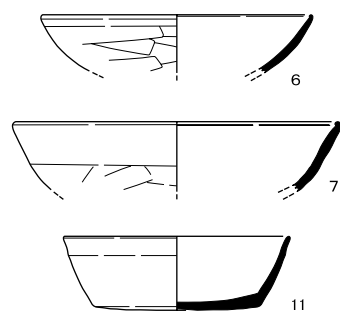


図18 墨書土器実測図（1：3）

路面 I 構築土



ピット74

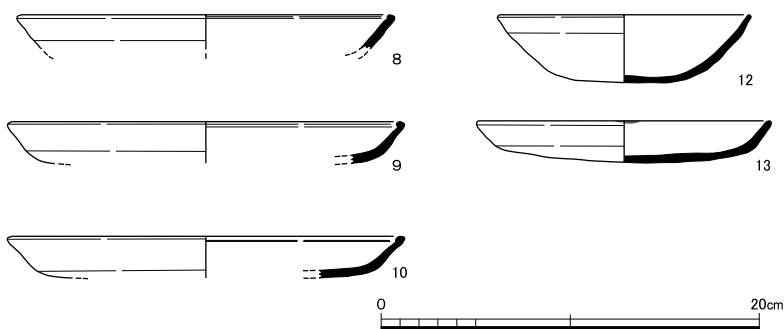


図19 路面 I 構築土、ピット74出土土器実測図（1：4）

ピット74（図19） 土師器が2点出土した。京都Ⅱ期中段階に属する資料である。

12は椀、13は皿である。外面はいずれもナデで仕上げる。13の口縁部には煤が付着する。

埋納遺構160（図20、図版14） 土師器皿が12枚重なって出土した。京都Ⅲ期中段階に属する資料である。

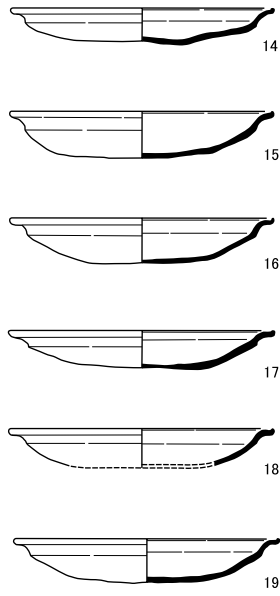
14～25はその12枚全てである。全ていわゆる「て」の字状口縁の皿で、口径は13.7～14.6cmの間に分布する。

埋納遺構159（図20、図版14） 多量の土師器皿とともに須恵器、灰釉陶器、緑釉陶器が少量出土した。京都Ⅲ期中段階に属する資料である。

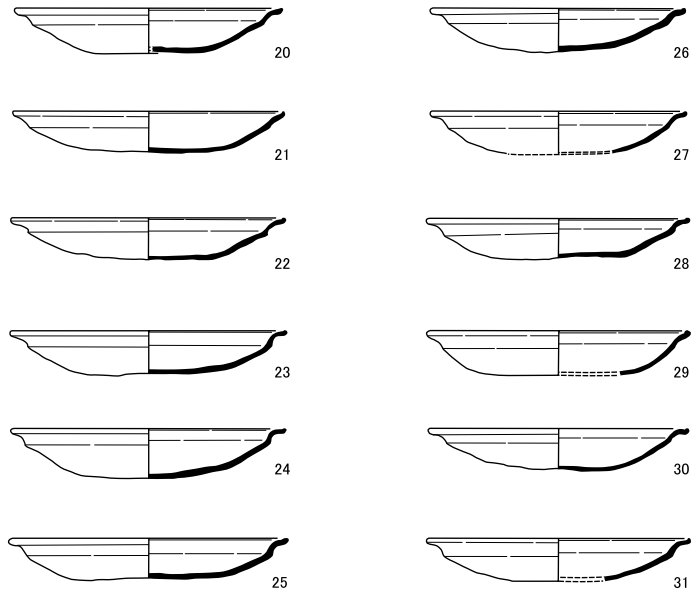
26～31は、いわゆる「て」の字状口縁部の土師器皿である。口径は13.4～13.7cmの間に分布する。

溝290（図20） 土師器皿・高杯・甕・鍋・盤、黒色土器椀・鉢・甕、須恵器甕・壺、灰釉陶器椀・皿・壺、緑釉陶器椀・皿、白色土器椀・高杯、輸入陶磁器白磁・青磁、土馬、丸瓦・平瓦、鉄

埋納遺構160



埋納遺構159



溝290

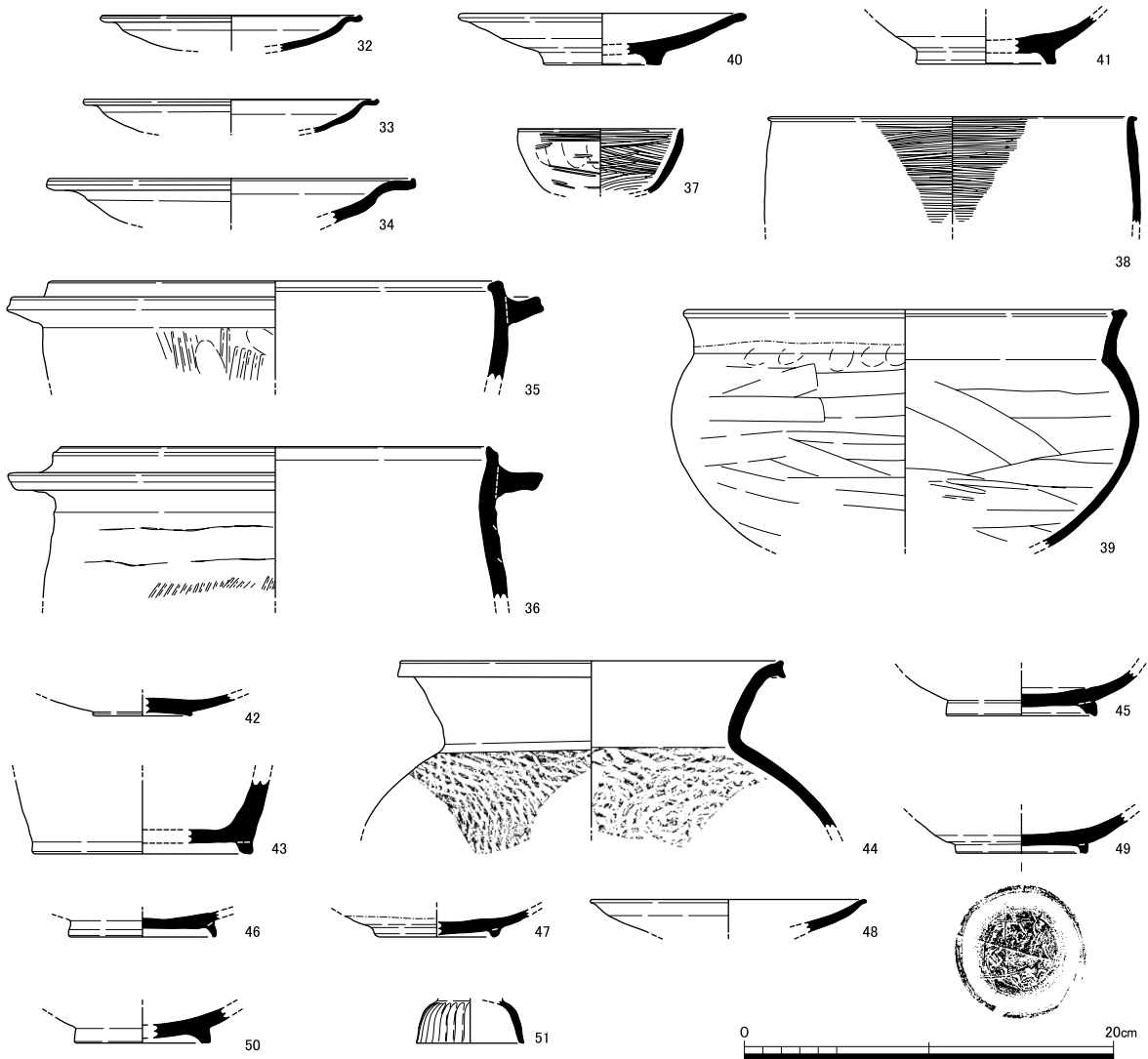


图20 埋納遺構159・160、溝290出土土器実測図(1:4)

釘などが出土した。京都Ⅲ期中段階に属する資料である。

32・33は、いわゆる「て」の字状口縁の土師器皿である。口径は14.0と15.9cm。34は土師器高杯の杯部である。35・36は土師器の羽釜である。外面にはタタキ状の痕跡が残る。

37～39は黒色土器である。37は両黒の椀で、外面は下半ヘラケズリ、上半ユビオサエののち疎なヘラミガキを施す。内面は密なヘラミガキを施す。38は両黒の鉢で、内外面ともに非常に密なヘラミガキを施す。39は甕で、口縁部両面と体部内面が黒色化する。体部内面は板ナデで、下半部にわずかにヘラミガキの痕跡が認められる。外面はヘラケズリを行う。口縁部はヨコナデで仕上げる。体部外面には煤が付着する。

40・41は白色土器である。40は皿、41は椀である。いずれも削り出し高台である。

42～44は須恵器である。42は須恵器皿で削り出しの平高台である。43は壺底部、44は甕である。43は内面に漆の塊が付着し、漆壺と考えられる。

45は緑釉陶器椀である。焼成は軟質で貼り付けの有段輪高台をもち、近江系と考えられる⁵⁾。

46～49は灰釉陶器の皿である。46・47・49は底部で、貼り付け輪高台をもつ。高台断面形は46・47が三角形、49は方形である。49の底部には「A」字を2つ並べたような窯印が刻まれる。

50・51は輸入陶磁器である。50は越州窯系の青磁椀、51は施釉磁器で外面型押し成形で全面に黄色系の釉薬がかかる。合子の蓋などの可能性がある。

路面Ⅲ構築土（図21、図版14・15） 土師器皿・高杯・甕・羽窯・鍋、黒色土器椀、須恵器蓋・鉢・甕、灰釉陶器椀・皿・盤・壺、緑釉陶器椀、白色土器皿・高杯、輸入陶磁器白磁・青磁、円面硯、猿面硯、土錘、軒瓦、丸瓦、平瓦、石製帯飾具、銅製品などが出土した。京都Ⅲ期中段階から新段階の資料と考える。

52～61は「て」の字状口縁の土師器皿である。口径は11.7～16.5cmの間に分布する。62・63は土師器甕である。いずれも口縁端部を強くつまみあげる。

64は両黒の黒色土器椀である。内外面ともに密なヘラミガキを施す。

65～71は須恵器である。65は椀の底部で、削り出しの平高台である。66は鉢、67は壺、68は甕である。69は台付き盤の底部と考えられる。70は円面硯で方形透かしをもつ。71は猿面硯である。表面は同心円状の当て具痕をスリ消す。裏面はタタキをスリ消す。厚みは約1.8cmある。

72～79は緑釉陶器の貼り付け高台をもつ皿である。72～75は近江系、76～79は東海系である。80～85は緑釉陶器の貼り付け高台をもつ椀で、80～83が近江系、84・85が東海系のものである。85は輪花口縁をもつ。86～89は削り出し高台をもつ京都系緑釉陶器で、86は輪高台の椀、87・88は蛇の目高台の椀と皿、89は平高台の皿である。89の底部には「×」状の窯印が刻まれる。90は緑釉陶器の壺である。底部はヘラケズリで無釉、体外面は回転ヘラケズリのち施釉、内面は回転ナデで一部に釉が付着する。91・92は灰釉陶器の段皿である。92の内面には炭が付着し、また重ね焼きの痕跡が明瞭に残る。

93～100は灰釉陶器の椀である。100の底部には窯印が刻まれる。101は灰釉陶器壺である。二次焼成により火脹れし歪みが激しい。102は灰釉陶器の瓶子の頸部である。3条の沈線をめぐらす。

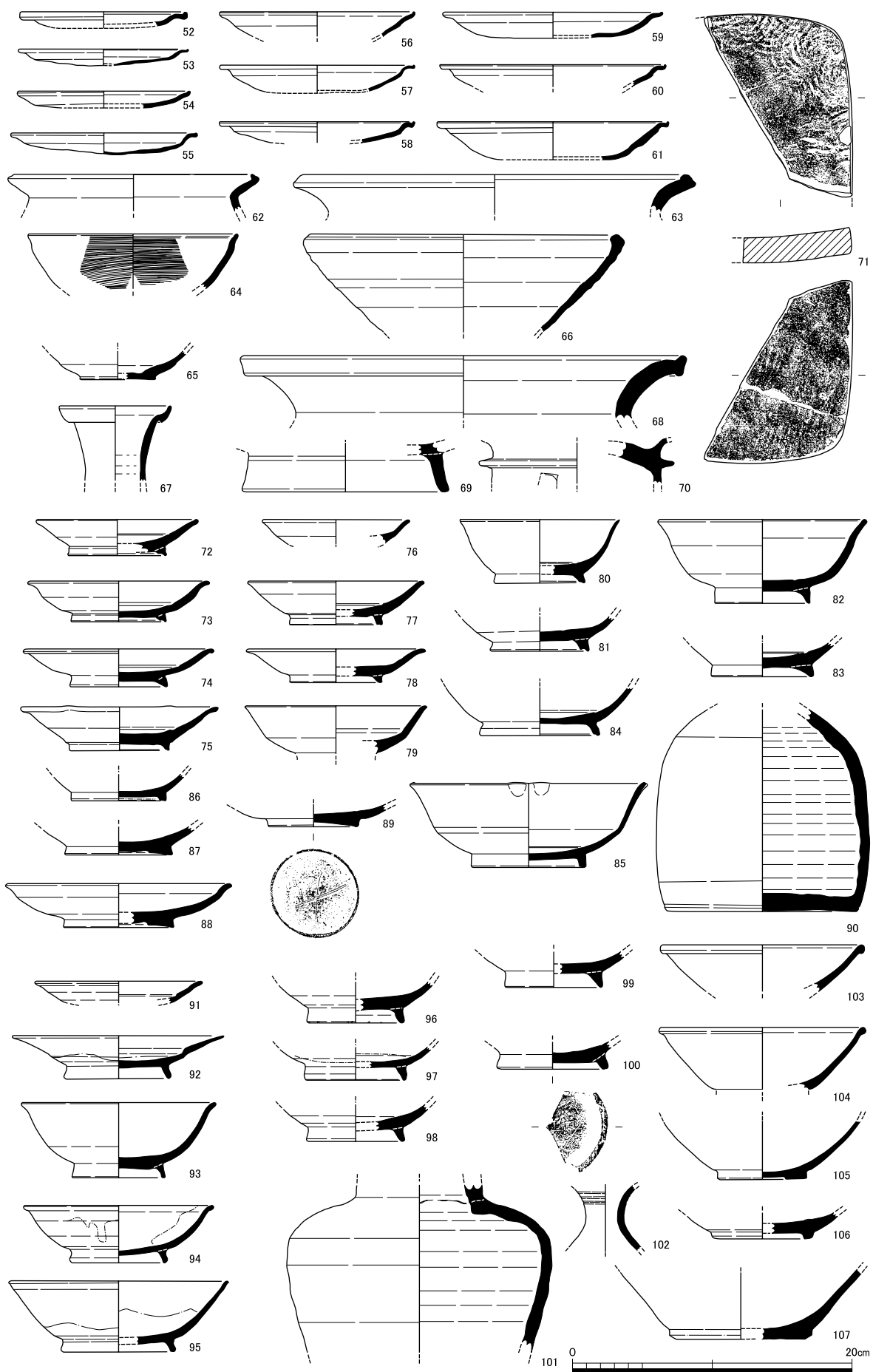


图21 路面Ⅲ構築土出土土器実測図（1：4）

103～105は輸入陶磁器の白磁碗である。口縁部が残存する103・104は大宰府の輸入陶磁器分類⁶⁾の碗Ⅰ－1類に該当する。106・107は越州窯青磁である。106は碗、107は鉢と考えられる。

土坑175(図22、図版15) 土師器皿・甕、須恵器甕・壺・鉢、緑釉陶器碗、灰釉陶器皿・壺、瓦器碗、輸入陶磁器白磁、平瓦、銭貨などが出土した。京都Ⅲ期新段階からⅣ期古段階に属する資料である。

108～112は「て」の字状口縁の土師器皿である。口径は9.9～10.8cmの間に分布する。113・114は土師器の杯である。口径は13.9と14.2cmに復元できる。115・116は土師器皿である。口径は15.0と16.0cmに復元できる。117・118は土師器甕である。

119は須恵器碗である。削り出しの平高台をもつ。120は須恵器の鉢である。貼り付けの断面三角形の輪高台である。121は須恵器壺である。口縁部内外面と体部外面上半には自然釉がかかり、高温焼成により焼締陶器のような焼きあがりとなっている。体部外面下半は平行タタキする。

122・123は灰釉陶器碗である。124は緑釉陶器の小碗である。近江系で焼成は軟質、貼り付けの輪高台をもつ。内面に漆膜が全面に付着する。

125～127は瓦器碗である。内外面ともに密なヘラミガキを施す。

土坑150(図22、図版16) 土師器皿・盤、須恵器壺・甕、瓦器碗、輸入陶磁器白磁碗・壺、軒丸瓦、軒平瓦、銭貨、壁土などが出土した。京都Ⅳ期新段階からⅤ期古段階に属する資料である。

128～130は「て」の字状口縁部の土師器皿で、口径は9.6～10.4cmの間に分布する。129は灯明皿として使用されている。131～135は土師器の小型皿である。口径は8.1～10.1cmの間に分布する。131は灯明皿である。136～141は土師器の大型皿である。口径は13.7～15.4cmの間に分布する。136～138は口縁部が外半するもの、139～141は口縁部が内弯するものである。

142・143は灰釉陶器系の碗である。いずれも底部内面に重ね焼きの痕跡が残る。

144は須恵器の壺である。二次焼成を受ける。全体をナデとオサエで仕上げ、粗雑なつくりである。

145・146は瓦器碗である。内外面ともに密なヘラミガキを施す。

147～150は輸入陶磁器の白磁碗である。147は碗Ⅰ－1類、底部内面にヘラ描き文のある150は碗ⅩⅢ類⁷⁾と考えられる

土坑151(図22) 土師器皿と須恵器の小片が出土した。京都Ⅴ期中段階に属する資料と考える。

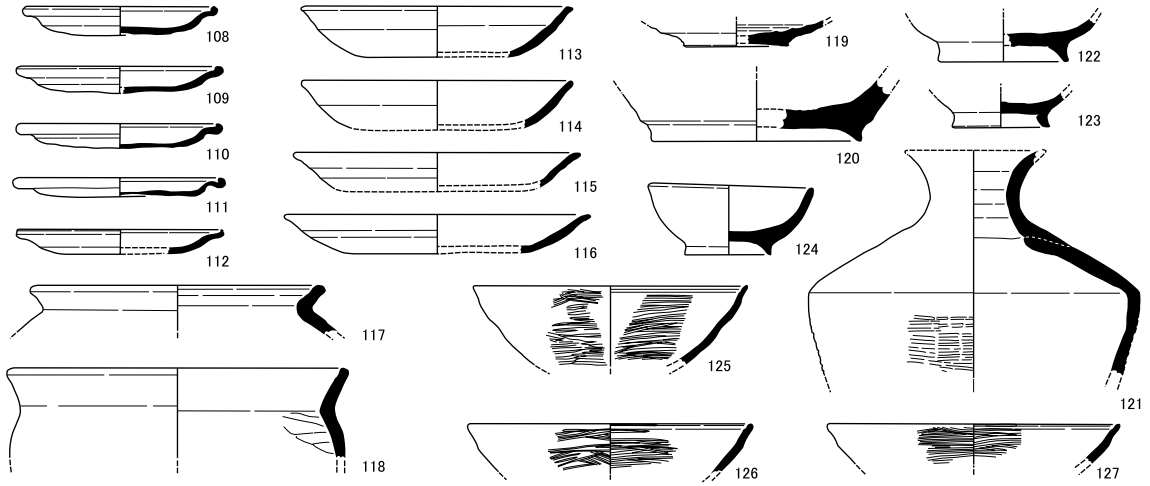
151・152は土師器小型皿である。151は完形で口径は9.8cm、152は口径10.0cmに復元できる。153は土師器大型皿である。口径は16.8cmに復元できる。

平安後期砂層(図22) 土師器皿、須恵器鉢・甕、瓦器碗、輸入陶磁器白磁・青磁、軒丸瓦、軒平瓦、鉄釘などが出土した。京都Ⅴ期中段階に属する資料である。

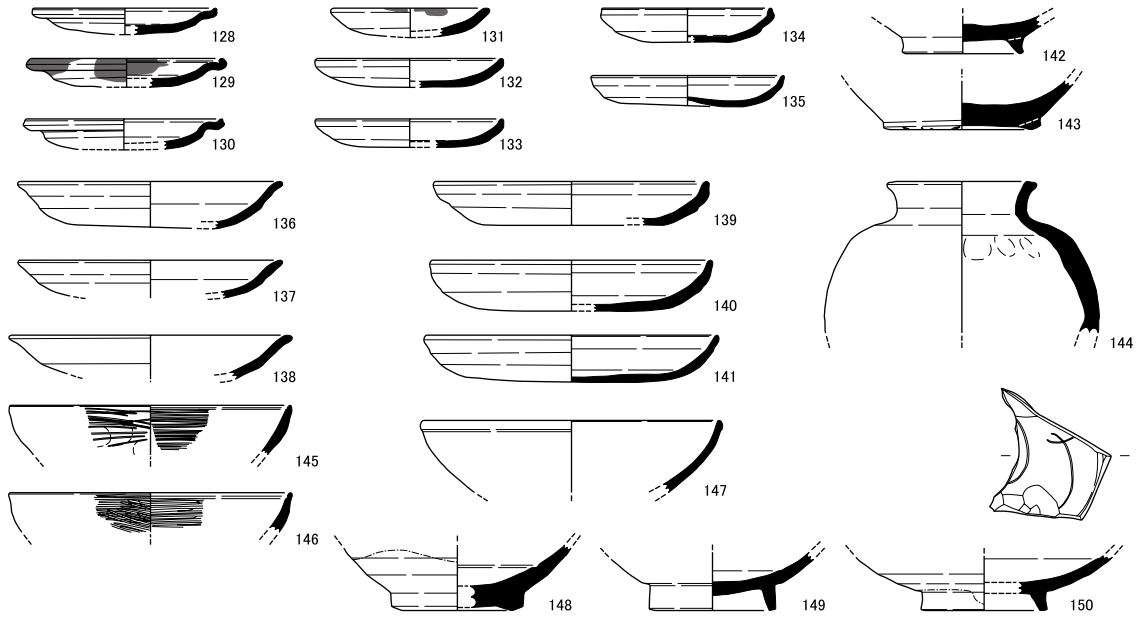
154・155は土師器大型皿である。口径は14.9と16.0cmに復元できる。156は瓦器碗である。内面は密なヘラミガキ、外面はやや疎なヘラミガキを施す。157は輸入陶磁器白磁碗である。

平安末整地層(図22) 土師器皿・羽釜、須恵器鉢・甕、瓦器鉢・鍋、輸入陶磁器白磁・青磁、軒丸瓦、丸瓦、平瓦などが出土した。京都Ⅴ期中段階から新段階に属する資料である。

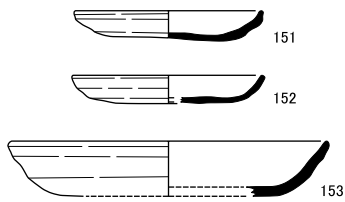
土坑175



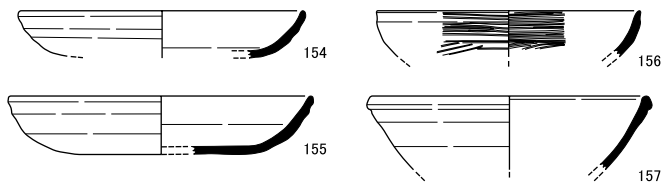
土坑150



土坑151



平安後期砂層



平安末整地層

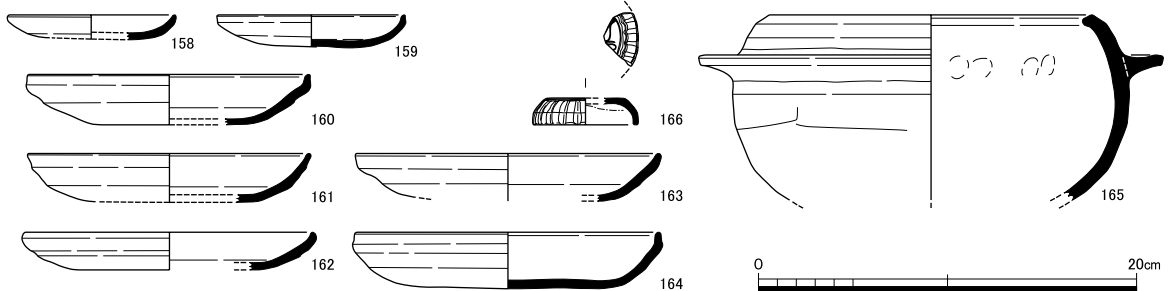


图22 土坑175·150·151、平安後期砂層、平安末整地層出土土器実測図（1：4）

158・159は土師器小型皿である。口径は8.8と9.8cmに復元できる。160～164は土師器大型皿である。口径は14.8～16.0cmの間に分布する。165は土師器の羽釜である。口縁部ヨコナデ、体部外面ケズリ、内面はナデで仕上げる。外面鏝より下は煤が厚く付着する。166は輸入陶磁器白磁の合子蓋である。

土坑146 (図23) 土師器皿、須恵器鉢・壺、瓦器碗、焼締陶器、輸入陶磁器白磁、金属製品、

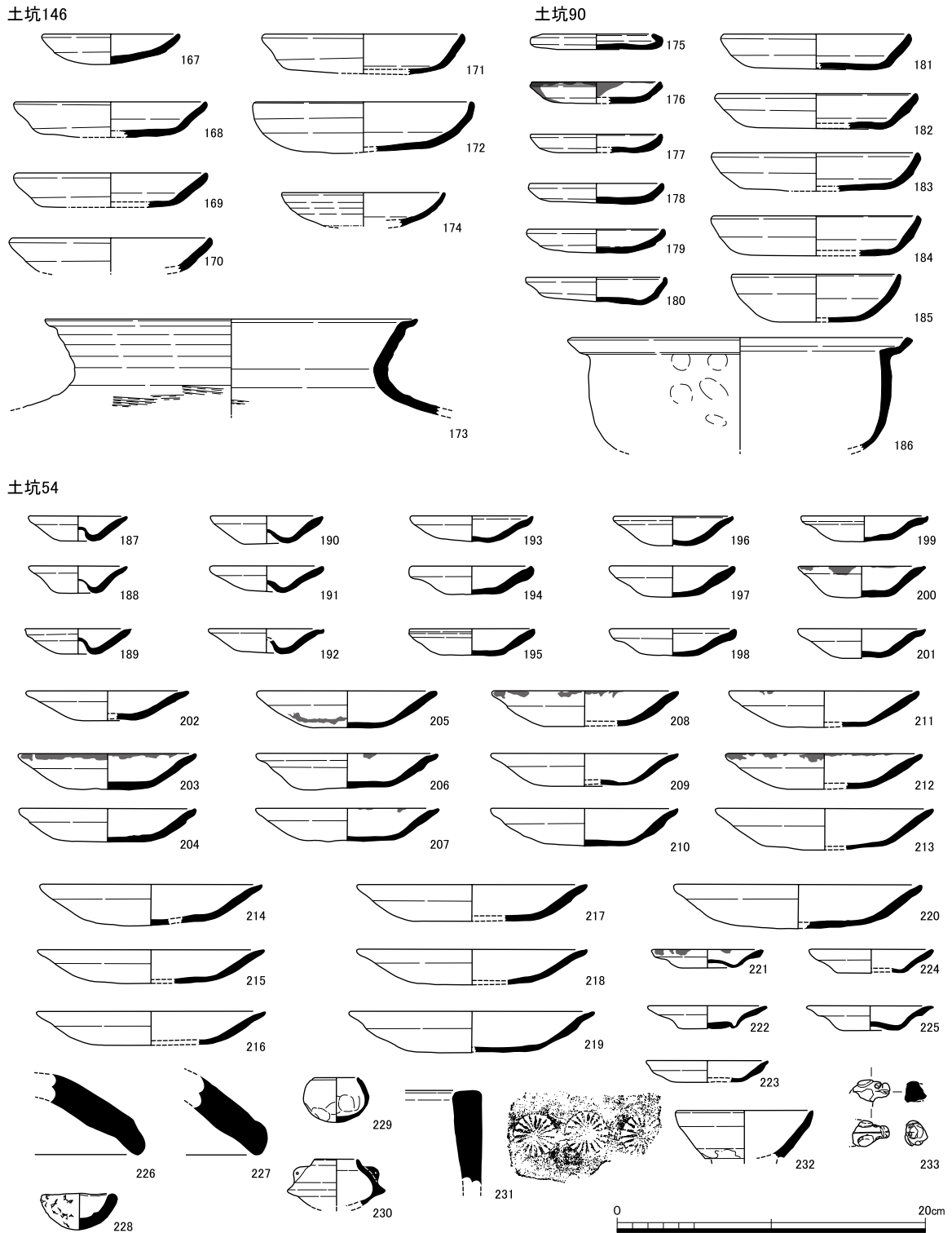


図23 土坑146・90・54出土土器実測図 (1 : 4)

壁土などが出土した。京都VI期古段階から中段階に属する資料である。

167は土師器小型皿である。口径は8.8cmに復元できる。168～172は土師器大型皿である。口径は12.4～13.9cmの間に分布する。173は須恵器甕、174は輸入陶磁器の白磁皿である。

土坑90(図23) 土師器皿、山茶椀、瓦質土器鍋、輸入陶磁器青磁、軒丸瓦、鉄釘などが出土した。京都VI期中段階から新段階に属する資料である。

175は土師器のいわゆるコースター形の皿である。口径は7.2cmある。176～180は土師器の小型皿である。口径は8.3～9.0cmの間に分布する。176は灯明皿である。181～184は土師器の大型皿である。口径は12.0～13.2cmの間に分布する。185は白色系の土師器皿である。口径は10.8cmの復元できる。186は瓦質土器の鍋である。外面には厚く煤が付着する。

土坑54(図23、図版16・17) 土師器皿、焙烙、須恵器鉢、瓦器椀、瓦質土器火鉢・鍋、焼締陶器甕、施釉陶器椀、輸入陶磁器白磁・青磁、軒丸瓦、軒平瓦、丸瓦、平瓦、鉄釘、金属製品、石製品などが出土した。京都IX期新段階からX期古段階に属する資料である。

187～192は土師器のいわゆるへそ皿である。口径は6.2～7.3cmの間に分布する。193～201は土師器の小型皿である。口径は7.7～8.1cmの間に分布する。200は灯明皿として使用されている。202～212は土師器の中型皿である。口径は10.4～12.6cmの間に分布する。このサイズは灯明皿として使用されているものが多い。213～220は土師器の大型皿である。口径は13.8～15.9cmの間に分布する。221～225は赤色系の土師器皿である。口径は7.0～8.0cmの間に分布する。226・227は土師質の蓋である。いずれも胎土は粗く、ナデのみで仕上げられている。228の取鍋と関連して鑄造などに用いられたものである可能性がある。

229は瓦質土器の小型壺である。形状は近世の土師器の「つぼつぼ」に似る。230が瓦質土器のミニチュア羽釜である。231は瓦質土器のいわゆる奈良火鉢で、外面に花文のスタンプが押される。

232は瀬戸美濃系の施釉陶器天目茶椀である。

233は輸入陶磁器の白磁である。犬をかたどったもので、類似品から容器のつまみと考えられる。

井戸102(図24、図版17) 土師器皿・塩壺、焼締陶器播鉢・盤・壺・甕、施釉陶器椀、軟質施釉陶器香炉、輸入陶磁器青花・白磁、土製品、軒丸瓦、軒平瓦金属製品、砥石、基石、骨、貝殻、銭貨などが出土した。京都XI期古段階に属する資料である。

234～239は土師器の小型皿である。口径は5.3～5.8cmの間に分布する。240～248は土師器の中型皿である。口径は8.8～10.4cmの間に分布する。249～252は土師器の大型皿である。口径は11.7～12.8cmの間に分布する。248・249・252は灯明皿として使用されている。253は土師器の小壺である。

254～259は焼締陶器である。254・255は備前産の壺と盤である。256は丹波産の壺である。257～258は播鉢で、257と259は信楽産、258は丹波産と考えられる。

260は軟質施釉陶器の聞香炉である。二次焼成を受ける。体部は内傾して立ち上がり、口縁部は内側に突出し煙返しとなる。内面はヘラケズリを行い、口縁部は横方向のヘラミガキを施す。外面はナデで仕上げ、白泥を施釉する。高台は削り出しの輪高台で、底部にヘラ状工具で印が刻まれる。

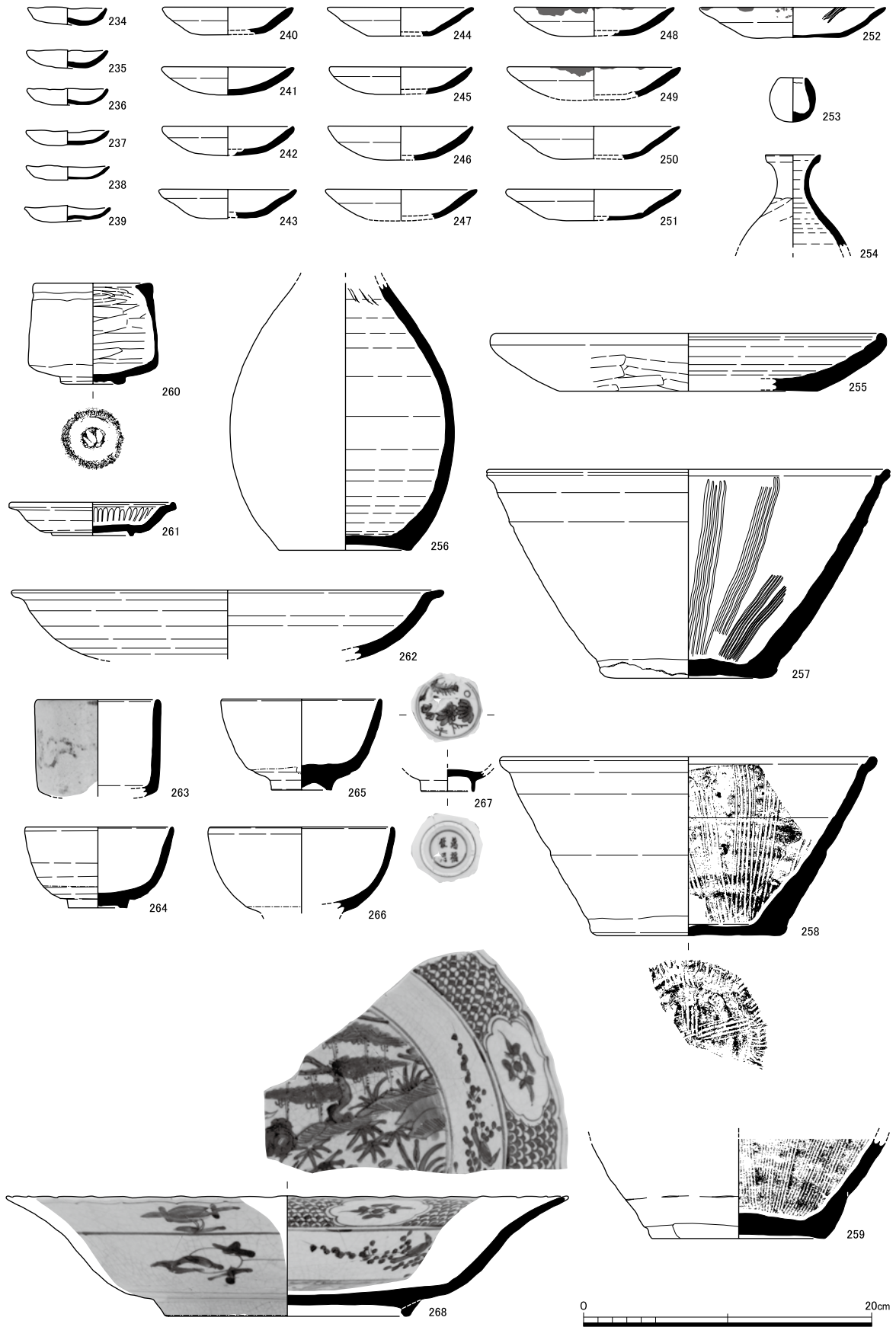


図24 井戸102出土土器実測図（1：4）

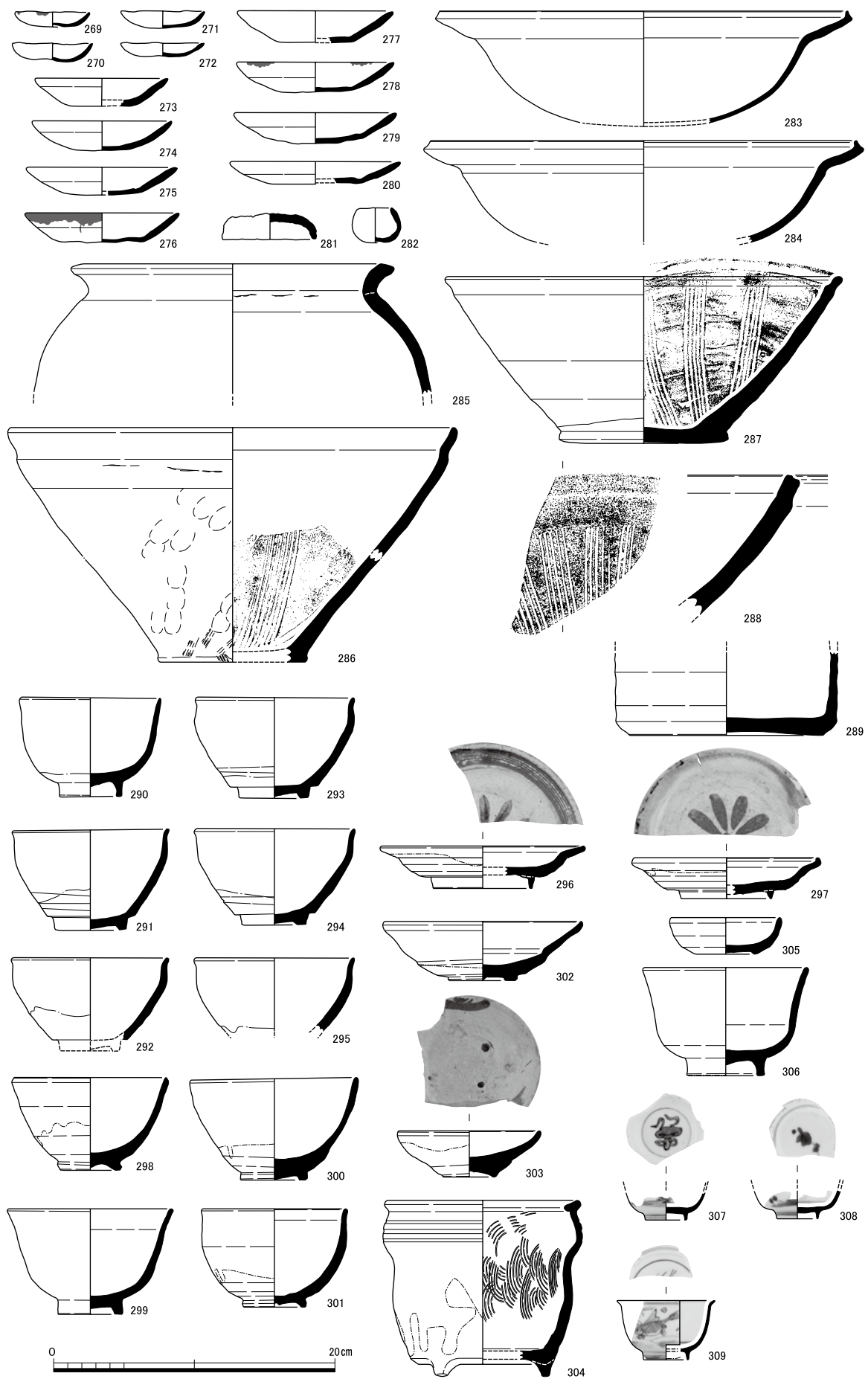


图25 土坑196出土土器实测图（1：4）

261・262は施釉陶器黄瀬戸の皿と盤である。262の盤は内面に胆礬^{ばん}が散りばめられ、底部に陰刻
 花文が刻まれる。263・264は施釉陶器志野の椀である。筒型の263は鉄絵が描かれる。265・266は
 施釉陶器唐津の椀である。265は高台部には黒褐色の鉄釉を薄く掛け、体部には緑色の釉をかける。
 266も同様の緑色釉がかかる。

267・268は輸入陶磁器で、267は明の青花小椀、268は明末清初の漳州窯系の青花盤である。

土坑196(図25、図版18) 土師器皿・塩壺・焙烙、瓦質土器火鉢・鉢、焼締陶器播鉢、施釉陶
 器椀・皿、輸入陶磁器青花・白磁、軒瓦、砥石、キセルなどが出土した。京都Ⅺ期古段階から中段
 階に属する資料である。

269～272は土師器の小型皿である。口径は5.2～6.0cmの間に分布する。269は灯明皿として使用
 されている。273・274は土師器の中型皿である。口径は9.3と9.7cmに復元できる。275～280は土
 師器の大型皿である。口径は10.3～11.8cmの間に分布する。276・278は灯明皿である。281は塩壺
 の蓋、282は土師器の小壺である。283・284は焙烙鍋でいずれも口縁端部をつまみ上げるタイプで
 ある。

285は瓦質土器の壺、286は瓦質土器の播鉢である。

287・288は焼締陶器播鉢である。289は焼締陶器鉢で、信楽産と考えられる。

290～306は施釉陶器である。290～295は瀬戸美濃系の天目茶椀である。296・297は瀬戸美濃系
 の皿で、緑釉で文様が描かれるいわゆる織部焼である。298～301は肥前系の椀で、いわゆる唐津
 焼である。298は灰色系の釉薬が厚く掛かり、底部内面に釉がたまる。299・300は透明の釉薬が掛
 かる。301は緑色系の釉薬が掛かる。302・303は肥前系の皿である。いわゆる唐津焼で、302は透
 明の釉薬が掛かる。内面底部には4箇所が目跡が付く。303は内面に鉄釉で文様が描かれる。目跡
 は3箇所残る。304は肥前系の鉢である。3箇所断面逆方形の脚が付く。いわゆる高取焼で、内
 面は同心円状の当て具痕が明瞭に残り、外面には口縁下から鉄釉と白色の藁灰釉が流れる。305・
 306は瀬戸美濃系の志野の皿と椀である。305は碁笥底の皿で全面施釉される。306は釉薬が厚く掛
 かり、細かい貫入が入る。

307～309は輸入陶磁器で、明の青花小椀である。器壁は極めて薄い。

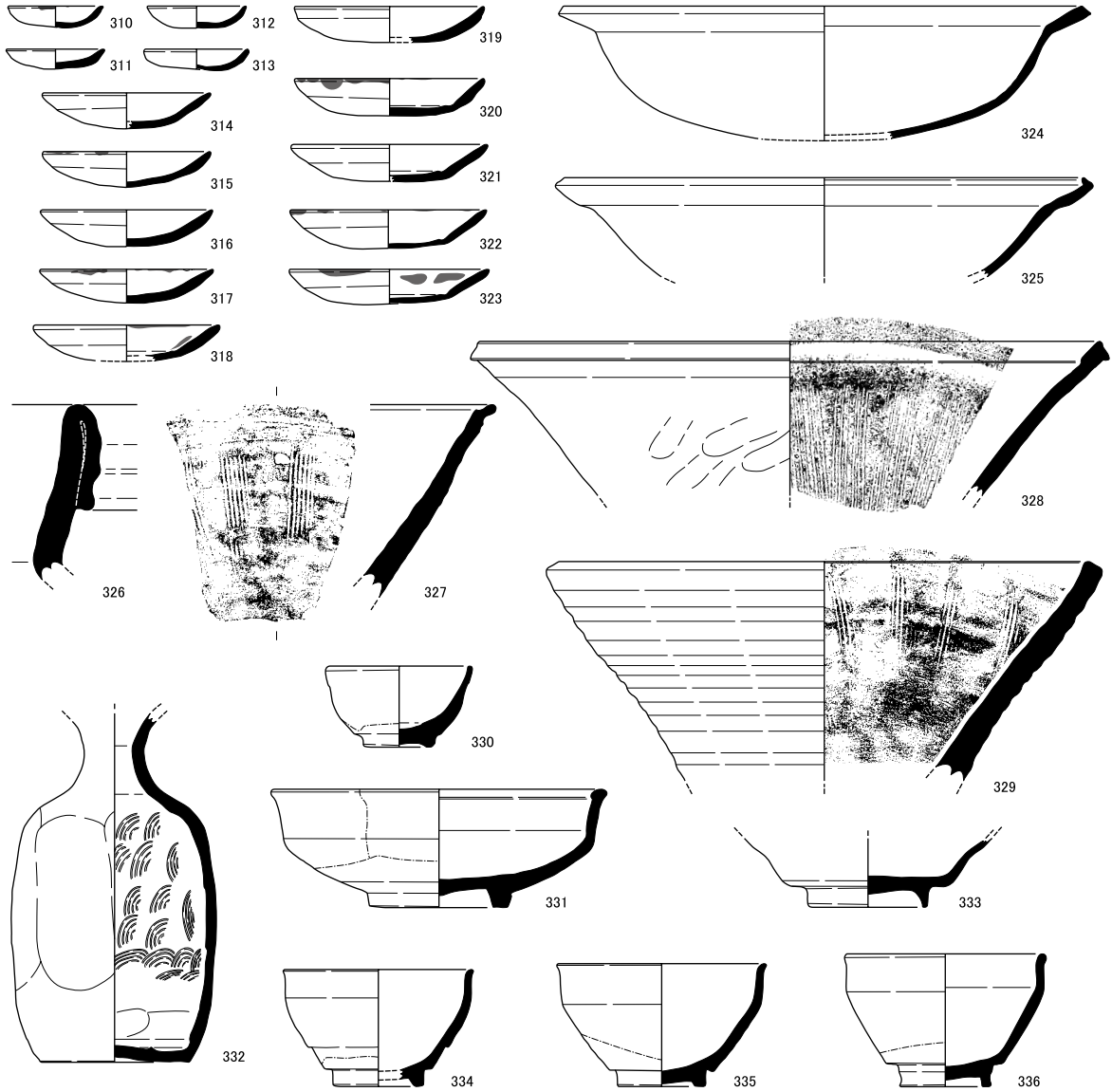
土坑197(図26、図版19) 土師器皿・塩壺・焙烙、瓦質土器火鉢・香炉、焼締陶器甕、施釉陶
 器椀・皿、染付椀、輸入陶磁器青花、金属製品、砥石、銭貨、骨などが出土した。京都Ⅺ期新段階
 に属する資料である。

310～313は土師器の小型皿である。口径は5.2～5.8cmの間に分布する。310は灯明皿として使用
 されている。314～317は土師器の中型皿である。口径は9.3～9.6cmの間に分布する。318～323は
 土師器の大型皿である。口径は10.4～11.2cmの間に分布する。灯明皿として使用されているもの
 が多い。324・325は焙烙鍋である。324は口縁部が直線的にのびるタイプ、325は口縁端部をつまみ
 上げるタイプである。

326は焼締陶器備前産の甕である。327～329は焼締陶器播鉢である。

330～336は施釉陶器である。330・331は肥前系でいわゆる唐津焼である。330は椀で薄い緑色

土坑197



水溜66

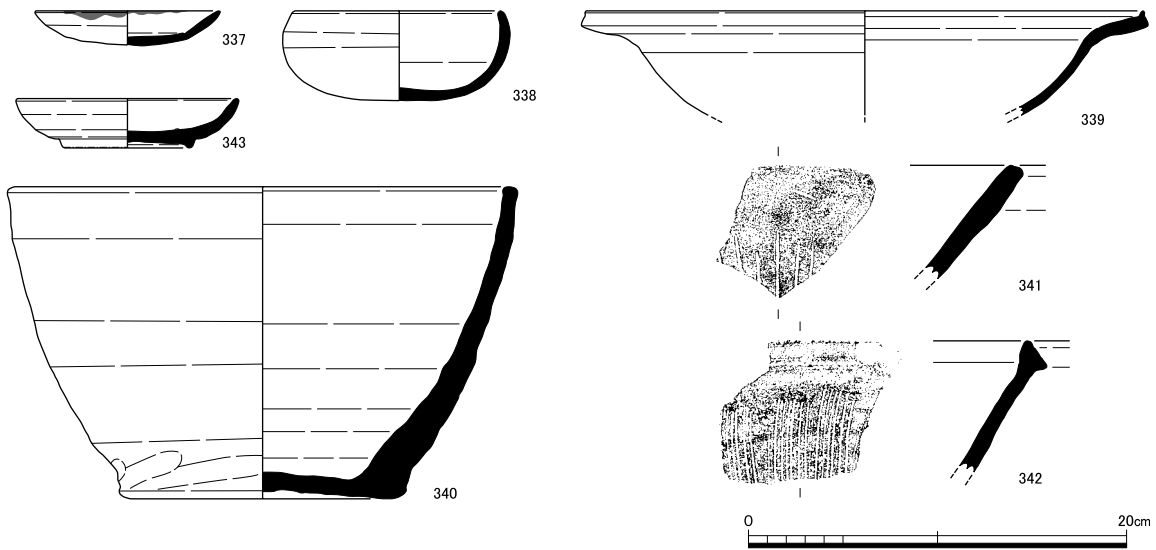


图26 土坑197、水溜66出土土器实测图（1：4）

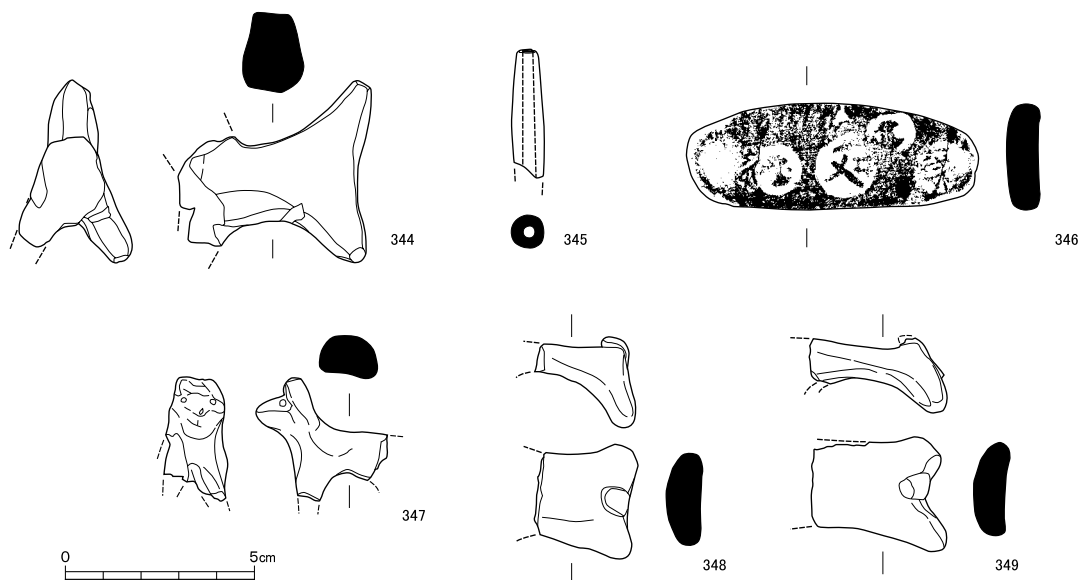


図27 土製品実測図（1：2）

系の釉薬に鉄釉が斑点状に混じる。331は鉢であるが、内面に釉薬が掛からないことから、中に灰を入れて持ち運んだ風炉用の灰器と考えられる⁸⁾。外面は灰釉と鉄釉を掛け分ける。332は肥前系の壺である。いわゆる高取焼で、内面には同心円の当て具痕が明瞭に残る。外面はケズリにより6面の面取りを行う。外面には鉄釉と藁灰釉が掛かる。内面にも透明の釉薬が掛かる。333は瀬戸美濃系志野の皿である。白色の釉薬が厚くかかり、全面に貫入が入る。334～336は瀬戸美濃系の天目茶椀である。334は、釉薬を厚く見せるためか生地の一部下半をケズリ取り、段を付けている。

水溜66(図26、図版18) 土師器皿・鉢・焙烙、焼締陶器播鉢、施釉陶器椀・皿、染付椀、金属製品、石製品などが出土した。京都Ⅺ期に属する資料と考える。

337は土師器皿である。口径は9.6cmで灯明皿として使用されている。338は土師器の鉄鉢形の鉢である。339は焙烙鍋で、口縁端部をつまみ上げるタイプである。340は焼締陶器の信楽産鉢、341・342は播鉢である。343は施釉陶器の志野皿である。

(2) 土製品 (図27、図版19、表5)

調査中に出土した土製品をまとめた。344は溝290から出土した土馬である。頭部を欠くが、残存長約5.0cm、高さは約5.0cmある。345は土錘である。路面Ⅲ構築土から出土した。残存長約3.4cm、最大径約0.9cm、孔の径は約0.3mmある。346は丁銀の模造品と考えられる。土師質であるが、表面を銀色に塗り、本物と同様「文」字や分銅型の刻印を押す。18世紀末から19世紀初頭の遺物が出土した水溜22から出土した。347～349は井戸102から出土した土師質の犬形土製品である。347は下半部を欠くが残存長は約3.5cm、348・349は頭部を欠くが残存長は2.6cmと3.6cmである。

(3) 瓦類 (図28・29、図版20、表6)

瓦類は、整理コンテナにして8箱出土した。平安時代前期から江戸時代のものがあり、平安時代

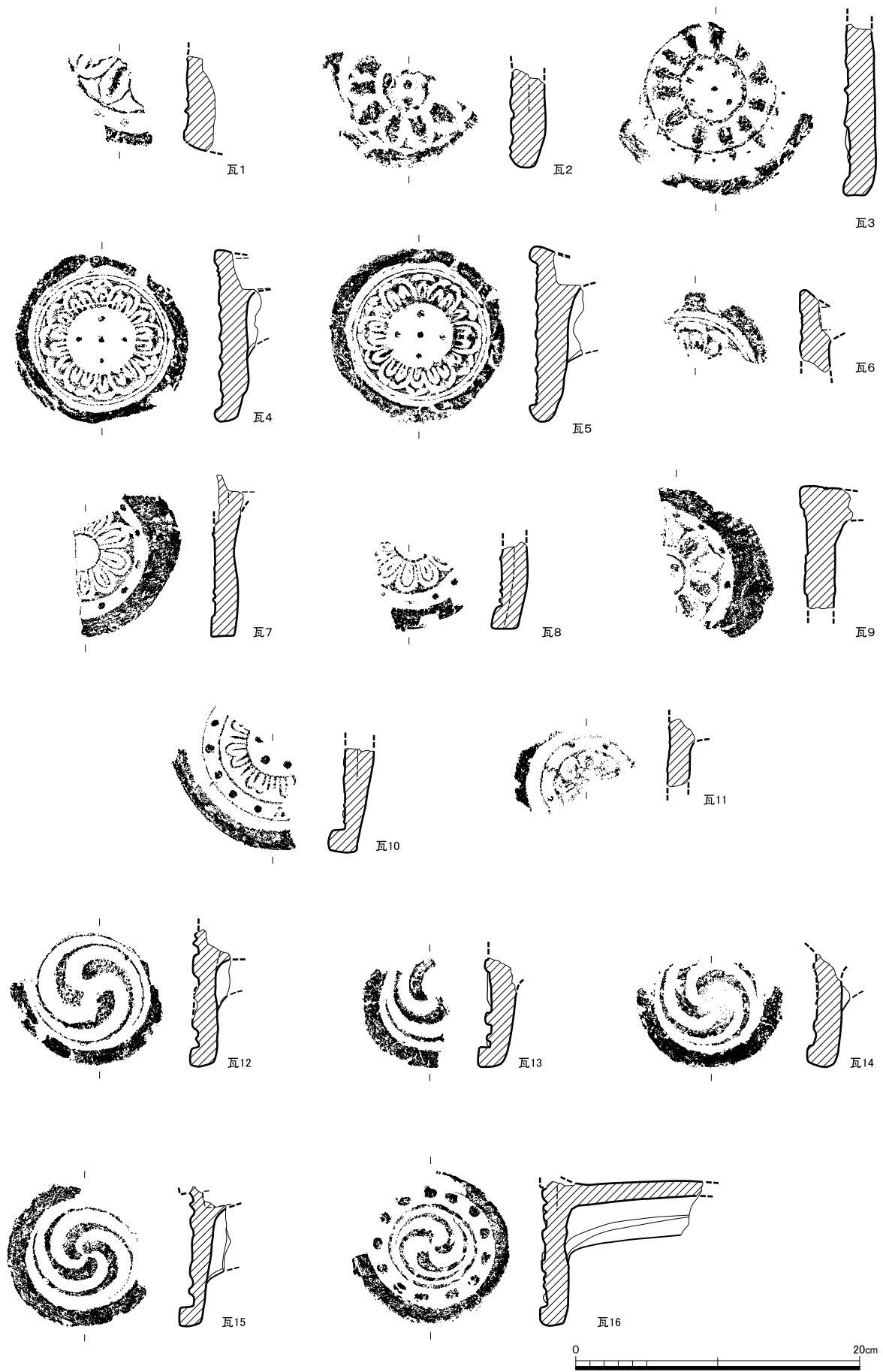


图28 軒丸瓦拓影及び実測図 (1 : 4)

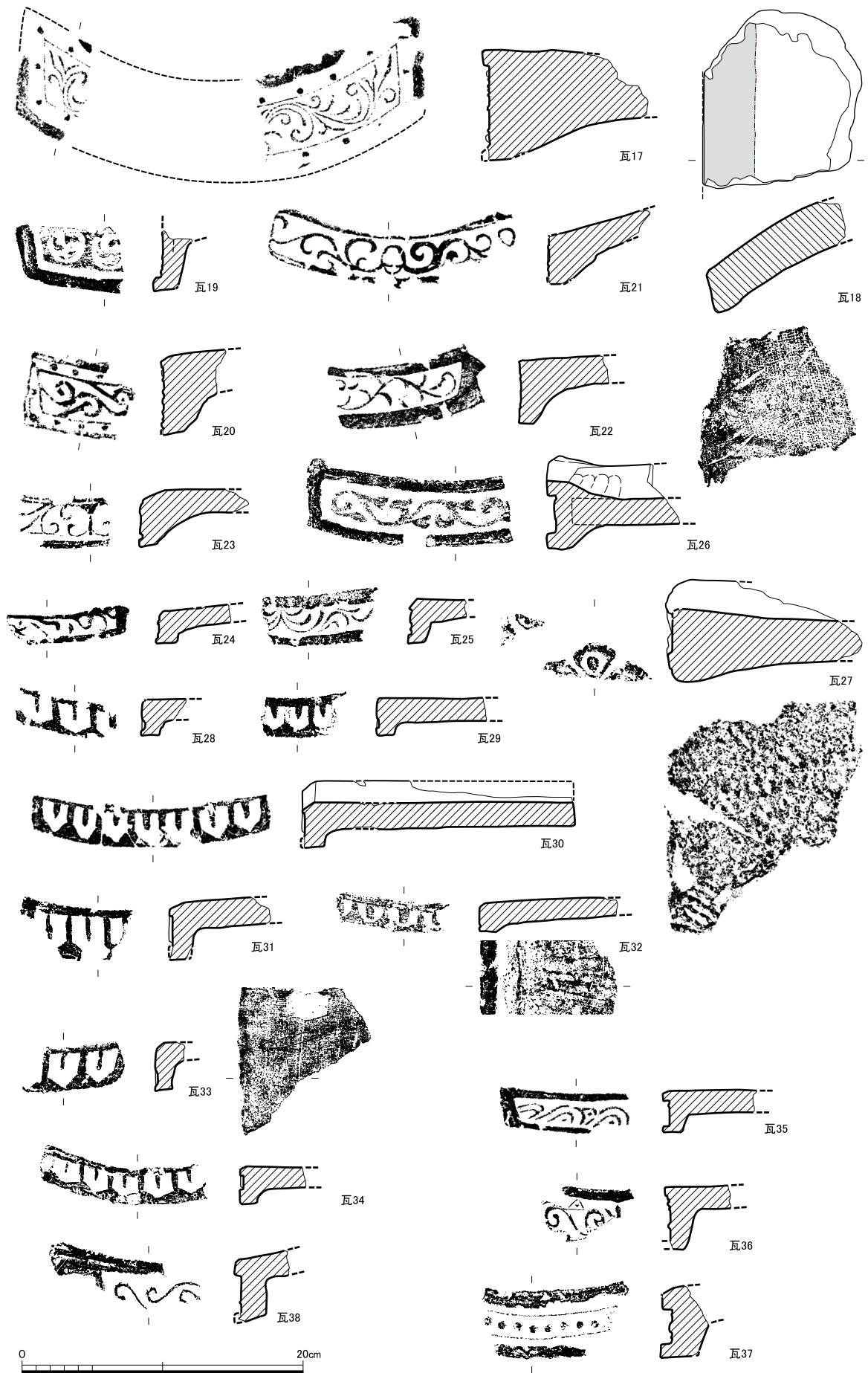


図29 軒平瓦・熨斗瓦拓影及び実測図 (1 : 4)

後期と江戸時代のものが多くを占める。後世の遺構や攪乱に混入して出土したものも多いが、中世までの軒瓦については、瓦当面が残存するものについては全て掲載した。個別の詳細は表6に記載したため、ここでは概要を述べる。

軒丸瓦は掲載した16点中、平安時代前期と考えられるものが1点、平安時代中期と考えられるものが3点、平安時代後期のものが7点、平安時代後期後半から鎌倉時代のものが5点ある。産地は全て山城産と考えられる。瓦4・5・6は同範瓦、瓦7・8も同範瓦である。

軒平瓦は掲載した21点中、平安時代前期のものが1点、平安時代後期のものが7点、平安時代後期後半から鎌倉時代のものが9点、鎌倉時代のものが2点、桃山時代・江戸時代のものが各1点ずつある。瓦17は大阪府茨木市岸部瓦窯産のK b 2型式⁹⁾と同範であるが、胎土がやや粗く、京都府大山崎町大山崎瓦窯産の可能性もある。平安時代後期の瓦19・26は播磨産、瓦27は讃岐産である。鎌倉時代の瓦35・37は大和産と考えられる。瓦38は金箔瓦で、瓦当面に漆と金箔が部分的に残る。

その他、緑釉熨斗瓦が1点出土した(瓦18)。

(4) 金属製品・銭貨(図30・31、図版21、表3・4)

金属製品(図30、図版21) 金1は鎌倉時代の遺物が出土した土坑146から出土した、金銅製錠である。いわゆる「海老錠」と呼ばれる和錠の牝金具¹⁰⁾である。銅製で全面に鍍金される。残存長は8.0cmある。断面八角形の筒部の一方向に弦受部が付く。筒部には裏面の1面を除いた面に大きく宝相華文が毛彫りされ、文様の間に魚々子が打たれる。厨子や韓櫃などに取り付けられていたものと考えられる。金2は路面Ⅲ構築土から出土した。銅製品で花菱形の銅板に円筒状のものを溶接する。何らかの飾り金具と考えられる。

銭貨(図31、図版21、表3・4) 掲載した銭貨の一覧は表3に記した¹¹⁾。

文化財保護課による試掘調査の際に、土坑から緡銭が出土した。土坑の出土位置はX=-109,075とY=-21,281の交点付近で、東京極大路路面上にあたる。13世紀頃の土器と一緒に出土した。銭1~33は緡銭の銭貨である。繋がっていた順に掲載した。緡銭は35枚がセットになっていたが、うち最後の2枚は劣化が著しく、1枚は銭文を判別できず、もう1枚は拓影を採取できなかったが祥符元寶であった。種別の枚数は表4に記載した。北宋銭が約88%、唐銭が約9%、南宋銭約3%

である。

本調査では、銭貨が51枚出土した。うち5枚は銭文が判別できなかった。判別できたものの内訳は唐銭が1枚、北宋銭が18枚、明銭が2枚、寛永通寶が25枚である。拓影が採取できたものについて図31に掲載した。井戸102からは銭貨12枚がまと

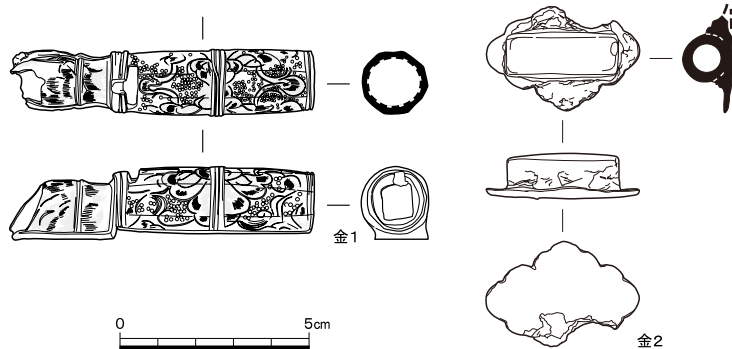


図30 金属製品実測図(1:2)

表3 掲載銭貨一覧表

番号	種類	出土地	初鑄年	重量(g)	番号	種類	出土地	初鑄年	重量(g)
銭1	紹聖元寶	試・土坑1縉銭	北宋・1094	3.156	銭23	元豊通寶	試・土坑1縉銭	北宋・1078	2.814
銭2	元祐通寶	試・土坑1縉銭	北宋・1086	2.166	銭24	祥符通寶	試・土坑1縉銭	北宋・1009	2.556
銭3	皇宋通寶	試・土坑1縉銭	北宋・1039	3.003	銭25	太平通寶	試・土坑1縉銭	北宋・976	2.853
銭4	咸平元寶	試・土坑1縉銭	北宋・998	2.565	銭26	祥符元寶	試・土坑1縉銭	北宋・1008	3.221
銭5	元豊通寶	試・土坑1縉銭	北宋・1078	3.044	銭27	政和通寶	試・土坑1縉銭	北宋・1111	3.198
銭6	景祐元寶	試・土坑1縉銭	北宋・1034	2.634	銭28	元豊通寶	試・土坑1縉銭	北宋・1078	2.713
銭7	紹聖元寶	試・土坑1縉銭	北宋・1094	3.025	銭29	淳熙元寶	試・土坑1縉銭	南宋・1174~	2.578
銭8	元祐通寶	試・土坑1縉銭	北宋・1086	3.108	銭30	開元通寶	試・土坑1縉銭	唐・621	2.486
銭9	元豊通寶	試・土坑1縉銭	北宋・1078	2.413	銭31	皇宋通寶	試・土坑1縉銭	北宋・1039	1.699
銭10	開元通寶	試・土坑1縉銭	唐・621	3.498	銭32	天聖元寶	試・土坑1縉銭	北宋・1023	1.637
銭11	元祐通寶	試・土坑1縉銭	北宋・1086	2.851	銭33	紹聖元寶	試・土坑1縉銭	北宋・1094	3.443
銭12	明道元寶	試・土坑1縉銭	北宋・1032	2.779	銭34	景祐元寶	井戸102	北宋・1034	3.168
銭13	紹聖元寶	試・土坑1縉銭	北宋・1094	3.180	銭35	皇宋通寶	井戸102	北宋・1039	2.569
銭14	天聖元寶	試・土坑1縉銭	北宋・1023	2.154	銭36	治平元寶	井戸102	北宋・1064	3.000
銭15	元豊通寶	試・土坑1縉銭	北宋・1078	3.233	銭37	元豊通寶	井戸102	北宋・1078	3.255
銭16	元豊通寶	試・土坑1縉銭	北宋・1078	2.376	銭38	元祐通寶	井戸102	北宋・1086	2.904
銭17	大觀通寶	試・土坑1縉銭	北宋・1107	2.862	銭39	祥符元寶	路面IV構築土	北宋・1008	2.155
銭18	熙寧元寶	試・土坑1縉銭	北宋・1068	2.393	銭40	皇宋通寶	第2面検出中	北宋・1039	3.082
銭19	開元通寶	試・土坑1縉銭	唐・621	2.770	銭41	祥符通寶	近世整地層	北宋・1009	3.179
銭20	皇宋通寶	試・土坑1縉銭	北宋・1039	2.828	銭42	治平元寶	室町整地層	北宋・1064	3.501
銭21	熙寧元寶	試・土坑1縉銭	北宋・1068	2.507	銭43	熙寧元寶	近世整地層	北宋・1068	3.080
銭22	景祐元寶	試・土坑1縉銭	北宋・1034	3.090	銭44	洪武通寶	近世整地層	明・1368	1.382

試掘調査の土坑1

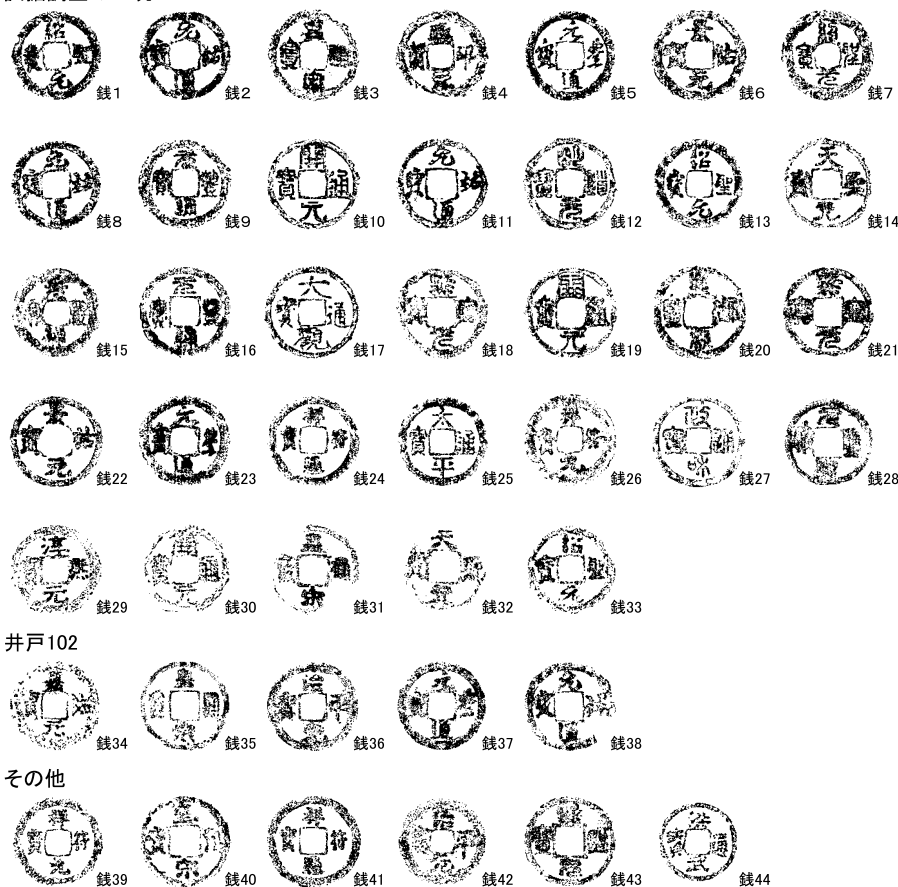


図31 銭貨拓影(1:2)

表4 試掘土坑1 縉銭枚数一覧表

銭種	枚数
元豊通寶	6
紹聖元寶	4
開元通寶	3
元祐通寶	3
皇宋通寶	3
熙寧元寶	2
景祐元寶	2
祥符元寶	2
天聖元寶	2
咸平元寶	1
淳熙元寶	1
祥符通寶	1
政和通寶	1
大觀通寶	1
太平通寶	1
明道元寶	1
不明	1
合計	35

まって出土した。掲載した5枚以外の7枚の内訳は1枚が熙寧元寶、6枚が寛永通寶であった。

(5) 石製品 (図32、図版21)

石1は、石製帯飾具の巡方である。¹²⁾路面Ⅲ構築土から出土した。石材は暗緑系で碧玉と考えられる。表面は非常に丁寧に研磨され、光沢が強い。側面と端面も研磨されるが光沢はやや鈍い。裏面は研磨が粗く、加工痕が残る。裏面には2箇所の潜り穴が残る。石2は、板状の石材で、側面2方向に石挽き鋸で切断して割取ったバリが確認できる。さらに、表面と裏面がともに研磨され光沢があり、表面には鳥の羽根状の文様が深く掘られていることから、文様を彫りこんだ板状の石製品を、石製帯飾具として再加工した際の端材と考えられる。石材は乳白色に黄色と黒色の斑紋が混じるものである。¹³⁾路面Ⅲ上面から出土した。石3は、滑石製の石鍋である。土坑54から出土した。長方形の把手が付く。破断面が丁寧に研磨されており、温石に転用されたものと考えられる。石4は硯である。土坑54から出土した。長さ5.5cm、幅4.5cmの小型の硯で石材は灰赤色系で赤色頁岩かと思われる。石5は置灯籠である。破損するが、平面形は八角形で角の8箇所に舟形の脚が付くものである。側面、裏面ともに丁寧に研磨される。側面には欄干かと思われる文様が刻まれる。上面は加工痕が明瞭に残る。灯籠の傘が乗り内面は見えないため、研磨の必要がなかったと考えられる。石材は灰赤色系で石4の硯と類似し、赤色頁岩かと思われる。

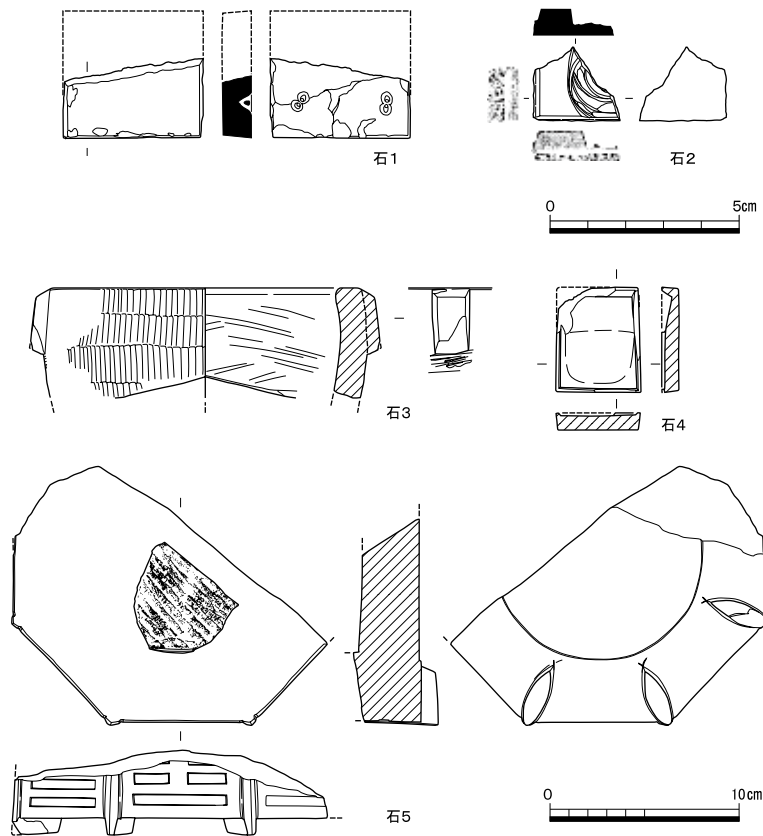


図32 石製品実測図 (1 : 2、1 : 4)

註

- 1) 土器の型式・年代については小森俊寛・上村憲章「京都の都市遺跡から出土する土器の編年的研究」『研究紀要』第3号 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1996年 に準拠する。なお、「平安京Ⅰ～Ⅴ期」「京都Ⅵ～ⅩⅣ期」を「京都Ⅰ～ⅩⅣ期」で統一した。

750頃			840頃			930頃			1010頃			1080～90頃			1180頃			1270頃			1360頃			1440頃			1500頃			1580～90頃			1660頃			1740年代頃			1820年代頃					
Ⅰ			Ⅱ			Ⅲ			Ⅳ			Ⅴ			Ⅵ			Ⅶ			Ⅷ			Ⅸ			Ⅹ			Ⅺ			Ⅻ			Ⅼ			Ⅽ					
古	中	新	古	中	新	古	中	新	古	中	新	古	中	新	古	中	新	古	中	新	古	中	新	古	中	新	古	中	新	古	中	新	古	中	新	古	中	新	古	中	新	古	中	新

- 2) 森 隆「2・黒色土器」『概説 中世の土器・陶磁器』真陽社 1995年
- 3) 墨書については、京都大学の西山良平教授、京都産業大学の吉野秋二准教授から御教示を受けた。
- 4) 「新」は「料」の異体字。京都大学の西山良平教授、京都産業大学の吉野秋二准教授の御教示による。
- 5) 平尾政幸「緑釉陶器・灰釉陶器・白色土器」『平安京提要』角川書店 1994年
- 6) 太宰府市教育委員会編『太宰府条坊跡XⅤ－陶磁器分類編－』太宰府市教育委員会 2000年 白磁 碗Ⅰ－1類は8世紀末から10世紀中頃の標識時期とされる。
- 7) 前掲註6文献に同じ。碗XⅢ類は11世紀後半から12世紀前半の標識磁器とされる。
- 8) 茶道資料館編『茶道具の鑑賞と基礎知識』淡交社 2002年
- 9) 『吹田市史第8巻 考古編』吹田市役所 1981年
- 10) 合田芳正『古代の鍵』ニューサイエンス社 1998年 また、長岡京跡左京五条九町跡などで類似品が出土している。「長岡京跡左京第170次(7ANFMI地区)～左京四条二坊十一町・東二坊坊間小路、鴨田遺跡～発掘調査概要」『向日市埋蔵文化財調査報告書 第24集』向日市教育委員会 1988年
- 11) 銭種については、永井久美男『新版中世出土銭の分類図版』高志書院 2002年 を参考にした。
- 12) 石1と石2の石製帯飾具関連品については、平尾政幸「平安京の石製銚具とその生産」『研究紀要』第7号 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2001年 を参考にした。
- 13) 中国産とされる臨川寺跡出土の環鉤(『史料京都の歴史』第2巻考古 平凡社 1983年)と比較したところ、同じ石材であることを確認した。元の板状の石製品が中国製である可能性が高い。

表5 1・2区 土器類・土製品一覧表

No.	器種	器形	出土遺構	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存率 (%)	色調 胎土	備考
1	黒色土器	椀	路面Ⅲ 構築土		(0.7)	(6.6)	10	外面10YR8/3淡黄橙色 7.5YR7/6橙色 内面N3/暗灰色 胎土精良	底部墨書
2	緑釉陶器	椀	溝290		(2.0)	6.0	20	2.5Y8/2灰白色 釉淡黄緑色 胎土精良 φ1.0mm以下のチャート含 焼成軟質	底部墨書
3	灰釉陶器	椀	路面Ⅲ 構築土	(16.6)	4.7	(8.2)	40	N7/灰白色 釉5Y7/2灰白色 胎土精良	底部墨書
4	灰釉陶器	椀	路面Ⅲ 構築土		(8.4)	(1.8)	20	2.5Y7/2灰黄色 胎土精良 φ0.5mm以下のチャート含	底部墨書
5	灰釉陶器	椀	溝290		(3.0)	7.0	30	2.5Y7/4浅黄色 釉2.5Y8/1灰白色 胎土精良 φ0.5mm以下の長石・チャート含	底部墨書
6	土師器	椀	路面Ⅰ 構築土	(14.2)	(3.1)		10	7.5YR7/4にぶい橙色 胎土精良 φ0.5mm以下のチャート・雲母・赤色粒子含	
7	土師器	杯	路面Ⅰ 構築土	(17.1)	(3.7)		10	2.5Y7/3浅黄色 胎土精良	
8	土師器	皿	路面Ⅰ 構築土	(19.4)	(1.8)		5	5YR6/6橙色 胎土精良 クサリレキ含	
9	土師器	皿	路面Ⅰ 構築土	(20.5)	(2.2)		10	7.5YR6/6橙色 胎土精良	
10	土師器	皿	路面Ⅰ 構築土	(20.5)	(2.2)		10	7.5YR7/6橙色 胎土精良 クサリレキ含	
11	須恵器	杯A	路面Ⅰ 構築土	(11.9)	3.9		30	5Y7/1灰白色 胎土精良 φ0.5mm以下の長石含	
12	土師器	椀	ピット74	(13.2)	3.6		40	5YR7/8橙色 胎土精良	
13	土師器	皿	ピット74	15.4	2.2		70	7.5YR6/6橙色 胎土精良	
14	土師器	皿	埋納遺構 160	13.7	2.0		70	10YR8/3浅黄橙色 胎土精良	
15	土師器	皿	埋納遺構 160	13.8	2.5		60	10YR8/4浅黄橙色 胎土精良	
16	土師器	皿	埋納遺構 160	13.8	2.4		60	7.5YR8/4浅黄橙色 胎土精良	
17	土師器	皿	埋納遺構 160	13.9	2.1		60	10YR8/3浅黄橙色 胎土精良	
18	土師器	皿	埋納遺構 160	(13.9)	(2.1)		15	10YR8/4浅黄橙色 胎土精良	
19	土師器	皿	埋納遺構 160	13.9	2.4		70	7.5YR8/3浅黄橙色 胎土精良	
20	土師器	皿	埋納遺構 160	(14.0)	2.4		30	10YR7/4にぶい黄橙色 胎土精良	
21	土師器	皿	埋納遺構 160	14.3	2.3		60	10YR8/4浅黄橙色 胎土精良	
22	土師器	皿	埋納遺構 160	14.3	2.3		70	10YR8/3浅黄橙色 胎土精良	
23	土師器	皿	埋納遺構 160	14.4	2.4		60	7.5YR8/4浅黄橙色 胎土精良	
24	土師器	皿	埋納遺構 160	14.4	2.7		80	10YR8/4浅黄橙色 胎土精良	
25	土師器	皿	埋納遺構 160	14.6	2.2		90	10YR8/3浅黄橙色 胎土精良	
26	土師器	皿	埋納遺構 159	13.4	2.4		95	5YR8/4淡橙色 胎土精良	
27	土師器	皿	埋納遺構 159	(13.5)	2.3		30	7.5YR8/4浅黄橙色 胎土精良	
28	土師器	皿	埋納遺構 159	13.6	2.2		95	5YR8/4淡橙色 胎土精良	
29	土師器	皿	埋納遺構 159	(13.6)	2.4		40	5YR7/4にぶい橙色 胎土精良	
30	土師器	皿	埋納遺構 159	13.6	2.3		95	10YR8/3浅黄橙色 7.5Y6/1褐灰色 胎土精良	
31	土師器	皿	埋納遺構 159	(13.7)	2.3		20	10YR8/2灰白色 胎土精良	
32	土師器	皿	溝290	(14.0)	(1.9)		20	10YR7/3にぶい黄橙色 胎土精良	
33	土師器	皿	溝290	(15.9)	(1.8)		10	2.5Y8/3浅黄色 胎土精良	

No.	器種	器形	出土遺構	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存率 (%)	色調 胎土	備考
34	土師器	高杯	溝290	(19.8)	(2.4)		10	10YR7/3にぶい黄橙色 胎土精良	
35	土師器	羽釜	溝290	(24.0)	(5.4)		10	2.5Y7/3浅黄色 胎土精良	
36	土師器	羽釜	溝290	(23.1)	(8.2)		20	7.5YR6/6橙色 胎土精良 クサリレキ多量含	
37	黒色土器	椀	溝290	(8.9)	(3.5)		口縁20	N2/黒色 胎土精良	
38	黒色土器	鉢	溝290	(19.3)	(5.8)		口縁5	N2/黒色 胎土精良	
39	黒色土器	甕	溝290	(23.6)	(12.9)		30	外面7.5YR5/4にぶい褐色 内面N3/暗灰色 胎土精良 φ5.0mm以下の石英・長石・チャート含	
40	白色土器	皿	溝290	(15.0)	2.8	(6.0)	25	2.5Y8/1灰白色 胎土精良	
41	白色土器	椀	溝290		(2.6)	(7.4)	10	2.5Y8/2灰白色 胎土精良	
42	須恵器	皿	溝290		(1.2)	(5.2)	15	N6/灰色 胎土精良 φ1.0mm以下の石英・長石・チャート含	
43	須恵器	壺	溝290		(4.0)	(11.7)	5	N7/φ灰白色 胎土精良 0.5mm以下の石英・長石・チャート含む	
44	須恵器	甕	溝290	20.4	(9.0)		30	N5/灰色 胎土精良 φ1mm以下の石英・長石含	
45	緑釉陶器	椀	溝290		(2.5)	8.0	20	10YR7/4にぶい黄橙色 釉濃緑色 胎土精良 焼成軟質	
46	灰釉陶器	皿	溝290		(1.4)	(7.7)	10	2.5Y7/1灰白色 胎土精良	
47	灰釉陶器	皿	溝290		(1.5)	(6.2)	10	2.5Y7/1灰白色 釉5Y7/2灰白色 胎土精良	
48	灰釉陶器	皿	溝290	(14.8)	(1.8)		10	5Y7/1灰白色 胎土精良	
49	灰釉陶器	皿	溝290		(2.2)	7.0	20	2.5Y7/1灰白色 釉7.5Y6/2灰オリーブ色 胎土精良	底部窯印
50	輸入青磁	椀	溝290		(1.9)	(7.2)	10	.5Y7/1灰白色 釉7.5Y6/2灰オリーブ色	越州窯系
51	輸入磁器	蓋	溝290	(5.8)	(2.4)		20	10YR7/3にぶい黄橙色 釉5Y7/6黄色	
52	土師器	皿	路面Ⅲ 構築土	(11.7)	1.1		15	10YR8/3浅黄橙色 胎土精良	
53	土師器	皿	路面Ⅲ 構築土	(12.0)	1.2		30	7.5YR8/4浅黄橙色 胎土精良	
54	土師器	皿	路面Ⅲ 構築土	(12.3)	(1.2)		10	2.5Y7/2灰黄色 胎土精良	
55	土師器	皿	路面Ⅲ 構築土	13.2	1.6		60	外面7.5YR7/6橙色 内面10YR8/3浅黄橙色 胎土精良	
56	土師器	皿	路面Ⅲ 構築土	(13.8)	(1.8)		10	10YR8/2灰白色 胎土精良	
57	土師器	皿	路面Ⅲ 構築土	(13.8)	2.0		20	7.5YR5/1褐色 胎土精良	
58	土師器	皿	路面Ⅲ 構築土	(14.0)	(1.5)		10	10YR7/3にぶい黄橙色 胎土精良	
59	土師器	皿	路面Ⅲ 構築土	(15.4)	1.9		10	7.5YR8/4浅黄橙色 胎土精良	
60	土師器	皿	路面Ⅲ 構築土	(16.1)	(1.6)		10	2.5Y8/2灰白色 胎土精良	
61	土師器	皿	路面Ⅲ 構築土	(16.5)	(2.7)		40	7.5YR7/4にぶい橙色 胎土精良	
62	土師器	甕	路面Ⅲ 構築土	(17.0)	2.7		10	5YR7/4にぶい橙色 胎土精良	
63	土師器	甕	路面Ⅲ 構築土	(27.4)	(2.7)		10	7.5YR7/6橙色 胎土精良	
64	黒色土器	椀	路面Ⅲ 構築土	(13.9)	(3.9)		10	N2/黒色 胎土精良	
65	須恵器	椀	路面Ⅲ 構築土		(2.0)	(5.2)	20	N6/灰色 胎土精良 φ2.0mm以下チャート含	
66	須恵器	捏鉢	路面Ⅲ 構築土	(21.9)	(7.0)		15	N6/灰色 胎土精良 φ1mm以下の石英・長石含	

No.	器種	器形	出土遺構	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存率 (%)	色調 胎土	備考
67	須恵器	壺	路面Ⅲ 構築土	7.8	(5.4)		10	5Y6/1灰色 胎土精良	
68	須恵器	甕	路面Ⅲ 構築土	(31.4)	(4.5)		30	N5/灰色 胎土精良 φ2.0mm以下の石英・長石・チャート・黒色粒子含む	
69	須恵器	脚付盤	路面Ⅲ 構築土		(3.5)	(14.0)	10	N7/φ灰白色 胎土精良 φ1.5mm以下の石英・長石・チャート含	
70	須恵器	円面硯	路面Ⅲ 構築土		(3.3)		25	N4/灰色 胎土精良	
71	須恵器	猿面硯	路面Ⅲ 構築土				30	N6/灰色 胎土精良 φ1mm以下の石英・長石・黒色粒含	
72	緑釉陶器	皿	路面Ⅲ 構築土	(11.3)	2.6	(7.0)	30	10YR8/2灰白色 釉暗緑色 胎土精良 焼成軟質	近江系
73	緑釉陶器	皿	路面Ⅲ 構築土	12.6	2.9	(6.7)	70	10YR8/2灰白色 釉暗緑色 胎土精良 焼成軟質	近江系
74	緑釉陶器	皿	路面Ⅲ 構築土	(13.4)	2.7	6.8	70	2.5Y8/2灰白色 釉黄緑色 胎土精良 焼成軟質	近江系
75	緑釉陶器	皿	路面Ⅲ 構築土	(13.8)	3.2		35	2.5Y6/1黄灰色 釉オリーブ色 胎土精良 焼成硬質	近江系
76	緑釉陶器	皿	路面Ⅲ 構築土	(10.4)	(1.8)		15	2.5Y6/1黄灰色 釉灰緑色 胎土精良 焼成硬質	東海系
77	緑釉陶器	皿	路面Ⅲ 構築土	(12.5)	3.2	(6.5)	30	5Y7/1灰白色 釉5Y5/4オリーブ色 胎土精良 焼成硬質	東海系
78	緑釉陶器	皿	路面Ⅲ 構築土	(12.7)	2.4	(6.6)	30	N6/灰色 釉深緑色 胎土精良 焼成硬質	東海系
79	緑釉陶器	皿	路面Ⅲ 構築土	(12.8)	(3.5)		15	5Y7/1灰白色 釉黄緑色 胎土精良 焼成硬質	東海系
80	緑釉陶器	椀	路面Ⅲ 構築土	(11.4)	4.5		40	5Y6/1灰色 釉オリーブ色 胎土精良 焼成硬質	近江系
81	緑釉陶器	椀	路面Ⅲ 構築土		(2.5)	6.8	20	10YR8/2灰白色 釉暗緑色 胎土精良 焼成軟質	近江系
82	緑釉陶器	椀	路面Ⅲ 構築土	(14.6)	6.0	6.7	60	10YR8/3浅黄橙色 釉暗緑色 胎土精良 焼成軟質	近江系
83	緑釉陶器	椀	路面Ⅲ 構築土		(2.4)	7.0	20	10YR8/3浅黄橙色 釉暗緑色 胎土精良 焼成軟質	近江系
84	緑釉陶器	椀	路面Ⅲ 構築土		(3.4)	(8.4)	70	10YR6/2灰黄褐色 釉7.5Y4/2灰オリーブ色 胎土精良 焼成硬質	東海系
85	緑釉陶器	輪花椀	路面Ⅲ 構築土	(16.7)	6.1	7.9	60	5Y6/1灰白色 釉10Y5/2オリーブ灰色 胎土精良 焼成硬質	東海系
86	緑釉陶器	椀	路面Ⅲ 構築土		(2.9)	(6.7)	10	10YR7/3にぶい黄橙色 釉薄緑色 胎土精良 焼成やや硬質	京都系
87	緑釉陶器	椀	路面Ⅲ 構築土		(2.1)	7.5	15	5Y8/1灰白色 釉オリーブ黄色 胎土精良 焼成軟質	京都系
88	緑釉陶器	皿	路面Ⅲ 構築土	(17.8)	3.2	(7.8)	30	5Y7/1灰白色 釉オリーブ色 胎土精良 焼成軟質	京都系
89	緑釉陶器	皿	路面Ⅲ 構築土		(1.6)	6.2	30	N6/灰色 釉5Y7/4浅黄色 胎土精良 焼成硬質	京都系 底部窯印
90	緑釉陶器	壺	路面Ⅲ 構築土		(14.5)	13.6	60	2.5Y8/2灰白色 釉黄緑色 胎土精良 焼成軟質	
91	灰釉陶器	皿	路面Ⅲ 構築土	(11.8)	(1.6)		10	5Y7/1灰白色 胎土精良	
92	灰釉陶器	皿	路面Ⅲ 構築土	15.0	3.1		60	7.5YR8/1灰白色 釉2.5GY8/1灰白色 胎土精良	
93	灰釉陶器	椀	路面Ⅲ 構築土	(13.8)	(6.6)	5.4	40	2.5Y7/1灰白色 胎土精良	
94	灰釉陶器	椀	路面Ⅲ 構築土	(13.4)	4.1	(6.6)	40	N6/灰色 釉5Y8/1灰白色 胎土精良	
95	灰釉陶器	椀	路面Ⅲ 構築土	(15.4)	5.1		40	2.5Y7/1灰白色 釉5Y8/1灰白色 胎土精良	
96	灰釉陶器	椀	路面Ⅲ 構築土		(3.0)	(6.8)	20	2.5Y7/2灰黄色 胎土精良	
97	灰釉陶器	椀	路面Ⅲ 構築土		(2.4)	(6.9)	20	2.5Y7/1灰白色 釉5Y8/2灰色 胎土精良	
98	灰釉陶器	椀	路面Ⅲ 構築土		(2.7)	(6.6)	20	2.5Y7/1灰白色 胎土精良	
99	灰釉陶器	椀	路面Ⅲ 構築土		(2.6)	(6.9)	20	2.5Y7/1灰白色 胎土精良	

No.	器種	器形	出土遺構	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存率 (%)	色調 胎土	備考
100	灰釉陶器	椀	路面Ⅲ 構築土		(1.9)	(7.3)	15	2.5Y7/1灰白色 胎土精良	底部窯印
101	灰釉陶器	壺	路面Ⅲ 構築土				20	2.5Y7/1灰白色 釉7.5Y5/3灰オリーブ色 胎土精良	
102	灰釉陶器	瓶子	路面Ⅲ 構築土					5Y8/1灰白色 釉5Y7/2灰白色 胎土精良	
103	輸入白磁	椀	路面Ⅲ 構築土	(14.3)	(3.4)		10	N8/灰色 釉5Y8/1灰白色	
104	輸入白磁	椀	路面Ⅲ 構築土	(14.4)	(4.5)		10	N8/灰色 釉5Y8/1灰白色	
105	輸入白磁	椀	路面Ⅲ 構築土		(4.2)	(6.2)	65	N8/灰色 釉5Y8/1灰白色	
106	輸入白磁	椀	路面Ⅲ 構築土		(1.9)	(7.0)	10	5Y7/1灰白色 釉5Y6/3オリーブ黄色	越州窯系
107	輸入白磁	鉢	路面Ⅲ 構築土		(5.1)	(9.2)	30	5YR6/4にぶい橙色 釉5Y6/2灰オリーブ色	越州窯系
108	土師器	皿	土坑175	(9.9)	1.5		70	7.5YR6/3にぶい橙色 胎土精良	
109	土師器	皿	土坑175	(10.3)	1.5		40	7.5YR7/6橙色 胎土精良	
110	土師器	皿	土坑175	10.4	1.4		80	7.5YR8/4浅黄橙色 胎土精良	
111	土師器	皿	土坑175	10.8	1.1		90	7.5YR8/3浅黄橙色 胎土精良	
112	土師器	皿	土坑175	(10.8)	1.3		40	10YR8/2灰白色 10YR6/1褐灰色 胎土精良	
113	土師器	皿	土坑175	(13.9)	2.7		20	7.5YR8/4浅黄橙色 胎土精良	
114	土師器	皿	土坑175	(14.2)	(2.6)		10	7.5YR8/4浅黄橙色 胎土精良	
115	土師器	皿	土坑175	(15.0)	(1.9)		15	10YR8/3浅黄橙色 胎土精良	
116	土師器	皿	土坑175	(16.0)	2.1		20	7.5YR8/4浅黄橙色 胎土精良	
117	土師器	甕	土坑175	(14.8)	(2.4)		15	5YR7/6橙色 5YR6/2褐灰色 胎土やや粗 φ5mm以下の石英・長石・チャート多量含	
118	土師器	甕	土坑175	(17.4)	(4.8)		10	7.5YR6/4にぶい橙色 胎土精良	
119	須恵器	椀	土坑175		(1.4)	(5.4)	20	N6/灰色 断面7.5YR6/3にぶい橙色 胎土精良	
120	須恵器	鉢	土坑175		(3.3)	(10.8)	20	N6/灰色 胎土精良	
121	須恵器	壺	土坑175				40	2.5YR4/3にぶい赤褐色 5Y7/2灰白色 内面2.5YR5 /2灰赤色 胎土精良 φ1mm以下の石英・長石微量含	
122	灰釉陶器	椀	土坑175		(2.3)	(6.6)	20	2.5YR8/2灰白色 胎土精良	
123	灰釉陶器	椀	土坑175		(1.9)	(5.0)	20	N8/灰白色 胎土精良	
124	緑釉陶器	椀	土坑175	8.4	3.8	4.4	70	5Y8/3淡橙色 釉濃緑色 胎土精良 焼成軟質	近江系 内面に漆膜附着
125	瓦器	椀	土坑175	(14.4)	(4.2)		25	N3/暗灰色 胎土精良	
126	瓦器	椀	土坑175	(14.8)	(2.7)		5	N3/暗灰色 胎土精良	
127	瓦器	椀	土坑175	(15.3)	(2.1)		10	N3/暗灰色 胎土精良	
128	土師器	皿	土坑150	(9.6)	(1.4)		25	7.5YR7/4にぶい橙色 胎土精良	
129	土師器	皿	土坑150	(10.0)	(1.5)		20	2.5Y7/2灰黄色 胎土精良	灯明皿
130	土師器	皿	土坑150	(10.4)	(1.6)		15	10YR7/4にぶい黄橙色 胎土精良	
131	土師器	皿	土坑150	(8.1)	(1.5)		25	2.5Y8/2灰色 胎土精良	灯明皿
132	土師器	皿	土坑150	(9.8)	1.5		40	7.5YR7/6橙色 胎土精良 クサリレキ多量含	

No.	器種	器形	出土遺構	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存率 (%)	色調 胎土	備考
133	土師器	皿	土坑150	(9.8)	1.5		50	7.5YR7/6橙色 胎土精良 クサリレキ多量含	
134	土師器	皿	土坑150	(8.8)	1.8		25	10YR7/.2にぶい黄橙色 胎土精良	
135	土師器	皿	土坑150	10.1	1.7		70	10YR8/4浅黄橙色 胎土精良 胎土精良	
136	土師器	皿	土坑150	(13.7)	2.5		10	10YR7/3にぶい黄橙色 胎土精良	
137	土師器	皿	土坑150	(13.8)	(2.0)		10	10YR7/3にぶい黄橙色 胎土精良	
138	土師器	皿	土坑150	(14.6)	(2.1)		10	2.5Y7/4浅黄色 胎土精良	
139	土師器	皿	土坑150	(14.4)	2.3		20	7.5YR7/6橙色 胎土精良 クサリレキ多量含	
140	土師器	皿	土坑150	(14.7)	2.7		30	7.5YR7/6橙色 胎土精良 クサリレキ多量含	
141	土師器	皿	土坑150	(15.4)	2.5		40	10YR7/4にぶい黄橙色 胎土精良	
142	灰釉陶器	皿	土坑150		(2.0)	(6.0)	30	2.5Y7/1灰白色 胎土精良	
143	灰釉陶器	椀	土坑150		(2.6)	7.3	20	5Y7/1灰白色 胎土精良	
144	須恵器	壺	土坑150	(7.0)	(8.0)		30	外面7.5YR8/2灰白色 内面5YR5/8明赤褐色 胎土粗 φ7.0mm以下の長石・石英・チャート含	
145	瓦器	椀	土坑150	(14.8)	(2.7)		5	N3/暗灰色 胎土精良	
146	瓦器	椀	土坑150	(14.8)	(2.1)		5	N3/暗灰色 胎土精良	
147	輸入白磁	椀	土坑150	(15.6)	(3.8)		10	2.5Y8/2灰白色 釉2.5Y8/3浅黄色	
148	輸入白磁	椀	土坑150		(3.5)	(5.8)	15	N8/灰白色 釉7.5Y7/2灰色	
149	輸入白磁	椀	土坑150		(3.1)	(6.0)	10	2.5Y8/2灰白色 釉5Y7/3浅黄色	
150	輸入白磁	椀	土坑150		(2.9)	(6.2)	10	5Y7/1灰白色 釉10Y7/1灰白色	
151	土師器	皿	土坑151	9.8	1.6		100	7.5YR7/4にぶい橙色 胎土精良 クサリレキ多量含	
152	土師器	皿	土坑151	(10.0)	1.5		30	10YR8/3浅黄橙色 断面10YR2/1黒色 胎土精良 φ0.5mm以下の石英含む	
153	土師器	皿	土坑151	(16.8)	2.9		20	10YR7/3にぶい黄橙色 胎土精良 クサリレキ多量含	
154	土師器	皿	平安後期 砂層	(14.9)	2.5		20	7.5YR7/4にぶい橙色 胎土精良	
155	土師器	皿	平安後期 砂層	(16.0)	3.1		30	7.5YR8/4浅黄橙色 胎土精良	
156	瓦器	椀	平安後期 砂層	(13.8)	(2.5)		5	N3/暗灰色 胎土精良	
157	輸入白磁	椀	平安後期 砂層	(14.5)	(3.9)		10	N8/灰白色 釉10Y8/1灰色	
158	土師器	皿	平安末 整地層	(8.8)	1.3		20	10YR8/3浅黄橙色 胎土精良	
159	土師器	皿	平安末 整地層	(9.8)	1.8		50	10YR8/3浅黄橙色 胎土精良	
160	土師器	皿	平安末 整地層	(14.8)	2.7		20	7.5YR7/6橙色 胎土精良	
161	土師器	皿	平安末 整地層	(14.9)	2.6		10	7.5YR7/4にぶい橙色 胎土精良	
162	土師器	皿	平安末 整地層	(15.2)	2.0		20	7.5YR7/4にぶい橙色 胎土精良	
163	土師器	皿	平安末 整地層	(16.0)	2.5		15	7.5YR7/4にぶい橙色 胎土精良	
164	土師器	皿	平安末 整地層	(16.0)	3.0		40	7.5YR7/4にぶい橙色 胎土精良 クサリレキ多量含	
165	土師器	羽釜	平安末 整地層	(17.0)	(9.8)		30	7.5YR7/6橙色 胎土精良	

No.	器種	器形	出土遺構	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存率 (%)	色調 胎土	備考
166	輸入白磁	合子蓋	平安末 整地層	(5.1)	1.4		20	N8/灰白色 釉10GY8/1明緑灰色	
167	土師器	皿	土坑146	(8.8)	2.0		30	10YR7/4にぶい黄橙色 胎土やや粗 φ4.0mm以下の長石・石英多量含	
168	土師器	皿	土坑146	(12.4)	2.3		40	10YR7/4にぶい黄橙色 胎土精良	
169	土師器	皿	土坑146	(12.4)	2.2		15	10YR7/4にぶい黄橙色 胎土精良	
170	土師器	皿	土坑146	(12.8)	(2.2)		10	10YR6/4にぶい黄橙色 胎土精良	
171	土師器	皿	土坑146	(12.8)	(2.6)		40	10YR7/4にぶい黄橙色 胎土精良	
172	土師器	皿	土坑146	(13.9)	3.4		50	10YR7/4にぶい黄橙色 胎土精良	
173	須恵器	甕	土坑146	(24.0)	(6.2)		20	N5/灰色 胎土精良 φ1.5mm以下の長石・石英・チャート含む	
174	輸入白磁	皿	土坑146	(10.5)	(2.2)		20	2.5Y8/2灰白色 釉2.5Y8/2灰白色	
175	土師器	皿	土坑90	7.2	1.0		90	10YR7/3にぶい黄橙色 胎土精良	
176	土師器	皿	土坑90	(8.3)	1.4		30	2.5Y7/3浅黄色 胎土精良	灯明皿
177	土師器	皿	土坑90	(8.4)	1.2		40	10YR7/3にぶい黄橙色 胎土精良	
178	土師器	皿	土坑90	8.5	1.4		100	10YR7/4にぶい黄橙色 胎土精良	
179	土師器	皿	土坑90	8.7	1.6		90	10YR7/4にぶい黄橙色 胎土精良	
180	土師器	皿	土坑90	9.0	1.8		80	2.5Y7/2灰黄色 胎土精良	
181	土師器	皿	土坑90	12.0	2.3		60	10YR7/4にぶい黄橙色 胎土精良	
182	土師器	皿	土坑90	(12.8)	2.3		35	7.5YR7/4にぶい褐色 胎土精良	
183	土師器	皿	土坑90	(13.2)	2.5		20	7.5YR7/4にぶい褐色 胎土精良	
184	土師器	皿	土坑90	(13.2)	2.6		20	10YR7/3にぶい黄橙色 胎土精良	
185	土師器	皿	土坑90	(10.8)	3.1		25	10YR8/2灰白色 胎土精良	
186	瓦質土器	鍋	土坑90	(21.8)	(7.3)		12	2.5Y6/1黄灰色 胎土精良 φ3.0mm以下の石英・長石・チャート含	
187	土師器	皿	土坑54	6.2	1.6		75	7.5YR8/3浅黄橙色 胎土精良	
188	土師器	皿	土坑54	(6.2)	1.8		35	7.5YR8/4浅黄橙色 胎土精良	
189	土師器	皿	土坑54	6.7	1.7		98	10YR8/2灰白色 胎土精良	
190	土師器	皿	土坑54	7.1	1.8		95	7.5YR8/3浅黄橙色 胎土精良	
191	土師器	皿	土坑54	7.2	1.7		98	7.5YR8/4浅黄橙色 胎土精良	
192	土師器	皿	土坑54	7.3	1.7		90	7.5YR8/3浅黄橙色 胎土精良	
193	土師器	皿	土坑54	7.7	1.8		100	7.5YR8/4浅黄橙色 胎土精良	
194	土師器	皿	土坑54	7.7	1.8		100	7.5YR8/3浅黄橙色 胎土精良	
195	土師器	皿	土坑54	7.9	1.8		90	7.5YR8/3浅黄橙色 7.5YR8/4浅黄橙色 胎土精良	
196	土師器	皿	土坑54	7.7	1.9		100	7.5YR8/4浅黄橙色 胎土精良	
197	土師器	皿	土坑54	7.8	2.0		100	10YR8/3浅黄橙色 胎土精良	
198	土師器	皿	土坑54	7.9	1.8		100	10YR8/3浅黄橙色 胎土精良	

No.	器種	器形	出土遺構	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存率 (%)	色調 胎土	備考
199	土師器	皿	土坑54	8.1	1.7		100	7.5YR8/3浅黄橙色 胎土精良	
200	土師器	皿	土坑54	8.1	2.0		100	7.5YR8/3浅黄橙色 胎土精良	灯明皿
201	土師器	皿	土坑54	8.1	1.9		100	7.5YR8/3浅黄橙色 胎土精良	
202	土師器	皿	土坑54	(10.4)	1.9		30	7.5YR8/4浅黄橙色 胎土精良	
203	土師器	皿	土坑54	11.3	2.4		60	7.5YR8/6浅黄橙色 胎土精良	灯明皿
204	土師器	皿	土坑54	11.4	2.2		70	7.5YR8/3浅黄橙色 胎土精良	
205	土師器	皿	土坑54	11.5	2.4		100	7.5YR8/4浅黄橙色 胎土精良	
206	土師器	皿	土坑54	11.6	2.4		55	7.5YR8/4浅黄橙色 胎土精良	灯明皿
207	土師器	皿	土坑54	11.8	2.2		60	7.5YR8/3浅黄橙色 胎土精良	灯明皿
208	土師器	皿	土坑54	11.9	2.3		55	7.5YR8/3浅黄橙色 胎土精良	灯明皿
209	土師器	皿	土坑54	(12.0)	2.1		40	7.5YR8/4浅黄橙色 胎土精良	
210	土師器	皿	土坑54	12.0	2.5		100	7.5YR8/2灰白色 胎土精良	
211	土師器	皿	土坑54	(12.2)	2.3		40	7.5YR8/3浅黄橙色 胎土精良	灯明皿
212	土師器	皿	土坑54	(12.6)	2.3		40	7.5YR7/4にぶい橙色 胎土精良	灯明皿
213	土師器	皿	土坑54	(13.8)	2.7		20	7.5YR8/3浅黄橙色 胎土精良	
214	土師器	皿	土坑54	14.3	2.7		70	7.5YR8/6浅黄橙色 胎土精良	
215	土師器	皿	土坑54	(14.6)	2.2		30	7.5YR8/4浅黄橙色 胎土精良	
216	土師器	皿	土坑54	(14.6)	2.2		35	7.5YR8/4浅黄橙色 胎土精良	
217	土師器	皿	土坑54	(14.7)	2.4		20	7.5YR7/6橙色 胎土精良	
218	土師器	皿	土坑54	(14.7)	2.5		40	7.5YR8/4浅黄橙色 胎土精良	
219	土師器	皿	土坑54	(15.7)	2.7		15	7.5YR8/4浅黄橙色 胎土精良	
220	土師器	皿	土坑54	(15.9)	2.9		30	7.5YR8/4浅黄橙色 胎土精良	
221	土師器	皿	土坑54	(7.0)	1.2		25	7.5YR8/4浅黄橙色 胎土精良	赤系 灯明皿
222	土師器	皿	土坑54	(7.5)	1.5		45	7.5YR7/4にぶい黄橙色	赤系
223	土師器	皿	土坑54	(7.8)	1.4		30	7.5YR7/6橙色 胎土精良	赤系
224	土師器	皿	土坑54	(7.8)	1.6		40	10YR8/3浅黄橙色 胎土精良	赤系
225	土師器	皿	土坑54	(8.0)	1.6		40	10YR7/3にぶい黄橙色	赤系
226	土師器	蓋	土坑54				5	7.5YR7/3にぶい黄橙色 胎土粗 φ15mm以下のチャート多量含	
227	土師器	蓋	土坑54				5	7.5YR7/4にぶい黄橙色 胎土粗 φ15mm以下のチャート多量含	
228	鑄造関連 遺物	取瓶	土坑54	(4.5)	2.4		40	10YR6/2灰黄褐色 胎土粗	
229	瓦質土器	小壺	土坑54	(2.8)	2.9		40	10YR6/1褐灰色 胎土精良	つぼつぼ
230	瓦質土器	ミニチュア 羽釜	土坑54	(2.7)	(3.1)		45	10YR7/1灰白色 胎土精良	
231	瓦質土器	火鉢	土坑54				5	N6/灰色 胎土精良	

No.	器種	器形	出土遺構	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存率 (%)	色調 胎土	備考
232	施釉陶器	椀	土坑54	(8.8)	(3.1)		40	10YR8/1灰白色 釉10YR4/6褐色 胎土精良	瀬戸美濃系 天目茶椀
233	輸入白磁	蓋	土坑54					2.5Y8/1灰白色	犬形 蓋のツマミか
234	土師器	皿	井戸102	5.3	1.3		100	7.5YR7/3にぶい橙色 胎土精良	
235	土師器	皿	井戸102	5.3	1.3		100	10YR7/4にぶい黄橙色 胎土精良	
236	土師器	皿	井戸102	5.4	1.2		100	7.5YR7/3にぶい橙色 胎土精良	
237	土師器	皿	井戸102	5.6	1.1		100	10YR8/4浅黄橙色 胎土精良	
238	土師器	皿	井戸102	5.7	1.0		100	7.5YR8/4浅黄橙色 胎土精良	
239	土師器	皿	井戸102	5.8	1.2		100	10YR8/3浅黄橙色 胎土精良	
240	土師器	皿	井戸102	(8.8)	1.9		30	7.5YR7/4にぶい橙色 胎土精良	
241	土師器	皿	井戸102	(8.9)	2.0		40	7.5YR7/4にぶい橙色 胎土精良	
242	土師器	皿	井戸102	(8.9)	2.0		30	7.5YR7/4にぶい橙色 胎土精良	
243	土師器	皿	井戸102	(9.2)	2.1		45	内面7.5YR7/3にぶい橙色 外面10YR5/1褐灰色 胎土精良	
244	土師器	皿	井戸102	(9.8)	2.0		25	10YR8/3浅黄橙色 胎土精良	
245	土師器	皿	井戸102	(9.8)	(1.9)		20	10YR8/3浅黄橙色 胎土精良	
246	土師器	皿	井戸102	(10.0)	2.4		20	10YR8/3浅黄橙色 胎土精良	
247	土師器	皿	井戸102	(10.4)	(2.1)		20	7.5YR7/3にぶい橙色 胎土精良	
248	土師器	皿	井戸102	(11.0)	2.0		30	7.5YR7/4にぶい橙色 胎土精良	灯明皿
249	土師器	皿	井戸102	(11.7)	(2.1)		20	7.5YR7/4にぶい橙色 胎土精良	灯明皿
250	土師器	皿	井戸102	(11.7)	2.3		35	10YR8/2灰白色 胎土精良	
251	土師器	皿	井戸102	(12.0)	2.2		40	10YR8/3浅黄橙色 胎土精良	
252	土師器	皿	井戸102	12.8	2.2		80	7.5YR8/4浅黄橙色 胎土精良	灯明皿
253	瓦質土器	小壺	井戸102	(1.7)	3.1		45	10YR5/1褐灰色 胎土精良	つぼつぼ
254	焼締陶器	壺	井戸102	(3.8)	(6.4)		15	7.5YR5/3にぶい褐色 胎土精良 φ0.5mm以下の長石含	備前
255	焼締陶器	鉢	井戸102	(26.8)	4.0	(18.0)	5	2.5Y4/2灰赤色 胎土精良 φ4mm以下の長石・チャート含	備前
256	焼締陶器	壺	井戸102		(18.6)	9.2	70	5YR4/3にぶい赤褐色 胎土精良 φ2.5mm以下の石英・長石・チャート含	丹波
257	焼締陶器	播鉢	井戸102	(27.6)	14.5	(9.8)	40	2.5Y6/6橙色 胎土やや粗 φ8mm以下の石英・長石・チャート含	信楽 5条1単位播目
258	焼締陶器	播鉢	井戸102	(25.8)	12.4	12.0	20	2.5YR5/1赤灰白 胎土粗 φ5.5mm以下の石英・長石・チャート含	丹波 4条と5条の 交互の播目
259	焼締陶器	播鉢	井戸102	12.0	(6.9)		20	5YR6/4にぶい橙色 胎土やや粗 φ5mm以下の石英・長石・チャート含	信楽 6条1単位播目
260	軟質施釉陶器	香炉	井戸102	(7.8)	7.0	3.6	70	5YR6/6褐色 釉7.5Y7/1灰白色 胎土精良 φ1mm以下の長石・チャート含	
261	施釉陶器	皿	井戸102	11.2	2.3	5.6	100	7.5Y8/1灰白色 釉7.5Y6/3オリーブ黄色 胎土精良	黄瀬戸
262	施釉陶器	盤	井戸102	(29.6)	(4.8)		20	10YR7/3にぶい黄橙色 釉5Y7/3浅黄色 胎土精良 φ0.5mm以下の長石・チャート含	黄瀬戸 見込みに陰刻花文
263	施釉陶器	椀	井戸102	(8.3)	(6.7)		30	2.5Y6/2灰黄色 釉5Y7/1灰白色 胎土精良 φ0.5mm以下のチャート含	志野
264	施釉陶器	椀	井戸102	10.1	5.6	4.0	80	2.5Y7/3浅黄色 釉5Y8/1灰白色 胎土精良 φ1.0mm以下の長石・石英含む	志野

No.	器種	器形	出土遺構	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存率 (%)	色調 胎土	備考
265	施釉陶器	椀	井戸102	(11.0)	6.3	4.0	50	5Y7/1灰白色 釉7.5Y4/3暗オリーブ色 胎土精良	唐津
266	施釉陶器	椀	井戸102	(12.6)	(6.6)		30	5Y7/2灰白色 釉10YR5/2オリーブ灰色 胎土精良	唐津
267	輸入青花	椀	井戸102		(1.5)	3.6	30	5Y7/1灰白色 2.5GY8/2灰白色	
268	輸入青花	盤	井戸102	(38.7)	8.4	(16.4)	20	10YR8/3浅黄橙色 胎土精良	漳州窯
269	土師器	皿	土坑196	5.2	1.1		100	10YR8/3浅黄橙色 胎土精良	
270	土師器	皿	土坑196	5.7	1.4		100	10YR8/3浅黄橙色 胎土精良	
271	土師器	皿	土坑196	5.8	1.2		100	10YR8/3浅黄橙色 胎土精良	
272	土師器	皿	土坑196	6.0	1.1		100	10YR8/3浅黄橙色 7.5YR5/2褐灰色 胎土精良	
273	土師器	皿	土坑196	(9.3)	2.0		40	7.5YR8/4浅黄橙色 胎土精良	
274	土師器	皿	土坑196	(9.7)	2.1		40	7.5YR7/4にぶい橙色 胎土精良	
275	土師器	皿	土坑196	(10.3)	2.0		20	7.5YR5/1褐灰色 胎土精良	
276	土師器	皿	土坑196	(10.6)	2.1		25	内面7.5YR7/1明褐灰色 7.5YR3/1黒褐色 外面	灯明皿
277	土師器	皿	土坑196	(10.8)	2.3		15	7.5YR3/1黒褐色 胎土精良	
278	土師器	皿	土坑196	11.0	2.2		50	10YR8/3浅黄橙色 胎土精良	灯明皿
279	土師器	皿	土坑196	(11.3)	2.2		45	7.5YR8/4浅黄橙色 胎土精良	
280	土師器	皿	土坑196	(11.8)	1.6		20	7.5YR8/4浅黄橙色 胎土精良	
281	土師器	壺壺蓋	土坑196	6.4	1.9		80	5YR7/4にぶい橙色 7.5YR4/1褐灰色 胎土精良	
282	土師器	小壺	土坑196	2.3	2.5		100	10YR8/3浅黄橙色 胎土精良	つぼつぼ
283	土師器	鍋	土坑196	29.0	(7.9)		70	7.5YR7/3にぶい橙色 胎土精良	焙烙鍋
284	土師器	鍋	土坑196	(30.2)	(7.3)		40	10YR8/3浅黄橙色 胎土精良	焙烙鍋
285	瓦質土器	壺	土坑196	(21.0)	(9.3)		25	N3/暗灰色 胎土精良	
286	焼締陶器	播鉢	土坑196	(31.7)	(16.7)	(10.4)	30	N3/暗灰色 胎土精良 φ1mm以下の長石・石英含	8条1単位播目
287	焼締陶器	播鉢	土坑196	(28.0)	11.9	(8.2)	25	5YR5/3にぶい赤褐色 胎土精良 φ7.0mm以下の石英・長石・チャート少量含	5条1単位播目
288	焼締陶器	播鉢	土坑196				5	10YR6/4にぶい黄橙色 胎土精良	5条1単位播目
289	焼締陶器	鉢	土坑196	13.8	(5.9)		20	5YR3/3暗赤褐色 胎土やや粗 φ2.0mm以下の石英・長石多量含	信楽
290	施釉陶器	椀	土坑196	9.7	7.1		60	2.5Y8/2灰白色 釉7.5YR4/4褐色 胎土精良	瀬戸美濃系 天目茶椀
291	施釉陶器	椀	土坑196	10.9	7.2		90	2.5Y8/2灰白色 釉7.5YR2/2黒褐色 胎土精良	瀬戸美濃系 天目茶椀
292	施釉陶器	椀	土坑196	(10.9)	(5.9)		20	2.5Y7/3浅黄色 釉2.5YR2/1赤黒色 胎土精良	瀬戸美濃系 天目茶椀
293	施釉陶器	椀	土坑196	11.1	7.2	4.8	40	5Y8/2灰白色 釉7.5YR4/2灰褐色 胎土精良	瀬戸美濃系 天目茶椀
294	施釉陶器	椀	土坑196	11.2	6.9	4.4	40	2.5Y8/2灰白色 釉7.5YR3/1黒褐色 胎土精良	瀬戸美濃系 天目茶椀
295	施釉陶器	椀	土坑196	(11.2)	5.2		20	2.5Y8/3淡黄色 釉7.5YR4/4褐色 胎土精良	瀬戸美濃系 天目茶椀
296	施釉陶器	皿	土坑196	(14.3)	3.0	(7.0)	30	2.5Y8/3淡黄色 釉7.5Y5/3灰オリーブ色 胎土精良 φ1.0mm以下の長石・チャート含	織部
297	施釉陶器	皿	土坑196	(13.0)	2.9	(6.4)	40	2.5Y8/3淡黄色 釉7.5Y5/4暗オリーブ色 胎土精良	織部

No.	器種	器形	出土遺構	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存率 (%)	色調 胎土	備考
298	施釉陶器	椀	土坑196	10.8	6.6	4.2	90	7.5YR6/6橙色 釉2.5Y5/2暗灰黄色 胎土精良	唐津
299	施釉陶器	椀	土坑196	(11.5)	7.5	4.5	20	5Y7/1灰白色 釉2.5Y7/2灰黄色 胎土精良	唐津
300	施釉陶器	椀	土坑196	10.7	7.3	4.5	98	10YR7/4にぶい黄橙色 釉10YR6/3にぶい黄橙色 胎土精良	唐津
301	施釉陶器	椀	土坑196	(10.2)	7.0	4.3	50	7.5YR5/4にぶい褐色 釉5Y7/2灰白色 胎土精良	唐津
302	施釉陶器	皿	土坑196	(14.0)	4.2	4.6	50	10YR6/4にぶい黄褐色 釉10YR5/4にぶい黄橙色 胎土精良	唐津
303	施釉陶器	皿	土坑196	(9.9)	3.3	3.8	60	2.5Y7/2灰黄色 釉葉5Y6/2灰オリーブ色 胎土精良	唐津
304	施釉陶器	鉢	土坑196	(13.5)	12.5	(9.0)	60	10YR5/3にぶい黄褐色 釉7.5Y7/2灰白色 胎土精良	高取
305	施釉陶器	皿	土坑196	(7.7)	2.6	(4.0)	40	5Y8/2灰白色 釉5Y8/2灰白色 胎土精良	志野
306	施釉陶器	椀	土坑196	(11.5)	7.7	5.0	60	2.5Y8/2灰白色 5Y8/1灰白色 胎土精良	志野
307	輸入青花	椀	土坑196		(2.0)	2.8	20		
308	輸入青花	椀	土坑196		(2.0)	2.9	20		
309	輸入青花	椀	土坑196	(6.9)	4.2	3.2	20		
310	土師器	皿	土坑197	5.2	1.2		100	10YR7/3にぶい黄橙色 胎土精良	灯明皿
311	土師器	皿	土坑197	5.4	1.1		100	10YR7/3にぶい黄橙色 胎土精良	
312	土師器	皿	土坑197	5.5	1.2		100	10YR7/3にぶい黄橙色 胎土精良	
313	土師器	皿	土坑197	5.8	1.2		100	10YR7/2にぶい黄橙色 胎土精良	
314	土師器	皿	土坑197	(9.3)	2.0		40	10YR7/3にぶい黄橙色 胎土精良	
315	土師器	皿	土坑197	(9.3)	2.0		30	2.5Y7/2灰黄色 胎土精良	灯明皿
316	土師器	皿	土坑197	(9.5)	2.1		30	10YR7/3にぶい黄橙色 胎土精良	
317	土師器	皿	土坑197	9.6	1.9		60	10YR7/3にぶい黄橙色 胎土精良	灯明皿
318	土師器	皿	土坑197	(10.4)	(2.0)		40	10YR7/3にぶい黄橙色 胎土精良	灯明皿
319	土師器	皿	土坑197	(10.6)	2.0		30	7.5YR6/3にぶい橙色 胎土精良	
320	土師器	皿	土坑197	(10.6)	2.1		70	10YR7/4にぶい黄橙色 胎土精良	灯明皿
321	土師器	皿	土坑197	(10.7)	(2.1)		30	10YR7/3にぶい黄橙色 胎土精良	
322	土師器	皿	土坑197	11.0	2.2		90	10YR7/4にぶい黄橙色 胎土精良	灯明皿
323	土師器	皿	土坑197	11.2	2.0		100	10YR7/3にぶい黄橙色 胎土精良	灯明皿
324	土師器	鍋	土坑197	28.8	(7.4)		35	10YR6/3にぶい黄橙色 胎土精良	焙烙鍋
325	土師器	鍋	土坑197	(29.0)	(5.5)		20	10YR6/3にぶい黄橙色 胎土精良	焙烙鍋
326	焼締陶器	甕	土坑197				5	7.5YR4/2灰褐色 胎土精良	備前
327	焼締陶器	播鉢	土坑197		(10.7)		10	5YR5/6明赤褐色 胎土精良 φ5.5mm以下の石英・長石・チャート含	信楽 6条1単位播目
328	焼締陶器	播鉢	土坑197	(34.6)	(8.6)		10	2.5Y6/1黄灰色 外面5YR4/3にぶい赤褐色 胎土粗 φ4.0mm以下の石英・長石・チャート多量含	丹波 6条1単位播目
329	焼締陶器	播鉢	土坑197	(29.6)	(12.2)		15	2.5Y6/1黄灰色 外面5YR4/2灰褐色 胎土精良 φ3mm以下の石英・長石・チャート含	7条1単位播目
330	施釉陶器	椀	土坑197	8.0	4.5	3.7	80	7.5YR5/4にぶい褐色 釉2.5GY7/1明オリーブ色 胎土精良	唐津

No.	器種	器形	出土遺構	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存率 (%)	色調 胎土	備考
331	施釉陶器	鉢	土坑197	(18.2)	6.6	7.7	50	10YR6/3にぶい黄橙色 釉5GY7/1明オリーブ灰色 胎土精良	唐津
332	施釉陶器	壺	土坑197		(19.4)	8.2	60	2.5Y6/2灰黄色 外面7.5YR3/3暗褐色 釉5Y4/3暗オリーブ色 胎土精良	高取
333	施釉陶器	皿	土坑197		(3.8)	6.5	60	10YR6/4にぶい黄橙色 釉5Y7/1灰白色 胎土精良	志野
334	施釉陶器	椀	土坑197	(10.4)	6.5	(4.8)	40	2.5Y8/2灰白色 釉7.5YR3/4暗褐色 胎土精良	瀬戸美濃 天目茶椀
335	施釉陶器	椀	土坑197	(11.5)	6.9	4.7	60	2.5Y8/2灰白色 釉7.5YR3/4暗褐色 胎土精良	瀬戸美濃 天目茶椀
336	施釉陶器	椀	土坑197	(11.1)	7.4	4.9	40	5Y8/2灰白色 釉7.5YR4/3褐色 胎土精良	瀬戸美濃 天目茶椀
337	土師器	皿	水溜66	9.6	1.8		100	10YR8/4浅黄橙色 胎土精良	
338	土師器	鉢	水溜66	10.8	4.7		100	2.5Y8/4淡黄橙色 胎土精良	
339	土師器	鍋	水溜66	(29.5)	(5.5)		25	10YR8/4浅黄橙色 胎土精良	焙烙鍋
340	焼締陶器	鉢	水溜66	(26.2)	16.5	13.8	40	2.5Y6/1黄灰色 外面7.5YR5/3にぶい褐色 胎土粗 φ13mm以下の石英・長石・チャート多量含	
341	焼締陶器	播鉢	水溜66	34.6	(6.0)		6	2.5YR5/6明赤褐色 胎土精良 φ6mm以下の石英・長石・チャート含	丹波
342	焼締陶器	播鉢	水溜66	34.9	(6.9)		6	2.5YR4/3にぶい赤褐色 胎土粗 φ6mm以下の石英・長石・チャート多量含	
343	施釉陶器	皿	水溜66	(11.6)	2.6	(6.5)	40	5Y8/1灰白色 釉5Y8/2灰白色 胎土精良	志野
344	土製品	土馬	溝290				60	7.5YR7/4にぶい橙色 胎土精良	
345	土製品	土錘	路面Ⅲ 構築土				70	10YR7/2にぶい黄橙色 胎土精良	
346	土製品	丁銀 模造品	水溜22				100	5Y7/4にぶい橙色 胎土精良	
347	土製品	犬形 土製品	井戸102				60	2.5YR5/6明赤褐色 胎土精良	
348	土製品	犬形 土製品	井戸102				50	5YR6/3にぶい橙色 胎土精良	
349	土製品	犬形 土製品	井戸102				50	10YR8/3浅黄橙色 胎土精良	

※ 口径・底径()内数値は復元口径・底径
器高の()内数値は残存高

表6 1・2区 瓦類一覧表

No.	種類	文様	出土遺構	胎土	色調	焼成	形態・手法の特徴	産地・時期	備考
瓦1	軒丸	蓮華文	路面Ⅲ構築土	やや粗 φ6mm以下の砂粒多量含	2.5Y4/1黄灰色	軟質	単弁8弁蓮華文、瓦当裏面破損のため成形不明。	平安中期	
瓦2	軒丸	蓮華文	攪乱	密	外面N4/灰 断面N8/灰白色	やや軟質	単弁12弁、蓮子は1+4。単弁は盛り上がる。間弁は三角形。瓦当側面・裏面ともに粗いナデ。	平安中期	
瓦3	軒丸	蓮華文	土坑150(3期)	密	5Y7/1灰白色	軟質	単弁12弁。改范して界線と珠文を付け足す。改范前の蓮弁の先が界線からはみ出して残る。蓮子は1+7。瓦当側面・裏面ともにナデ。	山城 平安中期か	
瓦4	軒丸	蓮華文	攪乱	密	2.5Y7/2灰黄色	軟質	複弁6弁で単弁6弁の間弁がめぐる。蓮子は1+4。瓦当側面粗いナデ、瓦当裏面横ナデ。	山城 平安後期	瓦5・6と同范
瓦5	軒丸	蓮華文	井戸102(6期)	密 φ10mm以下のチャート含	5Y7/2灰白色	軟質	複弁6弁で単弁6弁の間弁がめぐる。蓮子は1+4。瓦当側面裏面とも粗いナデ。	山城 平安後期	
瓦6	軒丸	蓮華文	平安末整地層	密 φ7mm以下のチャート少量含	5Y7/1灰白色	軟質	複弁6弁で単弁6弁の間弁がめぐる。蓮子は1+4。	山城 平安後期	
瓦7	軒丸	蓮華文	攪乱	密	外面N7/灰白色 断面N4/灰白色	やや軟質	単弁12弁。蓮子は無し。瓦当側面横ケズリ、瓦当裏面オサエ。	山城 平安後期	瓦8と同范
瓦8	軒丸	蓮華文	土坑150(3期)	密	2.5Y8/21灰白色	軟質	単弁12弁。瓦当側面横ケズリ、瓦当裏面上半ナデ、下半ケズリ。	山城 平安後期	
瓦9	軒丸	蓮華文	平安後期砂層	やや粗 φ3mm以下の砂粒多量含	N4/灰色	硬質	単弁6弁。瓦当側面横ケズリ、瓦当裏面オサエ。	山城 平安後期	
瓦10	軒丸	蓮華文	土坑54(5期)	密	外面N4/灰色 断面N8/灰白色	やや軟質	複弁6弁。瓦当側面・裏面ともに横ケズリ。	山城 平安後期	
瓦11	軒丸	蓮華文	集石17(5期)	粗 φ3mm以下の砂粒多量含	2.5Y6/1黄灰色	軟質	単弁8弁か。磨滅のため調整不明。	山城 平安前期か	
瓦12	軒丸	巴文	路面Ⅴ構築土	粗 φ2mm以下の砂粒多量含	N5/灰色	硬質	左巻きの三巴文。瓦当側面ナデ、瓦当裏面縦ナデ。	山城 平安後期 ～鎌倉	
瓦13	軒丸	巴文	土坑276(5期)	やや粗 φ3mm以下の砂粒含	N6/灰白色	硬質	左巻きの三巴文。瓦当側面ナデ、瓦当裏面ケズリ。	山城 平安後期 ～鎌倉	
瓦14	軒丸	巴文	室町整地層	やや粗 φ4mm以下の砂粒多量含	外面7.5YR6/4にぶい 橙色 断面7.5YR3/1黒褐色	硬質	左巻きの三巴文。瓦当側面細かい単位の縦ヘラケズリ、瓦当裏面オサエ。	山城 平安後期 ～鎌倉	
瓦15	軒丸	巴文	攪乱	やや粗 φ4mm以下の砂粒含	外面N4/灰色 断面10YR7/2にぶい 黄橙色	やや軟質	左巻きの三巴文。瓦当側面細かい単位の縦ヘラケズリ、瓦当裏面横ナデ。	山城 平安後期 ～鎌倉	
瓦16	軒丸	巴文	路面Ⅳ構築土	やや粗 φ5mm以下の砂粒含	2.5Y7/3浅黄色	やや軟質	右巻きの三巴文。径の大きい珠文が密にめぐる。瓦当側面細かい単位の縦ヘラケズリ、瓦当裏面ナデ。丸瓦部凸面縄タキで瓦当との接合部を縦にケズリ。丸瓦凹面は布目。	山城 平安後期 ～鎌倉	
瓦17	軒平	唐草文	路面Ⅲ構築土	粗 φ3mm以下の砂粒多量、クサリレキ含	7.5YR7/2明赤褐色	軟質	均整唐草文。曲線顎。瓦当側面縦ヘラケズリ、瓦当凹面凸面横ヘラケズリ。平瓦部凹面布目、凸面縦ミガキ凸面にベンガラ付着。	摂津岸部 平安前期	二次焼成
瓦18	熨斗		土坑163(2期)	やや粗 φ2mm以下の砂粒多量含		軟質	緑釉熨斗瓦。側面と凸面端から幅3.6cmに緑釉。	平安前期	
瓦19	軒平	連巴文	攪乱	密	2.5Y7/1灰白色	硬質	曲線顎。瓦当部成形は差し込み式。瓦当側面・裏面ともに横ナデ	播磨 平安後期	
瓦20	軒平	唐草文	土坑150(3期)	やや粗 φ5mm以下の砂粒多量含	10YR7/3にぶい 黄橙色	硬質	内向の均整唐草文。曲線顎。瓦当部成形は半折り曲げ式。瓦当凹面布目、凸面横ヘラケズリ。瓦当側面横ヘラケズリ、瓦当裏面ナデ。	山城 平安後期	
瓦21	軒平	唐草文	柱穴115(4期)	密	外面N4/灰色 断面N7/灰白色	やや軟質	均整唐草文。瓦当部はほぼ完形で、両側面が残存するが、左側は范が切られている。瓦当部成形は半折り曲げ式。瓦当凹面際と瓦当側面・凸面横ヘラケズリ。平瓦部凹面布目、凸面ナデ。	山城 平安後期	

No.	種類	文様	出土遺構	胎土	色調	焼成	形態・手法の特徴	産地・時期	備考
瓦22	軒平	唐草文	平安後期 砂層	密 φ2mm以下の砂 粒含	2.5Y8/2灰白色	やや 軟質	均整唐草文。瓦当部成形は半折り曲げ式。瓦当凹面端と凸面横へラケズリ、平瓦部凹面縦へラケズリ、瓦当裏面から平瓦部凸面縦ナデ。	山城 平安後期	
瓦23	軒平	唐草文	平安末 整地層	粗 φ3mm以下の砂 粒多量含	2.5Y8/1灰白色	やや 軟質	均整唐草文。瓦当部成形は半折り曲げ式。瓦当凹面横へラケズリ、瓦当側面縦へラケズリ、瓦当凸面から平瓦部凸面縦へラケズリ。平瓦部凹面は布目が残る。	山城 平安後期	
瓦24	軒平	唐草文	攪乱	密	10YR7/31にぶい 黄橙色	軟質	均整唐草文。瓦当部成形は折り曲げ式。瓦当凹面際横へラケズリ、瓦当凸面横ナデ、瓦当側面縦へラケズリ、平瓦部凹面布目、平瓦部	山城 平安後期 ～鎌倉	
瓦25	軒平	唐草文	路面IV 構築土	やや粗 φ10mm以下 の砂粒含	外面N4/灰色 断面N7/灰白色	やや 軟質	均整唐草文。瓦当部成形は折り曲げ式。范の当たり部分布目。瓦当上端横へラケズリ、瓦当凸面・裏面ナデ。平瓦部凹面布目、凸面ナデ。	山城 平安後期 ～鎌倉	
瓦26	軒平	唐草文	平安後期 砂層	密	N4/灰色	硬質	右偏向唐草文。瓦当部成形は包み込み式。瓦当面と平瓦部凹面にハナレ砂多量付着。瓦当凹面・凸面横ナデ、平瓦部凹面凸面側面縦ナデ。	播磨 平安後期	
瓦27	軒平	宝相華文	礎石139 (3期)	粗 φ15mm以下の 砂粒多量含	7.5Y8/1灰白色	軟質	半裁宝相華文。瓦当凹面凸面粗い横ナデ。平瓦部凹面布目、凸面縄タタキ。	讃岐 平安後期	
瓦28	軒平	剣頭文	土坑54 (5期)	やや粗 φ3mm以下 の砂粒含	外N3/暗灰色 断面10YR6/3にぶい 黄橙色	軟質	瓦当部成形は折り曲げ式。瓦当凹面布目、凸面横ナデ、側面縦へラケズリ。	山城 平安後期 ～鎌倉	
瓦29	軒平	剣頭文	室町 整地層	粗 φ5mm以下の砂 粒多量含	外面N6/灰色 断面10YR7/4に	やや 軟質	瓦当部成形は折り曲げ式。瓦当凹面布目、凸面横ナデ。平瓦部凹面布目、凸面ナデ。	山城 平安後期 ～鎌倉	
瓦30	軒平	剣頭文	路面IV 構築土	密	5Y8/1灰白色	やや 軟質	瓦当から平瓦部までほぼ完形。瓦当部成形は折り曲げ式。瓦当凹面凸面横へラケズリ、側面縦へラケズリ。平瓦部凹面布目、凸面ナデ。	山城 平安後期 ～鎌倉	
瓦31	軒平	剣頭文	攪乱	やや粗 φ3mm以下 の砂粒含	外面4/灰色 断面N7/灰白色	やや 軟質	瓦当部成形は折り曲げ式。瓦当凹面ナデ、平瓦部凹面目一部ナデ消し、凸面ナデ。	山城 平安後期 ～鎌倉	
瓦32	軒平	剣頭文	路面IV 構築土	やや粗 φ3mm以下 の砂粒含	外面N4/灰色 断面N8/灰白色	やや 軟質	瓦当部成形は折り曲げ式。瓦当凹面・凸面横ナデ。平瓦部凹面布目ナデ消し、凸面縦ナデ。平瓦部凸面にヘラ記号あり。	山城 平安後期 ～鎌倉	
瓦33	軒平	剣頭文	柱列5 柱穴262 (5期)	やや粗 φ2mm以下 の砂粒含	外面N3/暗灰色 断面N8/灰白色	やや 軟質	瓦当部成形は折り曲げ式。瓦当面から瓦当凹面まで布目。瓦当凸面横ナデ。	山城 平安後期 ～鎌倉	
瓦34	軒平	剣頭文	平安末 整地層	やや粗 φ3mm以下 の砂粒含	N4/灰色	硬質	瓦当部成形は折り曲げ式。瓦当凹面・凸面横ナデ。平瓦部凹面布目ナデ消し、凸面ナデ。平瓦部凸面にヘラ記号あり。	山城 平安後期 ～鎌倉	
瓦35	軒平	唐草文	攪乱	粗 φ2mm以下の砂 粒多量含	7.5YR7/6橙色	硬質	瓦当部成形は接合式。瓦当凹面端・凸面横へラケズリ。平瓦部凹面横ナデ、凸面縦ナデ。	大和 鎌倉	
瓦36	軒平	唐草文	攪乱	密	外面N3/暗灰色 断面N7/灰白色	やや 軟質	均整唐草文。瓦当面左上に「△」記し。瓦当部成形は接合式。瓦当部凹面凸面横ナデ。	江戸	
瓦37	軒平	連珠文	攪乱	やや粗 φ3mm以下 の砂粒含	外面N4/灰色 断面N7/灰白色	やや 軟質	瓦当部成形は接合式。瓦当凹面横へラケズリ、凸面横ナデ、裏面横へラケズリ。	大和 鎌倉	
瓦38	軒平	唐草文	井戸102 (6期)	密	外面N3/暗灰色 断面N7/灰白色	やや 軟質	金箔瓦。均整唐草文。瓦当部成形は接合式。瓦当凹面縦へラケズリ、凸面から裏面横ナデ。	桃山	

第4章 3区の調査

1. 遺 構

(1) 基本層序 (図33)

3区の調査区は1・2区調査の逆「L」字の調査区の間を埋める位置に設定した(図4)。1・2区は調査終了後に埋め戻して整地し直しており、3区の調査にあたっての地表面標高は45.1～45.3mである。調査は5期6面の調査を行った。

地表面からおよそ0.7～0.9mまでは近世以降の盛土で、その下面を第1面として調査した。第1面はにぶい黄橙色泥砂(図33-14層)上面で、桃山時代の遺構面である。第2面は褐灰色泥砂(31層)の上面で、室町時代の遺構面である。第3面は褐灰色泥砂(36層)の上面で、鎌倉時代の遺構面である。第4面はにぶい黄褐色中砂～粗砂(44層)や明黄褐色中砂(43層)の砂質堆積とにぶい黄褐色シルト(45層)が同一面で確認できる、平安時代中期後半から後期の遺構面である。第5面は層厚0.05m未満を測る明黄褐色シルト(49層)や灰黄色・明黄褐色中砂(47・50層)の上面で、平安時代中期前半の遺構面であるが、遺構は検出できなかった。第6面は黄色砂礫の基盤層(51層)の上面で、平安時代前期以前の遺構面である。

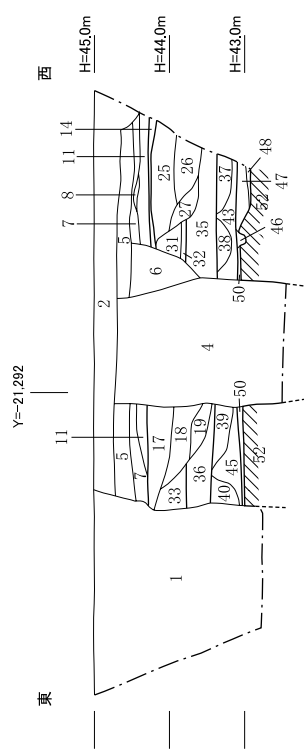
第1面では桃山時代以降の遺構も一括して調査した。第1面を覆っている堆積土には現代盛土の下に洪水砂礫層(8層)や焼土整理層(5層)が確認できる。この焼土層は天明の大火(1788年)に由来する可能性が考えられる。焼土層より新しい地層から掘り込まれた井戸や土坑には焼けた瓦が多く廃棄されており、幕末の火災整理によるものと考えられる。第3面では三和土が確認できる箇所がある。第4面は形成する整地層が大きく三つに分けられ、特に四行八門による区割のためと考えられる東西溝を境にして北と南で異なる。

3区の遺構を1・2区の時期区分とすると、第2期にあたる遺構が確認できなかった。第1面から第4面までが第6期から第3期に相当し、第6面が第1期に該当する(表7)。

表7 3区 遺構概要表

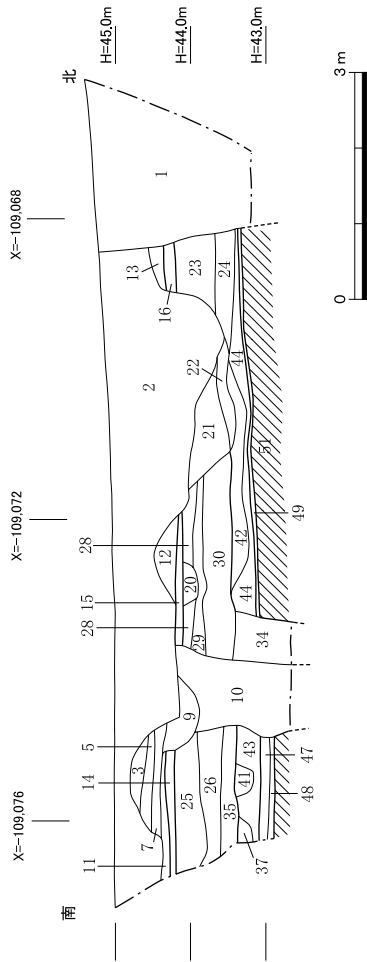
時 代	時 期	遺 構
平安時代～ 鎌倉時代	第1期(平安時代前期以前)	ピット群(ピット97～103・105)、炉88、土坑94、土坑群(土坑64・66～71)
	第2期(平安時代中期前半)	
	第3期(平安時代中期後半～後期)	埋納遺構45、溝76、土坑61・83、ピット48・58
	第4期(平安時代末～鎌倉時代)	溝37、土坑50、集石40、ピット42・44、三和土110
室町時代	第5期(室町時代)	井戸36、土坑29・30
桃山時代～ 江戸時代	第6期(桃山時代～江戸時代)	埋壘6・23・31、井戸3・5・25、石室12・34、土坑46・54、集石22

南壁



- 1 1-2区埋め土
- 2 10YR6/1 褐灰色泥砂 漆喰、焼土、こぶし大の礫少量含む(現代盛土)
- 3 2.5Y7/8 黄色泥砂 漆喰少量含む(近代整地層)
- 4 10R4/8 赤色砂泥 焼土粒、瓦少量含む(井戸5)
- 5 10R4/8 赤色泥砂 焼土粒少量(近世火災処理層・天明大火か)
- 6 10YR2/1 黒色砂泥 φ3cmの礫少量含む
- 7 10YR2/1 黒色シルト(近世整地層)
- 8 10YR7/1 灰白色中砂 締め弱い(洪水堆積層)
- 9 10YR6/2 灰黄褐色泥砂 φ3cmの礫少量含む(井戸25)
- 10 10YR4/4 褐色泥砂 漆喰少量含む
- 11 10YR5/2 灰黄褐色泥砂 φ2cmの礫少量含む 漆喰少量含む(近代整地層)
- 12 10YR7/2 にぶい黄褐色泥砂 φ2cmの礫少量含む
- 13 10YR6/1 褐灰色泥砂 φ3cmの礫少量含む(近世整地層)
- 14 10YR6/3 にぶい黄褐色泥砂 φ3cmの礫少量含む(桃山時代整地層)
- 15 10YR3/3 暗褐色泥砂 φ3cmの礫少量含む(桃山時代整地層)
- 16 10YR3/3 暗褐色泥砂(桃山時代整地層)
- 17 10YR3/2 黒褐色砂泥 φ3cmの礫少量含む(桃山時代土坑)
- 18 10YR3/2 黒褐色砂泥 φ3cmの礫少量含む(桃山時代土坑)
- 19 10YR3/1 黒褐色砂泥 φ3cmの礫少量含む(桃山時代土坑)
- 20 10YR7/6 明黄褐色シルト
- 21 10YR5/4 にぶい黄褐色泥砂 こぶし大の礫少量含む
- 22 10YR3/1 黒褐色シルト
- 23 10YR4/2 灰黄褐色泥砂 φ3cmの礫少量含む
- 24 10YR4/3 にぶい黄褐色泥砂 φ2cmの礫少量含む
- 25 10YR4/4 褐色泥砂 φ3cmの礫少量含む
- 26 10YR4/6 褐色泥砂 φ3cmの礫少量含む
- 27 10YR4/4 褐色泥砂 灰黄褐色泥砂ブロック土少量含む
- 28 10YR4/3 にぶい黄褐色泥砂 φ2cmの礫少量含む
- 29 10YR4/2 灰黄褐色泥砂 φ2cmの礫少量含む
- 30 10YR4/2 灰黄褐色泥砂 φ2cmの礫少量含む 焼土粒少量含む

西壁



- 31 10YR6/1 褐灰色泥砂 φ3cmの礫少量含む(室町時代整地層)
- 32 10YR6/1 褐灰色中砂(室町時代整地層)
- 33 10YR6/1 褐灰色泥砂 φ2cmの礫少量含む(室町時代整地層)
- 34 10YR7/1 灰白色中砂〜粗砂 締めなし 黒色シルトブロック若干 土師器片少量含む(井戸36)
- 35 10YR4/6 褐色泥砂 φ2cmの礫少量含む(平安時代末〜鎌倉時代整地層)
- 36 10YR6/1 褐灰色泥砂(平安時代末〜鎌倉時代整地層)
- 37 10YR4/4 褐色泥砂 φ3cmの礫少量含む(平安時代ピット)
- 38 10YR4/4 褐色泥砂 φ3cmの礫少量含む(平安時代ピット)
- 39 10YR5/1 褐灰色泥砂 φ3cmの礫少量含む(平安時代土坑)
- 40 10YR5/1 褐灰色泥砂 φ3cmの礫少量含む(平安時代土坑)
- 41 10YR4/4 褐色泥砂(平安時代ピット)
- 42 2.5Y4/2 暗黄褐色泥砂 こぶし大の礫少量含む(土坑50)
- 43 10YR6/6 明黄褐色中砂 締め弱い(平安時代中期後半〜後期整地層)
- 44 10Y5/4 にぶい黄褐色中砂〜粗砂 締め強い(平安時代中期後半〜後期整地層)
- 45 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト 締め強い(平安時代中期後半〜後期整地層)
- 46 10YR6/1 褐灰色泥砂 φ2cmの礫少量含む(平安時代ピット)
- 47 2.5Y6/2 灰黄色中砂 締め弱い(平安時代前期整地層)
- 48 2.5Y7/2 灰黄色細砂 締めなし(平安時代前期整地層)
- 49 2.5Y7/6 明黄褐色シルト 締め弱い、土師器片少量含む(平安時代前期整地層)
- 50 2.5Y7/6 明黄褐色中砂 締め弱い(平安時代前期整地層)
- 51 2.5Y7/8 黄色砂礫 締め非常に強い(基盤層)
- 52 2.5Y7/6 明黄褐色砂礫 締め非常に強い、黒色礫(風化礫)少量含む(基盤層)

図33 3区南壁・西壁断面図 (1:100)

(2) 第1期（平安時代前期以前）の遺構（図版1・22）

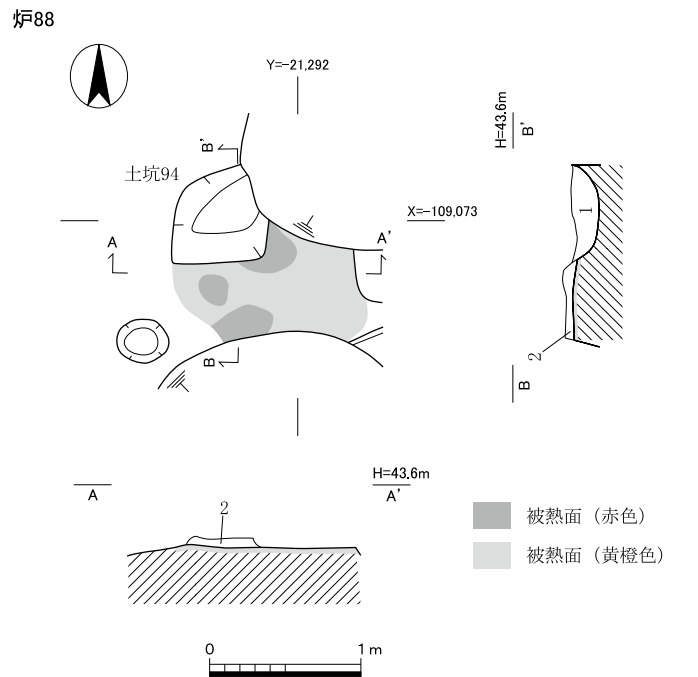
ピット群や炉跡などを検出した。
標高43.15～43.20mを測る。

炉88（図34、図版22）東西に1.30m、南北に0.70mにわたって整地土が硬化していた。硬化面は赤化した箇所が3箇所見られ、強く被熱したものと考えられる。硬化面の直上に炭層が被覆していた。硬化面の外側は砂礫層となり、整地層が明確に確認できなかった。土坑94に壊されることから、京都Ⅱ期古段階以前の遺構と考えられる。

土坑94（図34）調査区南で検出した、短径0.60m、長径0.64mの不整形の土坑である。炉88を壊している。京都Ⅱ期古段階の遺物が出た。

土坑群（土坑64・66～71）北側で検出した土坑群で、それぞれが接するように連続して成立している。土坑の深さは0.22～0.54mを測り、平面形は不正楕円形である。京都Ⅱ期中段階の遺物が出た。

ピット群（ピット97～103・105）（図34）ピット97～103・105を列状に検出した。いずれも小型の隅丸方形の平面形で、一辺0.2～0.3m、深さ0.1～0.15m、柱痕は確認できなかった。また、遺物も出土していないので、明確な時期は決められない。



- 1 2.5Y5/1 黄灰色中砂 縮まり弱い φ2cmの礫少量(土坑94)
- 2 2.5Y2/1 黒色シルト 縮まりなし 炭・灰多量(炉88)

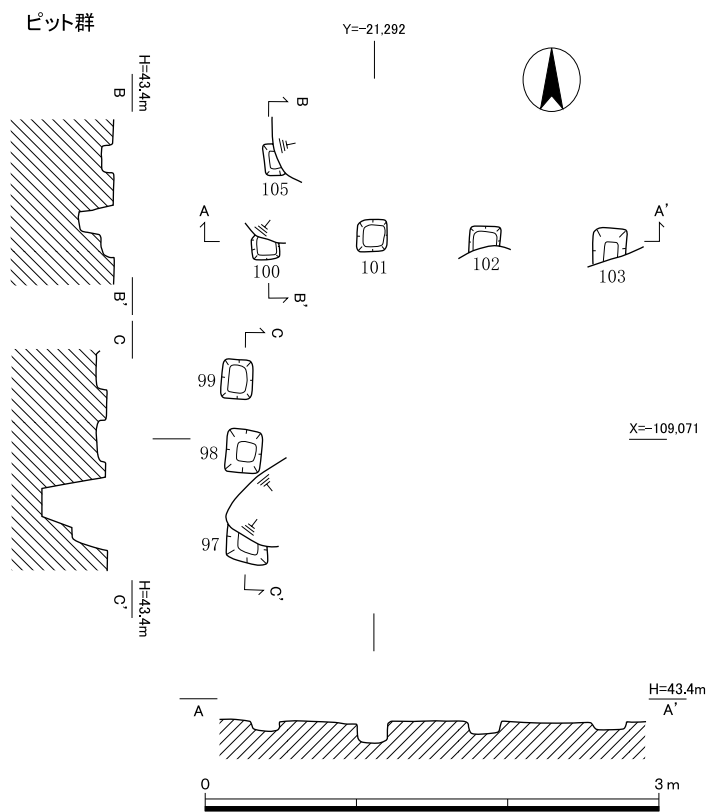
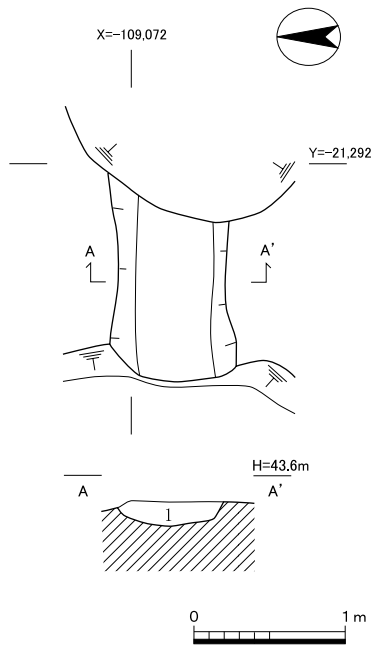


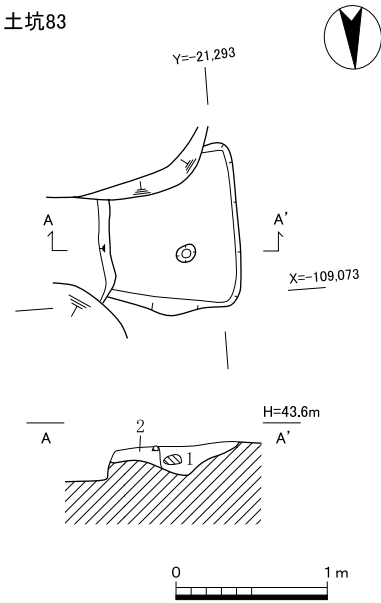
図34 炉88、ピット群実測図（1：50）

溝76



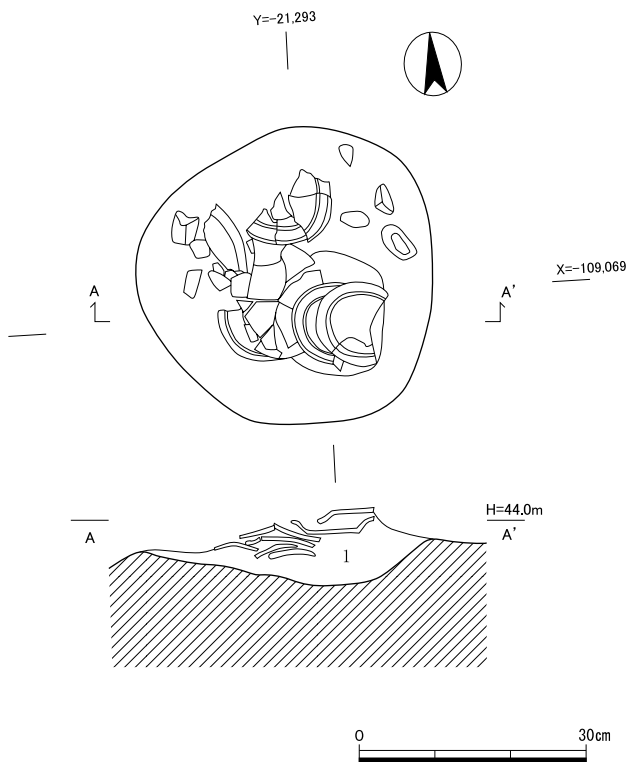
1 2.5Y5/1 褐灰色シルト質土 縮まり弱い φ~3cmの礫若干

土坑83



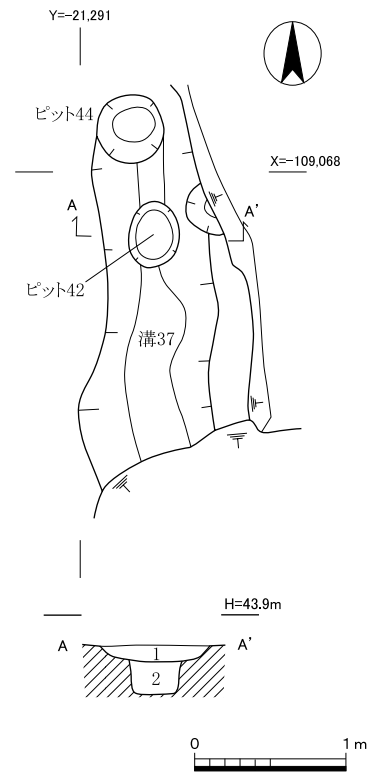
1 2.5Y6/1 黄灰色シルト質土 縮まりやや弱い φ~3cmの礫多量
2 2.5Y6/1 黄灰色シルト質土 縮まりややあり

埋納遺構45



1 2.5Y5/1 黄灰色シルト質土 縮まりやや弱い 炭片含む

溝37



1 2.5Y5/2 暗灰黄色泥砂 縮まり弱い 粗砂多量(溝37)
2 2.5Y6/2 灰黄色泥砂 縮まり弱い φ~2cmの礫若干(ピット42)

図35 埋納遺構45、溝76、土坑83、溝37実測図 (1:10、1:50)

(3) 第3期（平安時代中期後半から後期）の遺構（図版3・23）

溝や土坑群、柱穴やピットを検出した。標高43.40～43.45mを測る。

埋納遺構45（図35、図版23） 土師器皿が炭や灰と一緒に重なって出土した。図示した以外にも重なった土師器皿があり、合計で22枚が重なって出土した。地鎮と考えられる。検出段階では明瞭な掘形は確認できなかったが、底部の掘形は緩やかに窪んだ形状を確認した。確認した掘形は径0.38mの円形で、検出高からの深さは0.10mを測る。出土した土師器皿は京都IV期古段階である。

溝76（図35、図版23） 四行八門の区割りにおける西四行北六門と西四行北七門の境界推定線の約1m南で検出した溝で、幅0.80m、深さ0.22m、検出長1.05mを測る。溝76より北側では砂礫やシルト、南側ではシルトと溝を境に異なる整地が行われており、北六門と北七門の境界として機能していたと考えられる。京都IV期古段階から中段階の遺物が出土した。

土坑83（図35） 南西部で検出した。長辺0.80m、短辺0.74mの方形の掘形で、すり鉢状に中心に向かって傾斜する。深さは中心で0.14mを測る。京都IV期新段階の遺物が出土した。

(4) 第4期（平安時代末から鎌倉時代）の遺構（図版4・24）

土坑や溝、井戸、ピットの他、三和土による整地を部分的に検出した。検出標高は43.70～43.80mを測る。

三和土110 北東部で浅黄色シルトを叩き締めた部分を確認した。三和土の厚さは0.05mで、同

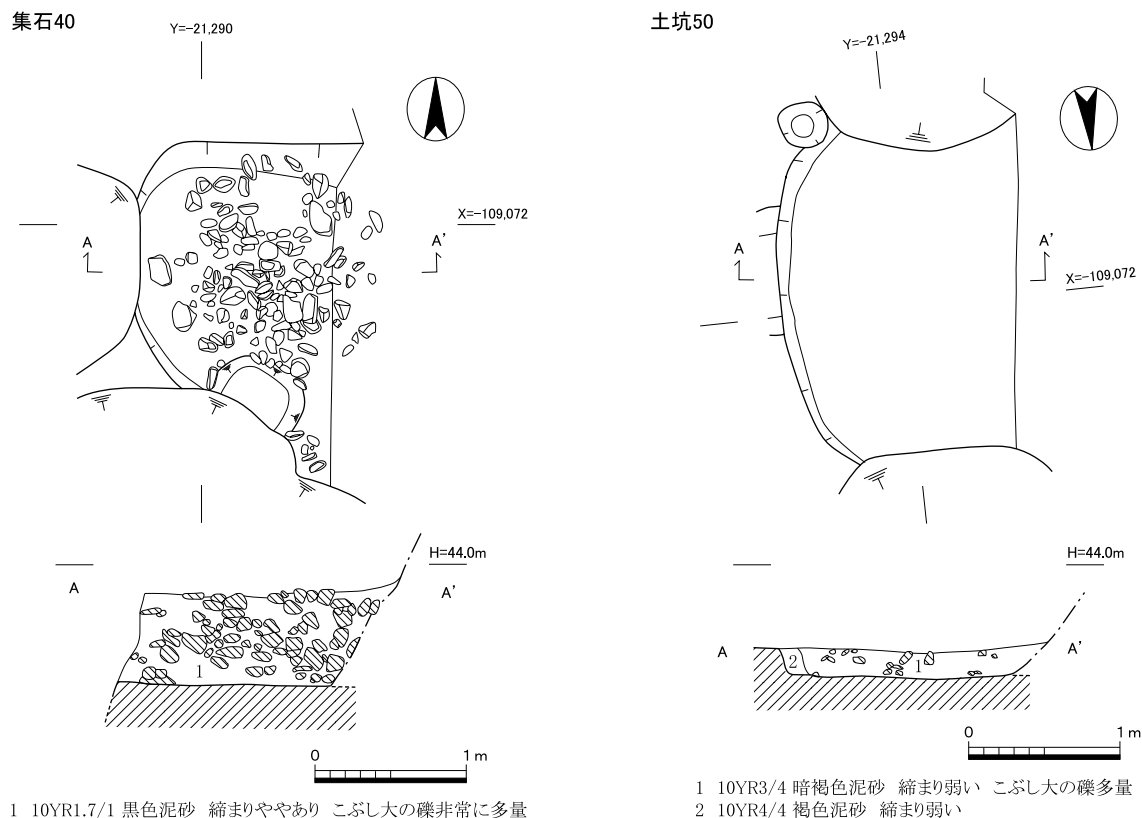


図36 集石40、土坑50実測図（1：50）

一面での整地層は褐灰色泥砂であり、明確に異なる。三和土の上面から掘り込まれた遺構は溝37などがある。

溝37 (図35、図版24) 北東部で検出した南北方向の溝である。幅0.72m、深さ0.22mを測り、溝の底部にピットを伴う(ピット42・44)。布掘りの柵の可能性が考えられる。検出長は2.5mであるが、南は攪乱で壊されており全容はわからない。溝は三和土を切り込んで成立している。京都VI期の遺物が出土したが図示できなかった。

集石40 (図36、図版24) 東部で検出した。東西1.70m、南北2.23m、深さ0.65mを測る楕円形土坑で、現代攪乱などに壊されている。埋土にこぶし大の垂角礫を非常に多く含む。京都VII期古段階から中段階の遺物が出土した。

土坑50 (図36) 西部で検出した、長辺2.01m以上、短辺1.52m以上の楕円形と推定される土坑で、底は平坦である。深さは0.17mを測り、埋土にこぶし大の垂角礫が多く含まれる。京都VII期の遺物が出土した。

(5) 第5期(室町時代)の遺構(図版5・25)

井戸や大型の土坑を検出した。検出標高は44.10mを測る。

井戸36 (図版24) 石組の井戸である。東西1.32m以上、南北1.92mを測る。後世の井戸と土坑に大きく壊されており、石組の北側の一部を確認できたにすぎない。井筒の推定直径は0.6mである。井筒として利用された石は20cm前後の大きさで、平坦面を内側に揃えていた。42.20mまで掘削したが底を確認できなかった。裏込めからは京都VII期中段階から新段階の遺物が出土した。

土坑29 西部で検出した土坑で、検出幅2.20m、検出長5.43m、深さ1.00～1.10mを測る。攪乱によって壊されているものの、連続する土坑と考えられる。埋土は褐色泥砂で、焼土粒やこぶし大の礫を少量含んでいた。下層は炭の堆積が若干確認できた。京都IX期新段階からX期古段階の遺物が出土した。

土坑30 北西部で検出した。検出幅2.10m、検出長3.35m、深さ1.10mを測る土坑である。北側を現代攪乱に大きく壊されていた。埋土はにぶい黄褐色から黒褐色泥砂で、こぶし大の礫を多量含んでいた。京都X期古段階の遺物が出土した。

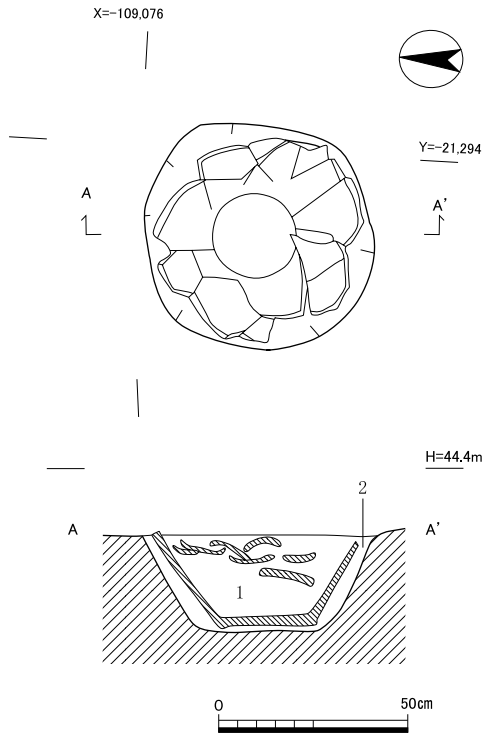
(6) 第6期(桃山時代から江戸時代)の遺構(図版6・25)

埋甕、石室、井戸、土坑、集石を検出した。検出標高は44.20～44.40mを測る。

埋甕6 (図37、図版26) 直径0.60mの掘形に底径0.26mの焼締陶器の甕を正位に据えている。底面から0.10mほど埋まった位置で多量の土師器皿や陶器片がまとまって出土した。土師器皿は大半が灯明皿として使用されたもので、一括して廃棄されたものと考えられる。出土した陶器の中には据え付けた甕本体の口縁部も含まれていた。京都XIII期古段階の遺物が出土した。

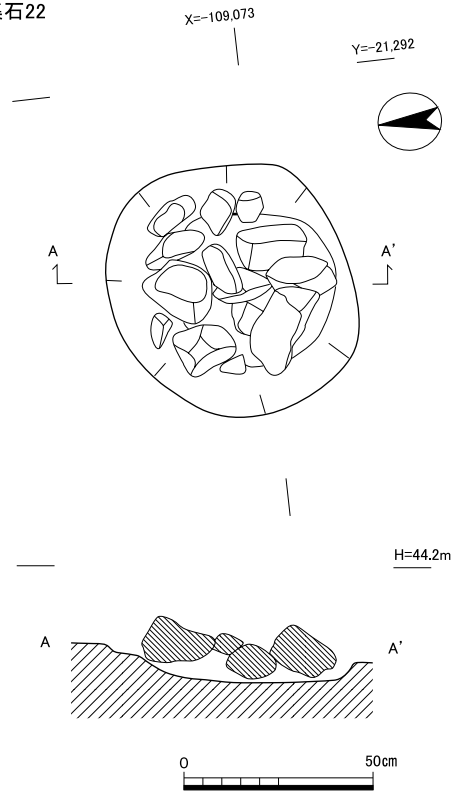
埋甕23 (図37、図版26) 南東部で検出した。石室12に南半分を壊されている。直径0.60mを測る掘形に瓦質の甕を正位に据えている。検出高から甕の底面までの深さは0.32mを測る。甕内の

埋甕6

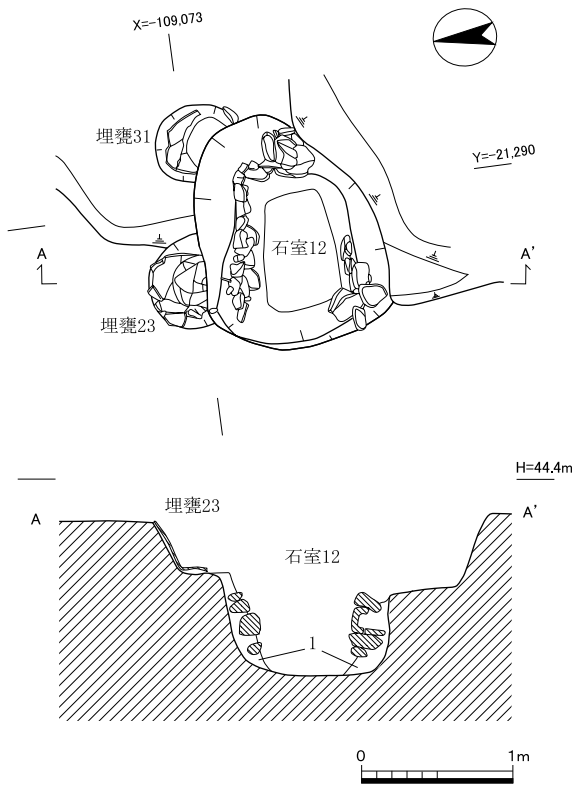


- 1 10YR6/2 灰黄褐色泥砂 縮まり弱い、土師皿完形多量
- 2 10YR6/2 灰黄褐色泥砂 縮まりややあり φ2cmの礫少量

集石22

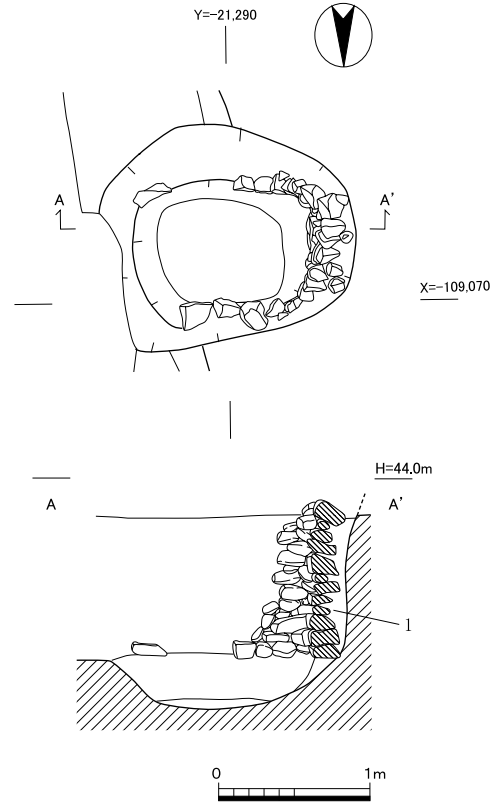


埋甕23・31、石室12



- 1 10YR4/2 灰黄褐色泥砂

石室34



- 1 10YR3/2 黒褐色泥砂

図37 埋甕6・23・31、石室12・34、集石22実測図 (1:20、1:50)

埋土からは遺物の出土はなかった。

埋甕31 (図37、図版26) 南東部で検出した。南半分は石室12に壊されている。直径0.45 mを測る掘形に瓦質の甕を正位に据えている。底は壊されていた。京都Ⅺ期新段階の遺物が出土した。

石室12 (図37、図版26) 南東部で検出した。長辺1.56 m、短辺1.20 mを測る長方形の掘形にこぶし大から人頭大の礫を壁面に積み上げ、内法で長辺0.90 m、短辺0.60 m、深さ0.92 mの石室としている。上部は抜き取られて最大3段が残る。壁材として河原石に加え埴塼を転用しており、4個の埴塼を確認した。埋土は灰色砂泥で京都Ⅺ期新段階の遺物が出土した。埋甕23・31を壊している。

石室34 (図37、図版26) 北東部で検出した。長辺1.70 m、短辺1.40 mを測る長楕円形の土坑にこぶし大から人頭大の礫を壁面に積み上げ、内法で長辺1.00 m、短辺0.70 m、深さ1.04 mの石室としている。西側の壁面は高さ1 m積み上げられているが東側にかけて大きく石が抜き取られている。石室の床面は石積みよりも掘り下げられており、底面は平坦である。石室の四隅の石は面取りするように配している。そのため隅丸長方形の石室となっていたと考えられる。京都Ⅺ期古段階から中段階の遺物が出土した。

集石22 (図37、図版26) 南西部で検出した、長径0.68 m、短径0.62 mを測る円形の掘形にこぶし大の礫を集めた遺構である。礎石の根固めの可能性があるが、対応する遺構は確認できなかった。

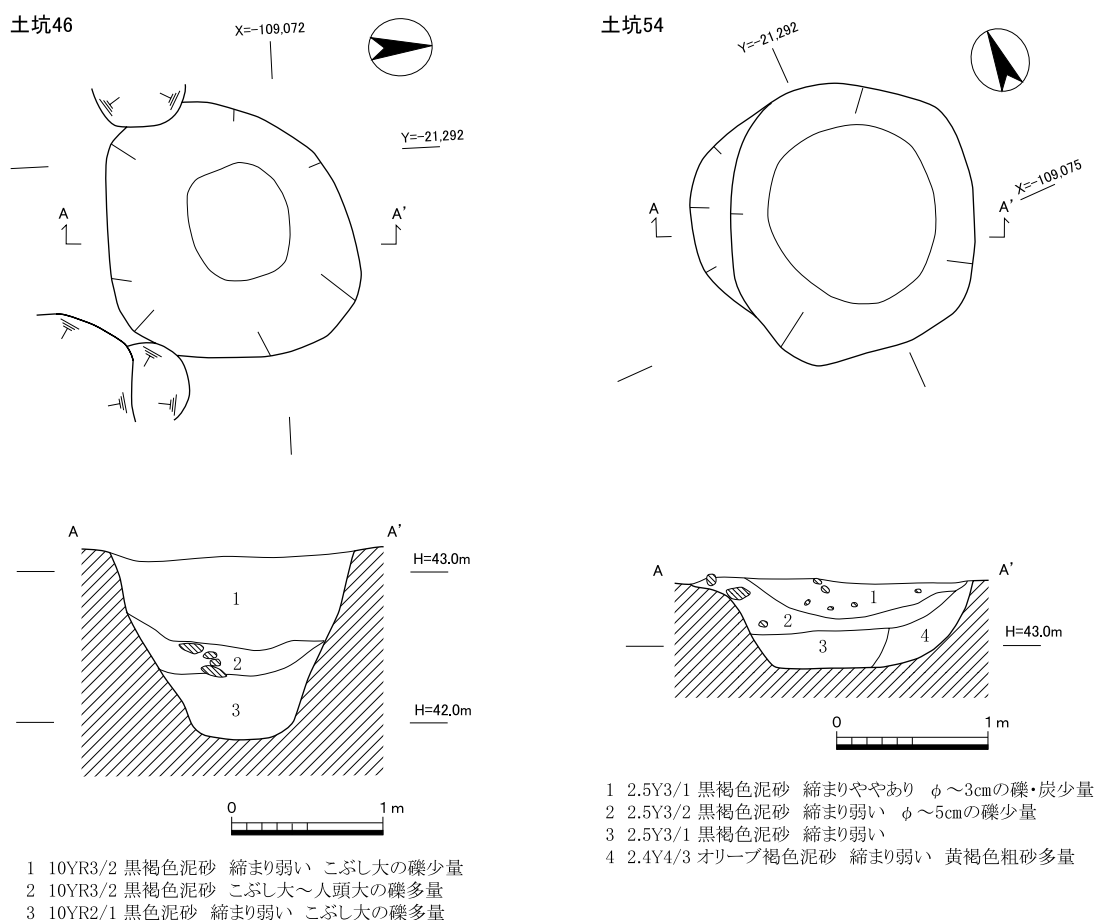


図38 土坑46・54実測図 (1 : 50)

た。遺物は17世紀代の瀬戸の細片が1点出土している。

井戸3 石組の井戸である。掘形は長径2.91m、短径2.90mを測り、石組の内法は直径1.00mを測る。標高42.30mまで掘削したが底部は確認していない。井戸上部の石組は抜かれていると考えられる。埋土からは京都XIV期の遺物が出土した。

井戸25 掘形は長径2.01m、短径1.30mを測る。井戸枠は確認できなかった。標高42.40mまで掘削したが底部は確認していない。京都XII期の遺物が出土した。

井戸5 掘形は長径1.90m、短径1.30mを測る。井戸枠は確認できなかった。標高42.20mまで掘削したが底部は確認していない。焼けた棧瓦が多く出土した。京都XIV期の遺物が出土した。

井戸14 掘形は長径1.82m、短径1.76mを測る。井戸枠は確認できなかった。標高42.20mまで掘削したが底部は確認していない。漆喰片とともに京都XII期の遺物が出土した。

土坑46 (図38) 長径1.90m、短径1.64m、深さ1.45mを測る平面楕円形の土坑である。該当する遺構面で検出できなかったため、本来は0.7m程度さらに深い遺構であったと考えられる。井戸枠の痕跡は確認できず、同時代の井戸は土坑46の底よりも深いことから土坑として判断した。埋土からは京都XI期古段階から中段階の遺物が出土した。

土坑54 (図38) 長径1.80m、短径1.72m、深さ1.60mを測る平面楕円形の大型土坑である。該当する遺構面で検出できなかったため、本来は0.5m程度さらに深い遺構であったと考えられる。埋土からは京都XI期古段階から中段階の遺物が出土した。

2. 遺物

3区の調査では整理コンテナにして21箱の遺物が出土した。出土遺物は、土器・陶磁器類、瓦、金属製品、銭貨、石製品がある。遺物の内容も傾向も1・2区調査とほぼ同じであり、平安時代か

表8 3区 遺物概要表

時代	内容	コンテナ箱数	Aランク点数	Bランク箱数	Cランク箱数
弥生時代	土器				
平安時代	土師器、須恵器、黒色土器、白色土器、灰釉陶器、緑釉陶器、瓦器、輸入磁器、瓦		土師器29点、須恵器2点、黒色土器2点、白色土器2点、灰釉陶器5点、緑釉陶器10点、瓦質土器1点		
鎌倉時代	土師器、瓦質土器、焼締陶器、施釉陶器、輸入陶磁器、瓦、石製品		土師器23点、瓦質土器1点、白色土器1点、輸入陶磁器3点、瓦6点		
室町時代	土師器、瓦質土器、焼締陶器、施釉陶器、輸入陶磁器、瓦、石製品		土師器14点、焼締陶器1点、瓦1点		
桃山時代 ～江戸時代	土師器、瓦質土器、焼締陶器、軟質施釉陶器、施釉陶器、磁器、輸入陶磁器、土製品、瓦、石製品、銭貨、金属製品、貝殻		土師器34点、瓦質土器3点、焼締陶器6点、施釉陶器6点、磁器6点、土製品2点、瓦1点、石製品1点		
合計		29箱	160点(8箱)	3箱	18箱

※ コンテナ箱数の合計は、整理後、Aランクの遺物を抽出したため、出土時より5箱多くなっている。

ら江戸時代の遺物が出土した。微細片であるが、弥生時代の遺物も出土した。以下、主要な遺構から出土した遺物について概要を述べ、詳細は一覧表にまとめた。

(1) 土器類 (図39～44、図版27～29、表9)

土坑94 (図39) 土師器皿が1点出土した。京都Ⅱ期古段階である。

1は土師器の皿である。口縁端部をわずかにつまみあげる。口径は14.0cmである。

土坑67 (図39) 土師器、須恵器、白色土器、緑釉陶器、灰釉陶器、輸入磁器が出土した。京都Ⅱ期中段階である。

2～4は土師器で、2は杯、3・4は皿である。口径は11.9cmと13.3cmである。5は白色土器の高杯である。脚部は7面の面取りである。6は灰釉陶器の壺である。

埋納遺構45 (図39、図版27) 多量の土師器が集中して出土した。10～17は出土位置を図示したもので、それ以外はほぼ同じ位置でまとまって出土したものである。京都Ⅳ期古段階である。

10～31は土師器皿である。10～26は、いわゆる「て」の字状口縁の土師器皿である。口径は10.4～10.8cmの範囲である。27～31は口縁端部を横ナデしてわずかに外反する。口径は14.2～14.8cmの範囲である。

土坑83 (図39) 土師器、黒色土器、平瓦が出土した。京都Ⅳ期新段階である。

7～9は土師器皿である。9は内外面に粘土の継ぎ目が明瞭に残ったままの状態にあるもので器表面のナデ処理も粗い。8も器表面のナデ処理が粗い。8・9は非京都系と考えられる。

抽出した土器類 (図39、図版27) ここでは、平安時代の遺構も含め他の時代の遺構に混入した平安時代の緑釉陶器、灰釉陶器、白色土器、須恵器、瓦質土器、黒色土器を抽出してまとめた。

32～41は緑釉陶器で、32～33・35～40は椀である。32・33は口縁部がわずかに外反する。32は東海系と考えられ、33は京都系である。32・33は京都Ⅱ期古段階である。35～37は輪高台で京都系、38は削り出し高台で東海系である。35～38は京都Ⅱ期古段階から中段階である。39・40は貼り付け高台である。39は東海系で、京都Ⅱ期中段階である。40は近江系で、京都Ⅲ期中段階から新段階である。41は二彩で、薄緑色に発色する釉薬の上から濃緑色釉薬で花文と考えられる文様を体部内面に描いている。京都Ⅱ期中段階で、東海系である。34は体部が直線的に開く皿である。京都Ⅲ期で東海系である。

42～45は灰釉陶器椀である。すべて釉薬は刷毛塗りで、貼り付け高台である。42は京都Ⅲ期、43・44は京都Ⅱ期中段階、45は京都Ⅳ期である。

46は白色土器椀である。削り出し高台である。京都Ⅱ期中段階である。

47・48は須恵器である。47は蓋で、つまみの有無は不明である。48は壺である。京都Ⅱ期(9世紀後半から10世紀初頭)である。

49は瓦質土器羽釜である。体部外面に粗いタタキを施す。摂津系の搬入品である。京都Ⅲ期新段階である。

50・51は黒色土器である。50は椀で、内面を黒色化させ丁寧なミガキを施し、底面付近に花卉

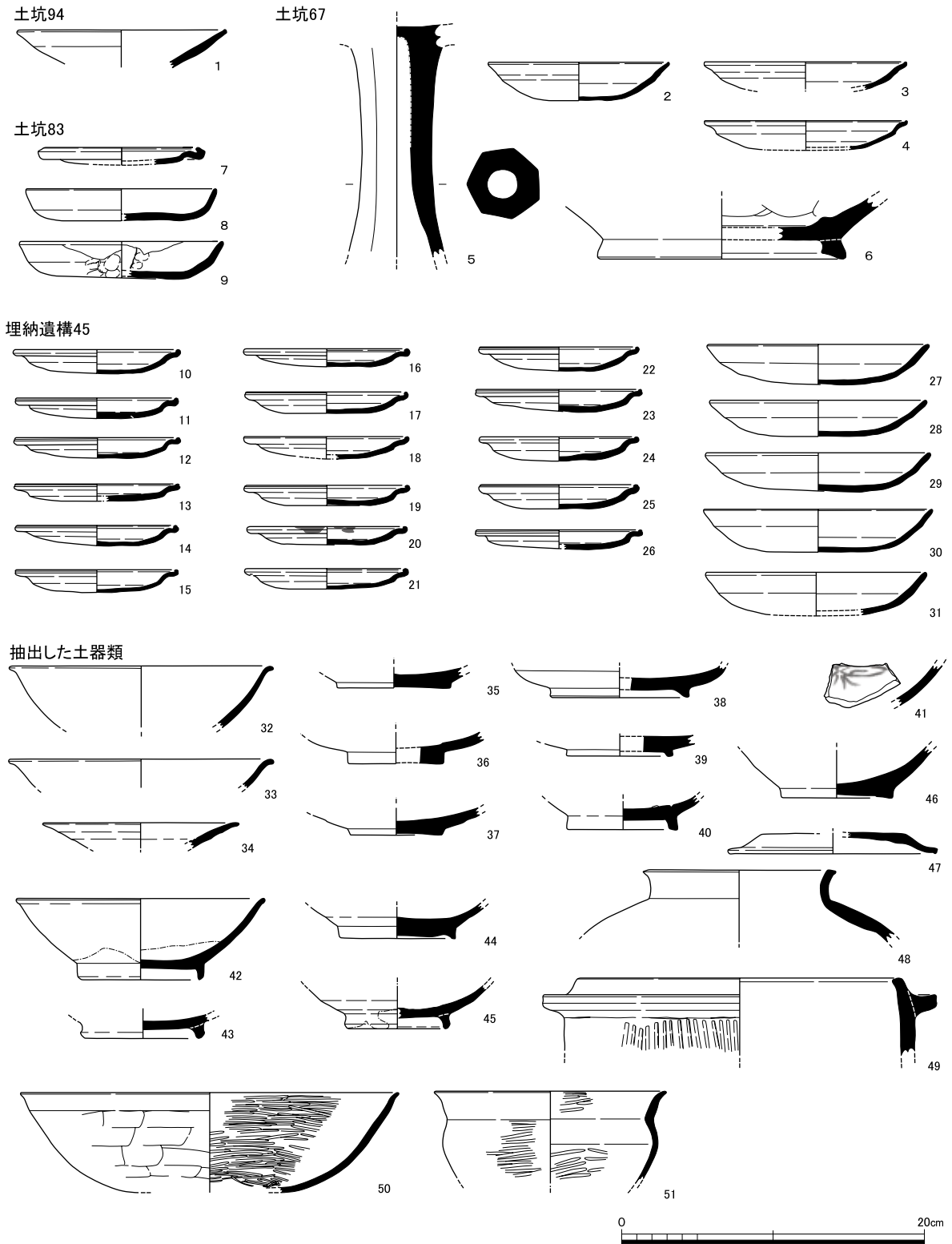


図39 土坑94・83・67、埋納遺構45ほか出土土器実測図（1：4）

状の暗文を施す。51は甕である。内外面を黒色化し、ミガキを施す。京都Ⅱ期古段階である。

井戸36(図40、図版27) 土師器、焼締陶器、輸入青磁、瓦が出土した。特に土師器皿は多量に出土した。京都Ⅶ期中段階から新段階である。

52～62は白色系の土師器皿である。小皿と中皿に分類でき、小皿の口径は7.0～7.6cm、中皿は

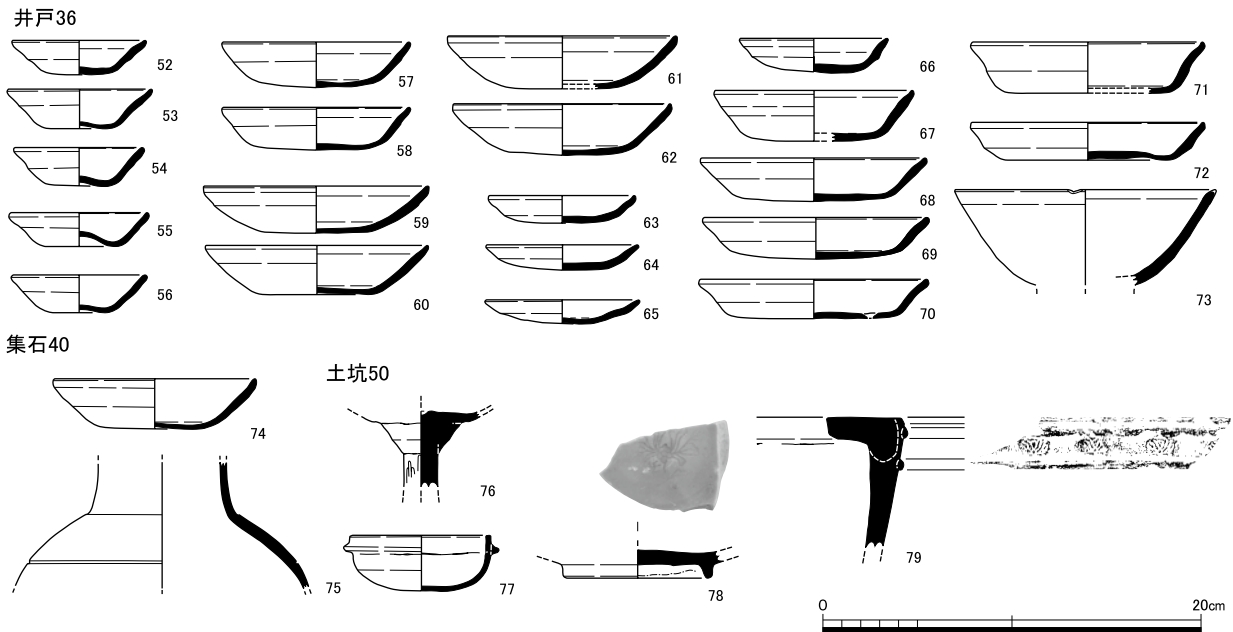


図40 井戸36、集石40、土坑50出土土器実測図（1：4）

9.8～12.0cmである。小皿は底をくぼませたヘソ皿が混じる。63～72は赤色系の土師器皿である。小皿と中皿に分類でき、小皿の口径は7.6～8.0cm、中皿は11.8～12.2cmである。70は底部に焼成後穿孔が1箇所ある。

73は青磁の椀である。口縁に切欠をつくる輪花である。龍泉窯系である。

集石40 (図40) 土師器、瓦質土器、白色土器、須恵器、輸入陶器、石製品が出土した。京都Ⅶ期古段階から中段階である。

74は土師器皿である。75は輸入黄釉陶器の壺である。水注の可能性もある。肩部に沈線がめぐる。13世紀代と考えられる。

土坑50 (図40、図版27) 土師器、白色土器、瓦質土器、輸入青磁、瓦が出土した。京都Ⅶ期古段階から中段階である。

76は白色土器の高杯である。77は土師器のミニチュアで羽釜である。78は青磁の皿で見込みに草花文を印刻する。龍泉窯系である。79は瓦質の火鉢で、口縁は方形になると思われる。外面に突線を2条貼り付け花文を等間隔に連続して印刻する。大和系である。

土坑30 (図41、図版28) 土師器、焼締陶器が出土した。京都Ⅹ期古段階である。

80～84は赤色土器の土師器皿である。外面指オサエの痕跡が著しい。口径は7.0～7.5cmである。85～93は黄橙色の土師器皿で、口縁端部をわずかにつまみだし、底部周縁に横ナデの痕跡を残す。口径は10cm、11.9～12.2cm、14.5cm、17.5cmの法量がみられる。

94は信楽の播鉢である。焼成は硬質である。

石室34 (図42) 土師器、施釉陶器、焼締陶器が出土した。京都Ⅺ期古段階から中段階である。

95～98は土師器皿である。口径分布は5.1～5.2cm、10.0～11.3cmである。99は肥前陶器の小椀である。100は絵唐津の皿である。

土坑30

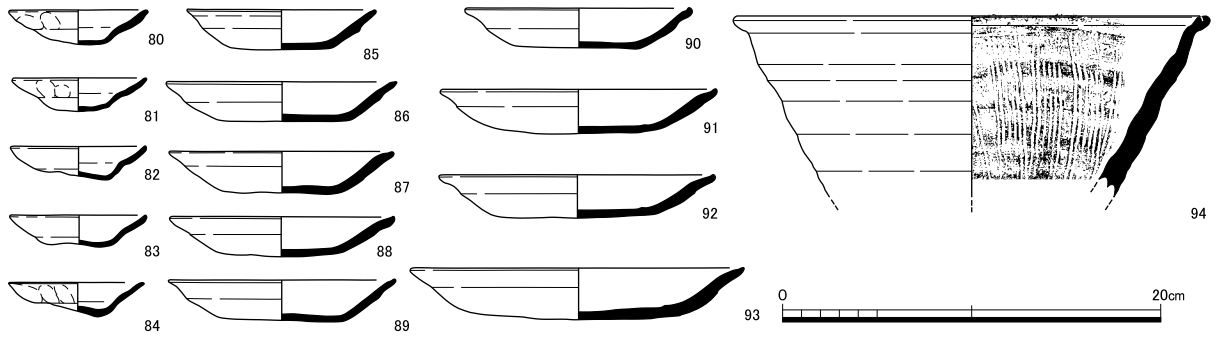
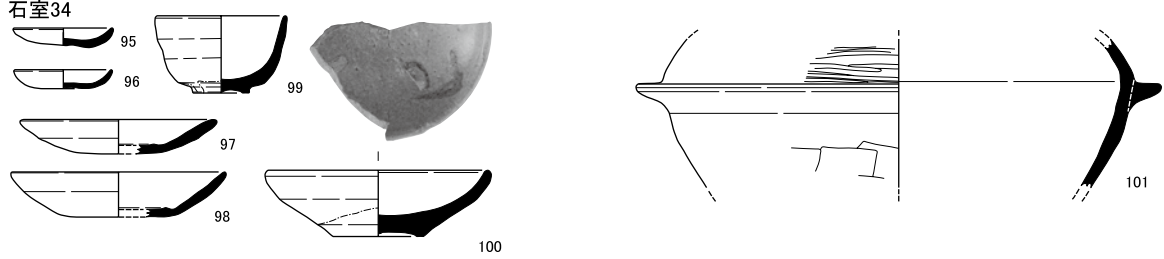


图41 土坑30出土土器実測図（1：4）

石室34



土坑54

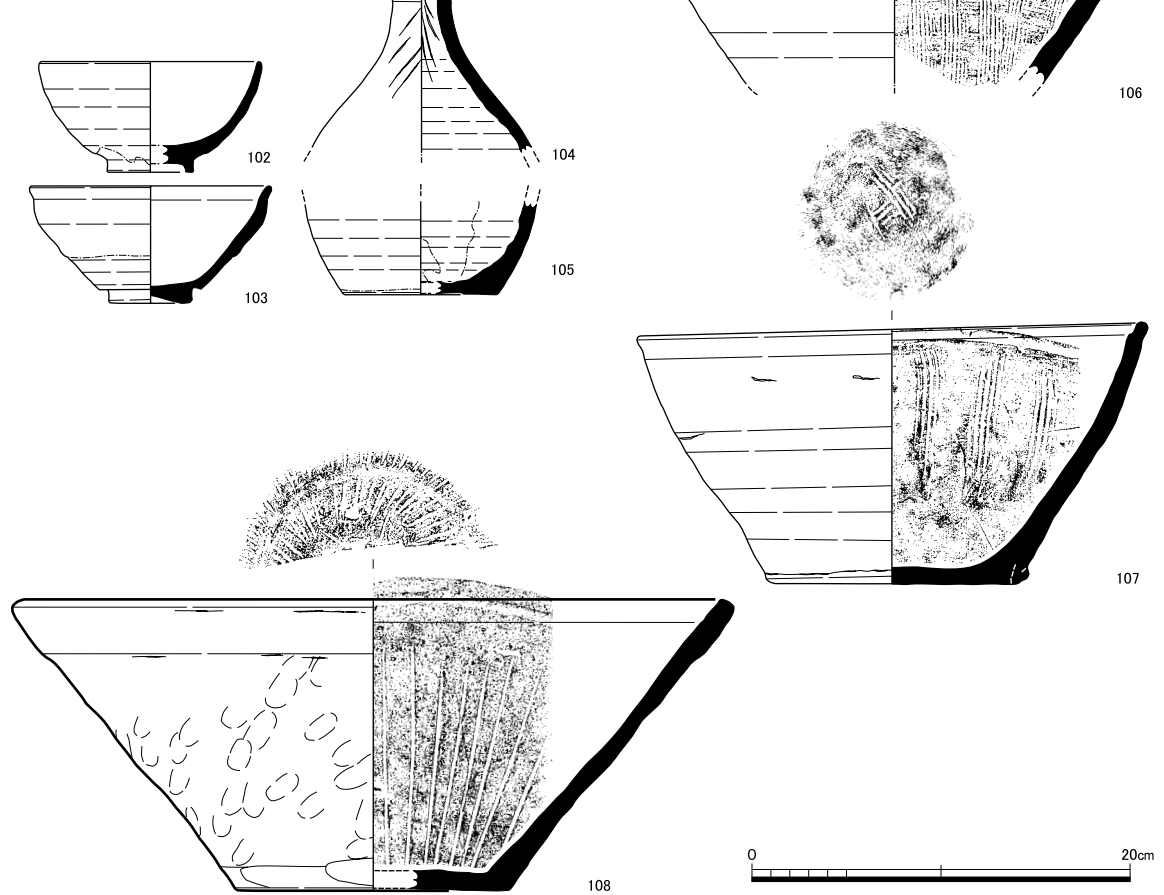
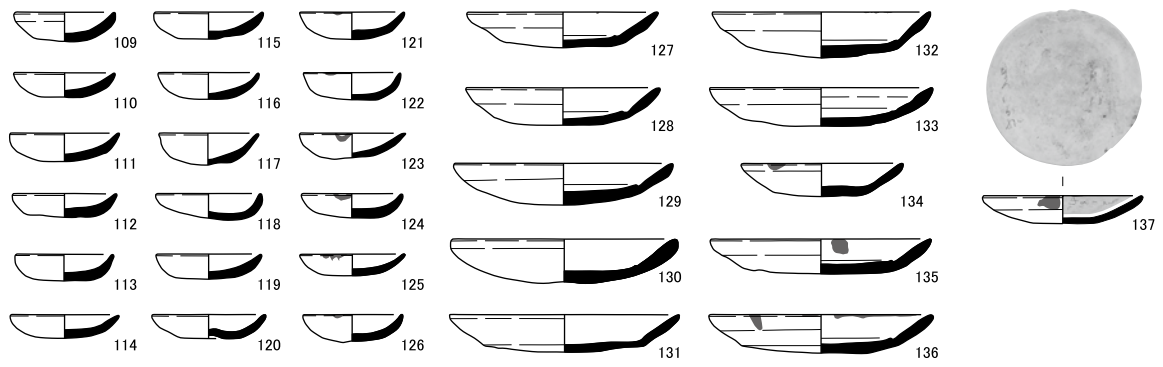


图42 石室34、土坑54出土土器実測図（1：4）

埋甕6



石室12

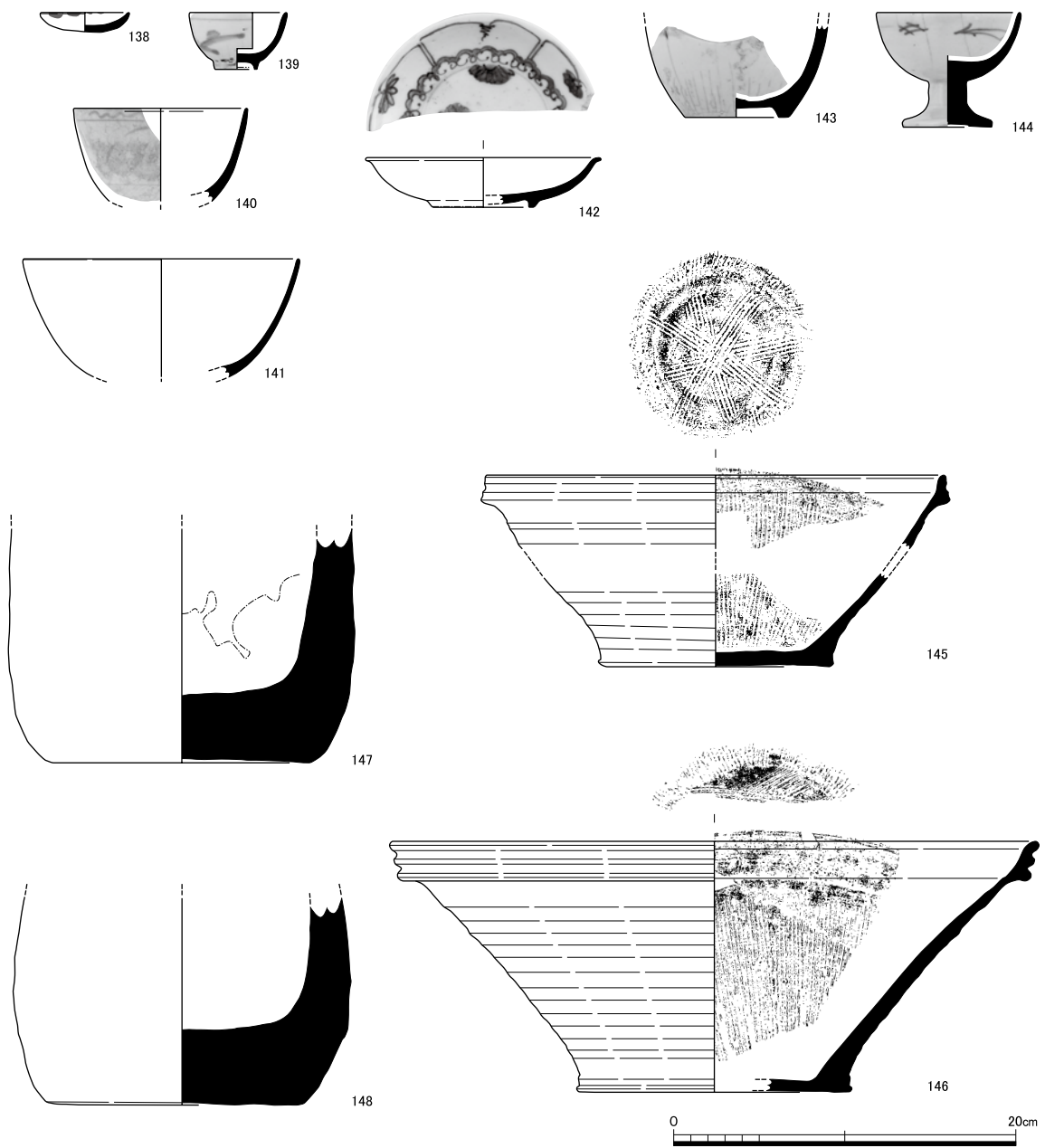


图43 埋甕6、石室12出土土器实测图（1：4）

土坑54(図42、図版28) 土師器、瓦質土器、施釉陶器、焼締陶器が出土した。京都Ⅺ期古段階から中段階である。

101は瓦質土器の茶釜である。内外面を黒色化し、外面を丁寧にミガキ調整している。102～105は陶器である。102は肥前陶器の丸椀である。103は美濃の天目茶椀である。104は備前の徳利である。105は美濃の瓶である。106～108は焼締陶器の播鉢である。106は片口である。106・107は信楽、108は丹波である。

埋甕6(図43・44、図版29) 埋甕の埋土から土師器、焼締陶器、磁器が出土した。京都Ⅹ期古段階である。

109～137は土師器皿である。109～126は小型の皿で、外面調整は指オサエで歪みが著しい。121～126は灯明皿である。口径は5.0～5.9cmである。127～137は中型の皿で、127～136は底部内面周縁に圏線状の凹みがみられる。137の内面には「まつのな□〔れ〕」と墨書きがある¹⁾。口径は8.6cm、10.0～10.2cm、11.5～12.1cmに分かれる。134～136は灯明皿である。

149は埋甕の外容器として使用されていた信楽の甕である。口径65.0cm、復元器高60.0cmを測る。口縁部は内面に肥厚し、端部は大きな平坦面をもつ。口縁部外面に凹線を5条巡らす。胎土は灰白色で、内外面に赤褐色に発色する釉薬を刷毛塗りしている。

石室12(図43、図版29) 土師器、施釉陶器、焼締陶器、磁器、埴塼が出土した。京都Ⅺ期新段階である。

138は土師器皿である。口径5.1cmである。139～142は肥前磁器である。139は小椀、140・141は椀、143は瓶、144は仏飯具である。140は二次的な熱を受けている。142は皿である。145・146は信楽の播鉢である。145は内外面に釉薬を塗り、146は無釉である。147・148は土製品の埴塼で

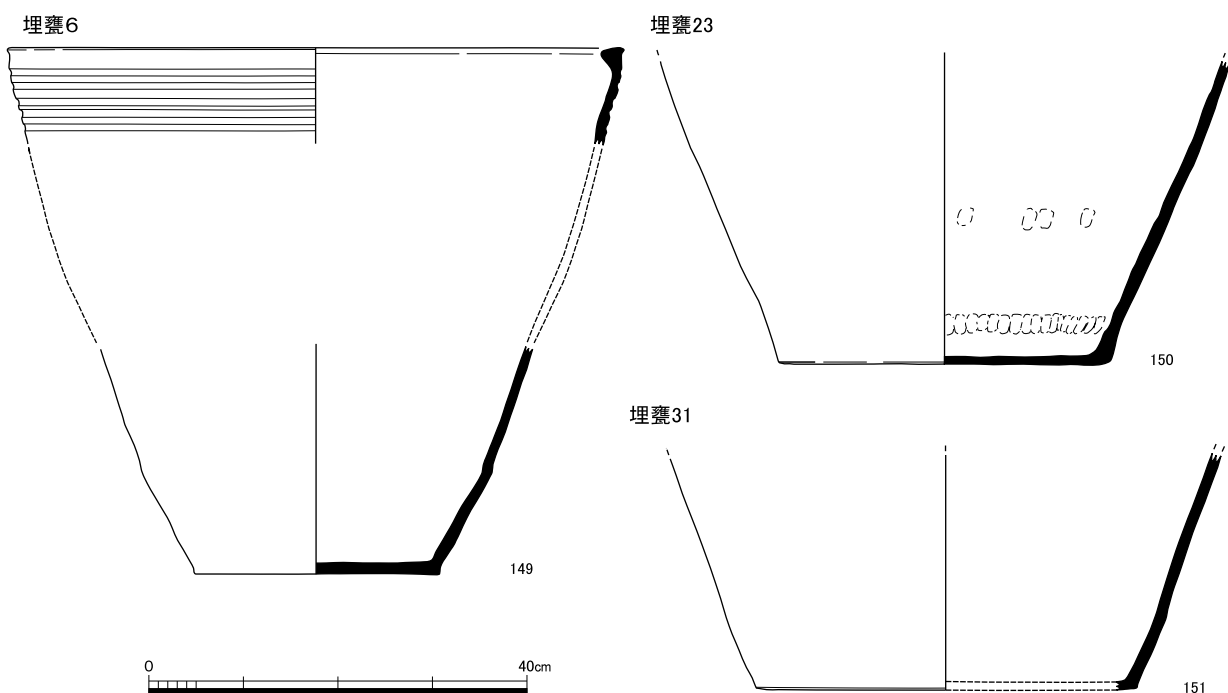


図44 埋甕6・23・31出土甕実測図(1:8)

ある。内外面とも非常に強い熱を受けており、特に外面は赤紫色にガラス質化している。内面には緑青がこびりついている。青銅を融解するために使用した容器で、調査地周辺の調査で確認された江戸時代前期の真鍮工房で大量に使用されていたものと類似する²⁾。

埋甕23 (図44) 京都Ⅺ期中段階から新段階である。

150は埋甕の外容器として使用されていた瓦質の甕である。底部径は35.2cmを測る。大和系と考えられる。

埋甕31 (図44) 京都Ⅺ期中段階から新段階である。

151は埋甕の外容器として使用されていた瓦質の甕である。底部径は43.0cmを測る。大和系と考えられる。

(2) 瓦類 (図45、図版30、表10)

瓦1～3は巴文軒丸瓦である。瓦3には範傷がある。瓦当径は10.1～10.3cmである。瓦4～6は軒平瓦である。瓦4・5は剣頭文、瓦6は斜格子文である。折り曲げ技法で成形されている。瓦4は直線状、瓦6は×のヘラ記号が凹面に確認できる。瓦1～6は土坑50から出土した。

瓦8は菊文軒丸瓦である。瓦当は弁の狭い菊文で、瓦当の凹凸すべてに金箔もしくは漆が残る。

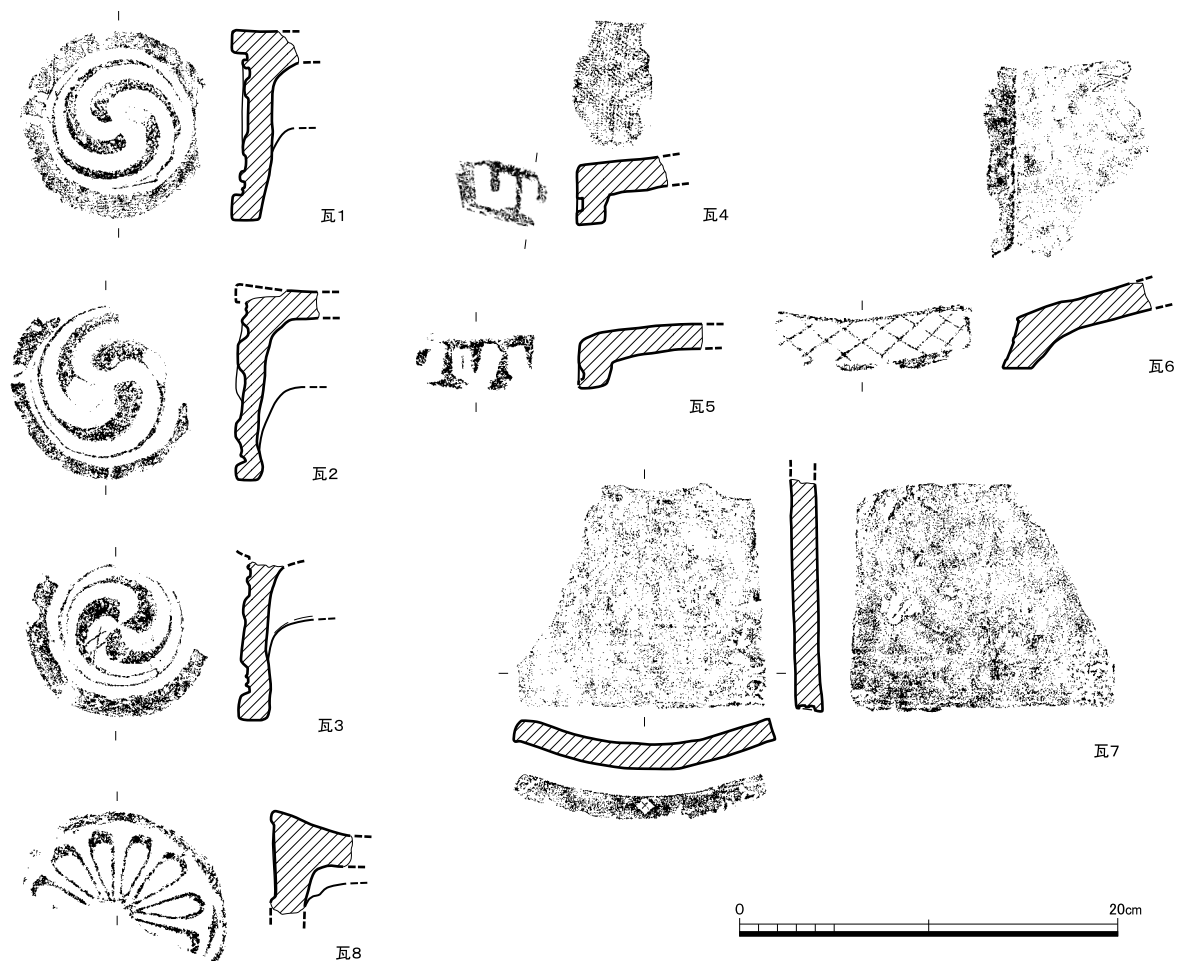


図45 瓦拓影及び実測図 (1 : 4)

井戸25から出土した。

瓦7は熨斗瓦である。幅は13.0cmである。凹面凸面ともナデ仕上げで端部に四菱の印が陰刻されている。井戸36から出土した。

なお小片で図示できなかったが平安時代の緑釉の平瓦も出土している。凹面に布目、凸面に縄目タタキ痕が残り、凸面に緑釉を施す。

(3) 石製品 (図46、図版30)

石1は硯である。縦8.1cm、幅3.8cm、厚さ1.3cmの小型品で、携帯用硯である。擦痕が顕著にみられる。石材の表面が表層剥離している。埋甕6から出土した。

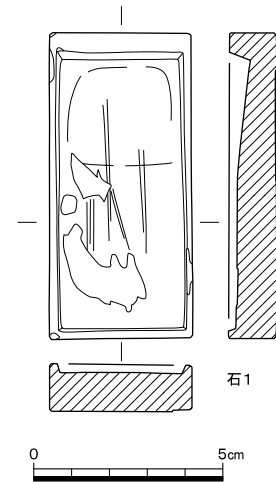


図46 石製品実測図 (1 : 2)

註

- 1) 西山良平氏 (京都大学) にご教示を得た。
- 2) 調査地から南に直線距離で600m離れた地点での発掘調査で青銅工房が検出されている。周辺の調査でも埴塙が転用された例がみられる。『平安京左京三条四坊十町跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2004-10 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2004年

表9 3区 土器類・土製品一覧表

No.	器種	器形	出土遺構	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存率 (%)	色調 胎土	備考
1	土師器	皿	土坑94	14.0	(2.5)		10	10YR7/3にぶい黄橙色 胎土精良 焼成良好	
2	土師器	杯	土坑67	11.9	2.5		40	10YR7/4にぶい黄橙色 胎土精良(φ0.5mm以下のチャート・雲母を含む) 焼成良好	
3	土師器	皿	土坑67	13.3	(1.8)		40	10YR7/4にぶい黄橙色 胎土精良(φ1.0mm以下のチャート・雲母・赤色粒子を含む) 焼成良好	
4	土師器	皿	土坑67	13.3	(1.9)		60	10YR8/3浅黄橙色 胎土精良(φ1.0mm以下の長石・チャート・雲母・赤色粒子を含む) 焼成良好	
5	白色土器	高杯	土坑67		(15.3)		60	7.5YR7/6橙色 胎土精良(φ1.5mm以下の長石・チャート・雲母を含む) 焼成良好	脚部7面体
6	灰釉陶器	壺	土坑67		(4.0)	16.0	20	N7/0灰白色 釉10Y6/2オリーブ灰色 胎土精良 焼成硬質	
7	土師器	皿	土坑83	12.5	2.1		40	7.5YR7/4にぶい橙色 胎土精良(φ1.0mm以下の長石・石英・チャート・雲母・赤色粒子を含む) 焼成良好	
8	土師器	皿	土坑83	13.3	2.5		60	7.5YR6/4にぶい橙色 胎土精良(φ2.0mm以下の長石・石英・チャート・雲母・赤色粒子を含む) 焼成良好	粘土接合痕明瞭に残す
9	土師器	皿	土坑83	10.1	(1.1)		20	2.5Y7/3浅黄色 胎土精良(φ0.5mm以下の長石・チャート・雲母を含む) 焼成良好	
10	土師器	皿	埋納遺構45	10.8	1.6		100	10YR8/4浅黄橙色 胎土精良(φ1.5mm以下の長石・チャート・雲母・赤色粒子を含む) 焼成良好	
11	土師器	皿	埋納遺構45	10.5	1.3		100	10YR8/3浅黄橙色 胎土精良(φ2.5mm以下の長石・石英・チャート・雲母を含む) 焼成良好	
12	土師器	皿	埋納遺構45	10.7	1.4		100	10YR8/3浅黄橙色 胎土精良(φ1.0mm以下の長石・チャート・雲母・赤色粒子を含む) 焼成良好	
13	土師器	皿	埋納遺構45	10.7	1.1		40	10YR7/3にぶい黄橙色 胎土精良(φ1.5mm以下の長石・チャート・雲母・赤色粒子を含む) 焼成良好	
14	土師器	皿	埋納遺構45	10.4	1.4		60	7.5YR6/4にぶい橙色 胎土精良(φ1.5mm以下の長石・チャート・雲母を含む) 焼成良好	
15	土師器	皿	埋納遺構45	10.6	1.5		60	7.5YR6/4にぶい橙色 胎土精良(φ3.5mm以下の長石・石英・チャート・雲母・赤色粒子を含む) 焼成良好	
16	土師器	皿	埋納遺構45	10.6	1.2		60	10YR8/3浅黄橙色 胎土精良(φ1.5mm以下の長石・チャート・雲母・赤色粒子を含む) 焼成良好	
17	土師器	皿	埋納遺構45	10.5	1.4			10YR7/4にぶい黄橙色 胎土精良(φ4.0mm以下の長石・石英・チャート・雲母を含む) 焼成良好	
18	土師器	皿	埋納遺構45	10.8	1.5		60	10YR8/3浅黄橙色 胎土精良(φ1.0mm以下の長石・チャート・雲母・赤色粒子を含む) 焼成良好	
19	土師器	皿	埋納遺構45	10.6	1.3		100	10YR7/3にぶい黄橙色 胎土精良(φ3.0mm以下の長石・石英・チャート・雲母・赤色粒子を含む) 焼成良好	
20	土師器	皿	埋納遺構45	10.3	1.2		100	7.5YR7/4にぶい橙色 胎土精良(φ3.5mm以下の長石・石英・チャート・雲母・赤色粒子を含む) 焼成良好	
21	土師器	皿	埋納遺構45	10.4	1.4		70	10YR8/3浅黄橙色 胎土精良(φ8.5mm以下の長石・チャート・雲母を含む) 焼成良好	
22	土師器	皿	埋納遺構45	10.4	1.6		60	7.5YR7/4にぶい橙色 胎土精良(φ3.5mm以下の長石・チャート・雲母・赤色粒子を含む) 焼成良好	
23	土師器	皿	埋納遺構45	10.8	1.5		60	10YR7/3にぶい黄橙色 胎土精良(φ5.0mm以下の長石・チャート・雲母・赤色粒子を含む) 焼成良好	
24	土師器	皿	埋納遺構45	10.3	1.6		60	10YR7/3にぶい黄橙色 胎土精良(φ2.0mm以下の長石・チャート・雲母を含む) 焼成良好	
25	土師器	皿	埋納遺構45	10.2	1.6		40	7.5YR7/4にぶい橙色 胎土精良(φ1.0mm以下の長石・石英・チャート・雲母・赤色粒子を含む) 焼成良好	
26	土師器	皿	埋納遺構45	10.7	1.3		60	10YR7/3にぶい黄橙色 胎土精良(φ1.0mm以下の長石・チャート・雲母・赤色粒子を含む) 焼成良好	
27	土師器	皿	埋納遺構45	14.5	2.7		100	10YR8/4浅黄橙色 胎土精良(φ1.5mm以下の長石・チャート・雲母・赤色粒子を含む) 焼成良好	
28	土師器	皿	埋納遺構45	14.2	2.4		40	10YR8/4浅黄橙色 胎土精良(φ2.5mm以下の長石・チャート・雲母・赤色粒子を含む) 焼成良好	
29	土師器	皿	埋納遺構45	14.6	2.6		60	10YR8/3浅黄橙色 胎土精良(φ0.5mm以下の長石・チャート・雲母を含む) 焼成良好	
30	土師器	皿	埋納遺構45	14.8	2.8		40	10YR7/4にぶい黄橙色 胎土精良(φ2.0mm以下の長石・チャート・雲母を含む) 焼成良好	
31	土師器	皿	埋納遺構45	14.4	(2.8)		25	10YR8/4浅黄橙色 胎土精良(φ0.5mm以下の長石・チャート・雲母を含む) 焼成良好	
32	緑釉陶器	椀	整地1 (桃山)	17.4	(4.0)		15	灰色 釉濃緑色(光沢あり) 胎土精良 焼成堅緻	東海系
33	緑釉陶器	椀	土坑54	17.4	(1.9)		15	淡橙色 釉淡緑色(光沢あり) 胎土精良 焼成軟質	京都系
34	緑釉陶器	皿	整地3 (室町)	13.0	(1.7)		15	灰色 釉濃緑色(光沢あり) 胎土精良 焼成堅緻	美濃系

No.	器種	器形	出土遺構	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存率 (%)	色調 胎土	備考
35	緑釉陶器	椀	井戸36		(1.8)	6.2	50	淡橙色 釉黄緑色(光沢あり) 胎土精良 焼成軟質 輪高台	京都系
36	緑釉陶器	椀	井戸3		(2.1)	6.4	25	灰色 釉黄緑色(光沢あり) 胎土精良 焼成堅緻 輪高台	京都系
37	緑釉陶器	椀	土坑40		(1.4)	7.4	25	灰色 釉緑色(光沢なし) 胎土精良 焼成軟質 輪高台	京都系
38	緑釉陶器	椀	井戸36		(2.0)	9.0	25	灰色 釉薄緑色(光沢あり) 胎土精良 焼成堅緻 内面粗いミガキ調整 削り出し高台	東海系
39	緑釉陶器	椀	整地3 (鎌倉)		(1.5)	7.0	25	灰白色 釉淡緑色(光沢なし) 胎土精良 焼成軟質 貼り付け高台	東海系
40	緑釉陶器	椀	土坑29		(2.2)	7.1	100	橙色 釉濃緑色(光沢あり) 胎土精良 焼成軟質 貼り付け 高台 内面と高台内面にトチン痕 底部回転系切未調整	近江系
41	緑釉陶器	椀	整地3 (鎌倉)		(2.3)		60	灰白色 釉薄緑色(光沢あり) 胎土精良 焼成軟質 体部内面に濃緑釉で花文を描く	東海系、二彩
42	灰釉陶器	椀	ピット58	16.4	5.4	7.6	60	2.5Y6/3にぶい黄色 釉5Y8/1灰白色 胎土精良(φ0.5mm以下 の砂粒含む) 焼成良好	
43	灰釉陶器	椀	集石40		(1.7)	8.2	100	7.5Y7/1灰白色 釉7.5Y8/1灰白色 胎土精良(φ1.0mm以下 の砂粒含む) 焼成良好	高台部露胎 見込み に部分的な刷毛塗り
44	灰釉陶器	椀	ピット48		(2.1)	15.0	50	10YR8/1灰白色 胎土精良 焼成硬質	
45	灰釉陶器	椀	土坑61		(2.9)	(6.3)	30	5Y7/1灰白色 胎土精良(φ0.5mm以下の長石・チャートを含 む) 焼成良好	
46	白色土器	椀	井戸36		(3.2)	7.4	50	10YR8/1灰白色 胎土精良 焼成硬質	
47	須恵器	蓋	井戸3	13.8	(1.4)		15	N4/灰色 胎土精良 焼成硬質	
48	須恵器	壺	集石40	12.0	(4.8)		15	N6/1灰色 胎土精良 焼成硬質	
49	瓦質土器	羽釜	集石40	21.0	(5.1)		20	7.5YR7/4にぶい橙色 外面N3/0暗灰色 胎土精良(φ1.0mm 以下の長石・チャート・雲母・赤色粒子を含む) 焼成良好	
50	黒色土器	椀	土坑61	(24.9)	(6.6)		20	内面N3/0暗灰色 外面7.5Y6/3にぶい褐色 胎土(φ2.0mm 以下の長石・石英・チャート・赤色粒子を含む) 焼成良好	
51	黒色土器	甕	土坑61	(15.0)	(6.1)		10	内面N3/0暗灰色 外面N3/0暗灰色～10YR7/4にぶい黄橙 色 胎土(φ1.0mm以下の長石・石英を含む) 焼成良好	
52	土師器	皿	井戸36	7.0	1.8		40	10YR7/4にぶい黄褐色 胎土精良(φ2.0mm以下の長石・ チャート・雲母を含む) 焼成良好	
53	土師器	皿	井戸36	7.6	2.1		100	2.5Y8/2灰白色 胎土精良(φ0.5mm以下の長石・チャート・ 雲母を含む) 焼成良好	
54	土師器	皿	井戸36	6.9	2.1		90	10YR8/2灰白色 胎土精良(φ5.5mm以下の長石・チャート・ 雲母を含む) 焼成良好	
55	土師器	皿	井戸36	7.2	1.8		100	10YR8/2灰白色 胎土精良(φ1.5mm以下の長石・チャート・ 雲母・赤色粒子を含む) 焼成良好	
56	土師器	皿	井戸36	7.0	2.0		100	2.5Y8/2灰白色 胎土精良(φ6.0mm以下の長石・チャート・ 雲母を含む) 焼成良好	
57	土師器	皿	井戸36	9.8	2.4		100	10YR8/3浅黄褐色 胎土精良(φ2.0mm以下の長石・チャート ・雲母を含む) 焼成良好	
58	土師器	皿	井戸36	9.8	2.3		100	10YR8/3浅黄褐色 胎土精良(φ2.0mm以下の長石・チャート ・雲母を含む) 焼成良好	
59	土師器	皿	井戸36	11.8	2.5		40	2.5Y8/2灰白色 胎土精良(φ1.0mm以下の長石・チャート・ 雲母を含む) 焼成良好	
60	土師器	皿	井戸36	11.7	2.6		40	10YR8/2灰白色 胎土精良(φ4.0mm以下の長石・チャートを 含む) 焼成良好	
61	土師器	皿	井戸36	12.0	2.8		40	10YR8/2灰白色 胎土精良(φ6.5mm以下の長石・チャートを 含む) 焼成良好	
62	土師器	皿	井戸36	11.4	2.7		100	10YR8/2灰白色 胎土精良(φ4.0mm以下の長石・チャート・ 雲母を含む) 焼成良好	
63	土師器	皿	井戸36	7.6	1.5		25	7.5YR7/4にぶい橙色 胎土精良(φ1.0mm以下の長石・チャ ート・雲母を含む) 焼成良好	
64	土師器	皿	井戸36	7.9	1.3		100	10YR7/4にぶい黄褐色 胎土精良(φ0.5mm以下の長石・ チャート・雲母を含む) 焼成良好	
65	土師器	皿	井戸36	8.0	1.3		100	10YR7/4にぶい黄褐色 胎土精良(φ1.0mm以下の長石・ チャート・雲母を含む) 焼成良好	
66	土師器	皿	井戸36	7.8	1.7		70	10YR7/4にぶい黄褐色 胎土精良(φ2.0mm以下の長石・ チャート・雲母を含む) 焼成良好	
67	土師器	皿	井戸36	10.4	2.7		40	10YR7/4にぶい黄褐色 胎土精良(φ1.0mm以下の長石・チャ ート・雲母を含む) 焼成良好	
68	土師器	皿	井戸36	11.8	2.3		40	10YR7/4にぶい黄褐色 胎土精良(φ1.0mm以下の長石・チャ ート・雲母を含む) 焼成良好	

No.	器種	器形	出土遺構	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存率 (%)	色調 胎土	備考
69	土師器	皿	井戸36	12	2.2		40	7.5YR7/4にぶい橙色 胎土精良(φ1.0mm以下の長石・チャート・雲母を含む) 焼成良好	
70	土師器	皿	井戸36	12.2	2.1		40	10YR7/4にぶい黄橙色 胎土精良(φ1.0mm以下の長石・チャート・雲母・赤色粒子を含む) 焼成良好	底部に穿孔
71	土師器	皿	井戸36	12.1	2.7		20	10YR7/4にぶい黄橙色 胎土精良(φ3.5mm以下の長石・チャート・雲母・赤色粒子を含む) 焼成良好	
72	土師器	皿	井戸36	12.2	2.0		40	10YR7/4にぶい黄橙色 胎土精良(φ1.5mm以下の長石・チャート・雲母を含む) 焼成良好	
73	輸入青磁	輪花椀	井戸36	13.7	(5.1)		20	N7/0灰白色 釉5GY6/1オリーブ灰色 胎土精良 焼成良好	龍泉窯
74	土師器	皿	集石40	10.6	2.7		80	10YR8/2灰白色 胎土精良(φ10.0mm以下の長石・赤色粒子を含む) 焼成良好	
75	輸入黄釉陶器	壺	集石40		(6.6)		25	2.5GY6/1オリーブ灰色 胎土精良 焼成硬質	華南系
76	白色土器	高杯	土坑50		(4.0)		20	2.5Y8/2灰白色 胎土精良(φ0.5mm以下の長石・チャート・雲母・赤色粒子を含む) 焼成良好	
77	土師器	ミニチュア羽釜	土坑50	7.2	3.0		60	10YR8/4浅黄橙色 胎土精良(φ0.5mm以下の長石・チャートを含む) 焼成良好	
78	輸入青磁	椀	土坑50		(1.5)	(7.4)	20	2.5Y6/1黄灰色 釉10YR6/2オリーブ灰色 胎土精良 焼成良好	見込みに草花文龍泉窯
79	瓦質土器	火鉢	土坑50		(6.9)		破片	N4/0灰色 胎土精良(φ1.0mm以下の長石・チャート・雲母を含む) 焼成良好	大和系
80	土師器	皿	土坑30	7.5	1.8		100	7.5YR6/6橙色 胎土精良 焼成良好 歪み大きい。	
81	土師器	皿	土坑30	7.5	1.7		100	7.5YR6/6橙色 胎土精良 焼成良好	
82	土師器	皿	土坑30	7.0	1.8		100	7.5YR6/6橙色 胎土精良 焼成良好	
83	土師器	皿	土坑30	7.6	1.7		100	7.5YR6/6橙色 胎土精良 焼成良好	
84	土師器	皿	土坑30	7.1	1.8		100	7.5YR7/4にぶい橙色 胎土精良(雲母粒含む) 焼成良好	赤色系皿N
85	土師器	皿	土坑30	10.0	2.0		90	10YR7/3にぶい黄橙色 胎土精良(φ3.0mm程度の砂粒含む) 焼成良好	白色系皿S
86	土師器	皿	土坑30	12.2	2.1		90	10Y8/2灰白色 胎土精良(φ0.5mm以下の雲母・砂粒含む) 焼成良好	白色系皿S
87	土師器	皿	土坑30	12.0	2.2		100	10YR8/4浅黄橙色 胎土精良(φ2.0mm以下の礫若干含む) 焼成良好	
88	土師器	皿	土坑30	11.9	2.2		100	10YR8/2灰白色 胎土精良 焼成良好	
89	土師器	皿	土坑30	12.1	2.1		90	10Y8/3浅黄橙色 胎土精良(φ1.0mm以下の砂粒含む) 焼成良好	白色系皿S
90	土師器	皿	土坑30	12.1	2.1		90	10YR7/4にぶい黄橙色 胎土精良(φ1.0mm程度の砂粒含む) 焼成良好	白色系皿S
91	土師器	皿	土坑30	14.5	2.4		100	10YR8/4浅黄橙色 胎土精良 焼成良好	
92	土師器	皿	土坑30	14.5	2.3		100	7.5YR8/4浅黄橙色 胎土精良(φ2.0mm以下の礫若干含む) 焼成良好 内面に赤色物・黒褐色固着物あり	
93	土師器	皿	土坑30	17.5	2.7		100	10YR8/4浅黄橙色 胎土精良 焼成良好 やや歪む	
94	焼締陶器	播鉢	土坑30	24.8	(9.6)		40	2.5Y5/6明赤褐色 胎土精良(φ9.0mm以下の長石・石英・チャートを含む) 焼成良好	信楽系
95	土師器	皿	石室34	5.2	1.0		100	5YR7/6橙色 胎土精良(φ1.0mm以下の長石・チャート・雲母を含む) 焼成良好	
96	土師器	皿	石室34	5.1	1.0		100	2.5Y7/3浅黄色 胎土精良(φ2.0mm以下の長石・石英・チャート・雲母を含む) 焼成良好	
97	土師器	皿	石室34	10.0	1.8		40	10YR8/4浅黄橙色 胎土精良(φ0.5mm以下の長石・チャート・雲母を含む) 焼成良好	
98	土師器	皿	石室34	11.3	2.4		40	10YR8/3浅黄橙色 胎土精良(φ0.5mm以下の長石・チャート・雲母を含む) 焼成良好	
99	施釉陶器	小椀	石室34	6.8	4.1	3.0	90	2.5Y6/2灰黄色 釉5Y5/3灰オリーブ色 胎土精良(φ0.5mm以下の長石を含む) 焼成良好	唐津
100	施釉陶器	皿	石室34	11.6	3.5	4.8	40	2.5Y6/1灰色 釉5Y6/2灰オリーブ色 胎土精良(φ0.5mm以下の長石・チャートを含む) 焼成良好	唐津
101	瓦質土器	茶釜	土坑54		(7.9)		10	2.5Y7/2灰黄色～2.5Y3/1黒褐色 胎土精良(φ1.0mm以下の長石・石英・チャートを含む) 焼成良好	大和系
102	施釉陶器	丸椀	土坑54	11.5	5.8	4.5	40	2.5Y7/1灰白色 釉5YR6/2灰オリーブ色 胎土精良(φ0.5mm以下の長石・チャートを含む) 焼成良好	肥前

No.	器種	器形	出土遺構	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存率 (%)	色調 胎土	備考
103	施釉陶器	天目 茶椀	土坑54	12.6	6.2	4.2	20	2.5Y8/2灰白色 釉5YR2/2黒褐色 胎土精良(φ2.5mm以下の長石・チャートを含む) 焼成良好	美濃系
104	施釉陶器	德利	土坑54		(11.7)		30	N6/0灰色 釉5YR3/1黒褐色 胎土精良(φ3.0mm以下の長石・チャートを含む) 焼成良好	備前
105	施釉陶器	瓶	土坑54		(5.0)	8.0	50	2.5Y8/2灰白色 釉5YR3/4暗赤褐色 胎土精良(φ0.5mm以下の長石・チャートを含む) 焼成良好	瀬戸・美濃系
106	焼締陶器	播鉢	土坑54	25.2	(8.7)		25	2.5Y5/6明赤褐色 胎土やや粗(φ5mm以下の長石・石英・チャートを含む) 焼成硬質	片口 擦目6条1単位 擦目間隔粗 信楽系
107	焼締陶器	播鉢	土坑54	26.4	13.8	12.6	60	5Y6/6橙色 胎土粗(φ11.5mm以下の長石・石英・チャートを含む) 焼成良好	擦目5条1単位 擦目間隔粗 信楽系
108	焼締陶器	播鉢	土坑54	37	15.4	14.4	40	7.5YR5/4にぶい褐色 胎土やや粗(φ3mm以下の長石・石英・チャートを含む) 焼成良好	擦目1条1単位 擦目間隔粗 丹波系
109	土師器	皿	埋甕6	5.1	1.6		100	2.5Y7/3浅黄色 胎土精良(長石・石英・チャート・雲母を含む) 焼成硬質	
110	土師器	皿	埋甕6	5.3	1.3		100	10YR7/4にぶい黄橙色 胎土精良(石英・雲母を多量含む) 焼成硬質	
111	土師器	皿	埋甕6	5.8	1.5		100	2.5Y7/3浅黄色 胎土精良(石英・雲母を含む) 焼成硬質	
112	土師器	皿	埋甕6	5.45	1.3		100	2.5Y7/3浅黄色 胎土精良(石英・雲母を多量含む) 焼成硬質	
113	土師器	皿	埋甕6	5.1	1.4		100	2.5Y7/2灰黄色 胎土精良(石英・雲母を含む) 焼成良好	
114	土師器	皿	埋甕6	5.9	1.3		100	2.5Y7/3浅黄色 胎土精良(石英・雲母を多量含む) 焼成硬質	
115	土師器	皿	埋甕6	5.6	1.5		100	2.5Y7/3浅黄色 胎土精良(石英・雲母を多量含む) 焼成硬質	
116	土師器	皿	埋甕6	5.2	1.4		100	10YR6/2灰黄褐色 胎土精良(石英・雲母を多量含む) 焼成硬質	
117	土師器	皿	埋甕6	5.3	1.7		100	10YR7/3にぶい黄橙色 胎土精良(石英・雲母を多量含む) 焼成硬質	
118	土師器	皿	埋甕6	5.4	1.4		100	10YR7/4にぶい黄橙色 胎土精良(石英・雲母を含む) 焼成硬質	
119	土師器	皿	埋甕6	5.4	1.3		100	2.5Y7/3浅黄色 胎土精良(石英・雲母を含む) 焼成硬質	
120	土師器	皿	埋甕6	6.0	1.3		100	2.5Y7/2灰黄色 胎土精良(石英・雲母を含む) 焼成硬質	
121	土師器	皿	埋甕6	5.4	1.5		100	2.5Y7/3浅黄色 胎土精良(石英・雲母を多量含む) 焼成硬質	灯明皿
122	土師器	皿	埋甕6	5.0	1.5		100	2.5Y6/3にぶい黄色 胎土精良(石英・雲母を多量含む) 焼成硬質	灯明皿
123	土師器	皿	埋甕6	5.5	1.3		100	2.5Y6/3にぶい黄色 胎土精良(石英・雲母を多量含む) 焼成硬質	灯明皿
124	土師器	皿	埋甕6	5.3	1.3		100	2.5Y7/4浅黄色 胎土精良(石英・雲母を少量含む) 焼成硬質	灯明皿
125	土師器	皿	埋甕6	5.4	1.2		100	2.5Y7/3浅黄色 胎土精良(石英・雲母を含む) 焼成硬質	灯明皿
126	土師器	皿	埋甕6	5.3	1.5		100	10YR7/3にぶい黄橙色 胎土精良(石英・雲母を含む) 焼成硬質	灯明皿
127	土師器	皿	埋甕6	10.0	1.9		100	2.5Y8/2灰白色 胎土精良(石英を少量含む) 焼成硬質	
128	土師器	皿	埋甕6	10.2	2.0		100	2.5Y7/2灰黄色 胎土精良(石英・雲母を少量含む) 焼成硬質	
129	土師器	皿	埋甕6	11.5	2.2		100	5Y8/1灰白色 胎土精良(石英・雲母を含む) 焼成硬質	
130	土師器	皿	埋甕6	11.8	2.3		100	2.5Y7/2灰黄色 胎土精良(石英・雲母を少量含む) 焼成硬質	
131	土師器	皿	埋甕6	12.1	2.0		100	2.5Y8/2灰白色 胎土精良(石英わずかに含む) 焼成硬質 底に煤付着	
132	土師器	皿	埋甕6	11.5	2.5		100	2.5Y7/2灰黄色 胎土精良(石英・雲母を少量含む) 焼成硬質	
133	土師器	皿	埋甕6	11.8	2.1		100	2.5Y7/1灰白色 胎土精良(石英・雲母を多量含む) 焼成硬質	
134	土師器	皿	埋甕6	8.6	1.8		100	2.5Y7/2灰黄色 胎土精良(石英・雲母を少量含む) 焼成硬質	灯明皿
135	土師器	皿	埋甕6	11.9	1.8		100	2.5Y8/2灰白色 胎土精良(石英・雲母を少量含む) 焼成硬質	灯明皿
136	土師器	皿	埋甕6	11.8	2.1		100	2.5Y8/2灰白色 胎土精良(雲母をわずかに含む) 焼成硬質	灯明皿

No.	器種	器形	出土遺構	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存率 (%)	色調 胎土	備考
137	土師器	皿	埋甕6	8.4	1.5		100	2.5Y8/2灰白色 胎土精良(φ0.5mm以下の長石・チャート・雲母を含む) 焼成良好	内面に「奉上 の引様」の墨書
138	土師器	皿	石室12	5.1	1.2		100	7.5Y7/6橙色 胎土精良(φ3.0mm以下の長石・石英・チャート・雲母を含む) 焼成良好	灯明皿
139	磁器	小椀	石室12	5.6	3.4	2.5	50	N8/0灰白色 胎土精良 焼成良好	伊万里
140	磁器	椀	石室12	10.0	5.4		20	N7/0灰白色 釉10YR7/1灰白色 胎土精良 焼成良好	伊万里
141	磁器	椀	石室12	(16.0)	(6.9)		20	N8/0灰白色 胎土精良 焼成良好	伊万里
142	磁器	皿	石室12	(13.7)	2.9	(5.9)	30	N8/0灰白色 胎土精良 焼成良好	伊万里
143	磁器	瓶	石室12		(6.3)	6.0	100	10YR7/2にぶい黄橙色 胎土精良 焼成良好	伊万里
144	磁器	仏飯器	石室12	8.4	6.7	5.2	90	N8/0灰白色 胎土精良 焼成良好	伊万里
145	焼締陶器	播鉢	石室12	(26.7)	(11.2)	13.0	40	2.5Y7/1灰白色～2.5YR3/3暗褐色 胎土精良(φ4.0mm以下の長石を含む) 焼成良好	8条1単位 信楽系
146	焼締陶器	播鉢	石室12	(37.6)	14.7	(15.9)	20	7.5Y6/3にぶい褐色 胎土精良(φ5.0mm以下の長石・赤色粒子を含む) 焼成良好	8条1単位 信楽系
147	土製品	埴塼	石室12		(13.7)	15.0	100	N7/0灰白色 外面はガラス質化して赤紫色を発色 胎土粗(φ6mm以下の砂粒含む) 焼成良好	内面に緑青付着
148	土製品	埴塼	石室12		(12.1)	15.1	100	2.5YR6/1赤灰色 外面は融解してガラス質化して赤紫色を発色 胎土粗(φ5mm以下の砂粒含む) 焼成良好	
149	焼締陶器	甕	埋甕6	65.0	(60.0)	26.0	100	内面2.5YR4/6赤褐色 外面2.5YR4/3灰赤色 胎土精良(φ3.0mmの長石を多く含む) 焼成硬質	信楽系
150	瓦質土器	甕	埋甕23		(32.0)	35.2	50	5Y5/1灰色 胎土精良 焼成軟質 内面接合部に指オサエ	大和系
151	瓦質土器	甕	埋甕31		(25.0)	43.0	25	5Y5/1灰色 胎土精良 焼成軟質	大和系

表10 3区 瓦類一覧表

No.	種類	文様	出土遺構	胎土	色調	焼成	形態・手法の特徴	産地・時期	備考
瓦1	軒丸	巴文	溝29	胎土精良(φ3.5mm以下の砂粒を含む)	10YR6/2灰黄褐色	良好	左巻きの三巴文。瓦当部は接合式。瓦当側面ヘラケズリ、瓦当裏面指オサエ。	山城 平安後期 ～鎌倉	
瓦2	軒丸	巴文	溝29	胎土精良(φ5.0mm以下の砂粒を含む)	2.5Y7/2灰黄色	良好	左巻きの三巴文。瓦当部は接合式。瓦当側面ヘラケズリ、瓦当裏面指オサエ。	山城 平安後期 ～鎌倉	
瓦3	軒丸	巴文	溝29	胎土精良(φ11.0mm以下の砂粒を含む)	N4/0灰色	良好	左巻きの三巴文。瓦当部は接合式。瓦当側面ヘラケズリ、瓦当裏面指オサエ。	山城 平安後期 ～鎌倉	
瓦4	軒平	剣頭文	土坑50	胎土精良(φ8.5mm以下の砂粒を含む)	2.5Y7/2灰黄色	良好	瓦当部は折り曲げ式。凹面は布目。凸面ナデ。	山城 平安後期 ～鎌倉	
瓦5	軒平	剣頭文	溝29	胎土精良(φ6.0mm以下の砂粒を含む)	7.5YR6/4にぶい橙色	良好	瓦当部は折り曲げ式。凹面は布目。凸面ナデ。	山城 平安後期 ～鎌倉	
瓦6	軒平	斜格子文	溝29	胎土精良(φ11.0mm以下の砂粒を含む)	2.5Y8/1灰白色	良好	瓦当部は折り曲げ式。凹面は布目。凸面ナデ。	山城 平安後期 ～鎌倉	ヘラ記号
瓦7	熨斗		井戸36	胎土やや粗(φ4.5mm以下の砂粒を含む)	5Y6/1灰色	良好	凹面凸面ともナデ。側面はヘラ切り。	山城 室町	端部に四菱の刻印
瓦8	軒丸	菊文	井戸25	胎土精良(φ3.0mm以下の長石・石英・チャートを含む)	N5/0灰色	良好	単弁六弁。金箔瓦。漆と金箔がわずかに残存。瓦当部は接合式。瓦当裏面オサエ。	江戸前期	

第5章 まとめ

今回の調査は、調査区全域に現代の大規模攪乱が存在し、調査に制約があったなか、計6面の調査を行って、平安時代前期から江戸時代までの多数の遺構・遺物を検出することができたことは大きな成果である。また、平安京東京極大路については、平面的かつ層位的な調査を実施することができた。最後に、左京二条四坊十五町と東京極大路に分けてその変遷をまとめたい。

左京二条四坊十五町

第1期とした平安時代前期の段階では、地鎮遺構の可能性のあるピット74を検出したものの、それ以外の遺構については、炉の可能性のある被熱面や時期不明のピットが少数存在するのみである。遺物も後世の遺構に混入したものを含めても少量であり、宅地として活発に利用された痕跡は認められない。続く、第2期とした平安時代中期前半段階についても、十五町部分では柱穴1基を検出したにとどまる。東京極大路が大規模に造成される中期後半段階に属する遺構・遺物も、十五町側では希薄である。宅地としての開発が本格的にはじまるのは第3期の平安時代後期と考えられ、11世紀代の遺物を含む遺構が多数検出された。特に東京極大路推定西築地心の西側で検出した土坑150は、方形の掘形に礫が多量に入り、壁土などが多量に出土したことから、東京極大路に開く門の掘込地業である可能性が考えられる。また、平安時代後期の軒瓦も複数出土しており、瓦を葺いた建物や築地の存在が想定できる。これら平安時代後期の遺構は、氾濫堆積物由来と考えられる砂層に覆われ、この砂層からも少量の軒瓦が出土した。鴨川に近く、また東京極大路には「中川」と呼ばれる川が存在したとされ、¹⁾頻繁に洪水に見舞われたであろうことは文献史料の研究から知ることができる。²⁾

第4期の平安時代末から鎌倉時代の遺構も多数検出された。『山槐記』に春日南・京極西の宅で按察典侍が高倉天皇との子である潔子内親王を出産したとの記述がある時期にあたる。その邸宅の位置については、春日南・京極西の「角」とあること⁴⁾から、十五町の北東角である可能性が高く、十五町の南東寄りの今調査地（図1）で出土した遺構と直接関連するものであるかは不明である。しかし、出土遺物を見ても金属製品や瓦類が出土するなど、十五町の南東部にも貴族邸宅が存在したことは確かであろう。

第5期は室町時代としたが、14世紀後半から15世紀前半の遺構は少ない。15世紀後半から16世紀前半の遺構・遺物は多く、東京極大路に近い場所で礎石と考えられる石が散見されることや、その西側に廃棄物処理土坑と考えられる大規模な土坑54が存在することから、東京極大路に間口を開く町家の存在が想定される。

桃山時代から江戸時代とした第6期では、第5期まで東京極大路の路面が存在した調査区東側でも井戸や石室などの町屋に関連する遺構が多数検出され、豊臣秀吉による天正地割により東京極大路が消滅したことがわかる。見つかった井戸群は調査地西側の御幸町通に間口を開く町家のものと考えられる。江戸時代前期の井戸102や土坑196・197などからは茶陶や聞香用の聞き香炉、輸入陶磁器などがまとめて出土している。調査地の北、丸太町通の北側には公家町が形成されたことも

あり、富裕層の居住域となっていたと考えられる。

東京極大路

東京極大路については、各時期の調査区内での検出状況は以下の通りである。

第1期（路面Ⅰ） 路面幅：7.7m以上 側溝：溝290か 上面標高：43.15～43.5m

第2期（路面Ⅱ） 路面幅：約4.5m 側溝：溝290・291か 上面標高：43.4～43.7m

第3期（路面Ⅲ） 路面幅：約8.0m 側溝：溝156 上面標高：43.7～43.8m

第4期（路面Ⅳ） 路面幅：約5.5m 側溝：溝280ほか 上面標高：43.9m

第5期（路面Ⅴ） 路面幅：約5.5m 側溝：溝231か 上面標高：44.0m

当地での東京極大路の整備は、路面Ⅰ構築土から出土した遺物から9世紀前半段階と考えられる。西側溝については、10世紀後半に埋まる溝290の掘削時期が前期までさかのぼる可能性もある。路面Ⅰの構築土は調査区外東側へと延びる。東端は検出できていないが、造営当初は『延喜式』の規定に則り、一定の路面幅を確保しようとした可能性が考えられる。それが第2期の路面Ⅱ段階では路面幅が大幅に縮小される。西側溝と考えられる溝290と、東側の溝291の間の幅4.5mの範囲のみ路面の整地と石敷きが行われている。第2期の段階では宅地側の遺構も少なく、9世紀後半から10世紀前半頃は道路の利用も活発ではなかったと考えられる。

その後、第3期の10世紀後葉頃に大規模な再造成が行われていることが判明した。西側溝の溝290を埋め、厚いところでは0.4m以上の盛り土を行い、路面を再構築している。路面上面の礫敷きも、他時期の路面と比較して、より細かく粒形のそろったものが用いられている。また、路面Ⅱまでは0.3m以上あった上面の標高差が0.1m以下となり、路面Ⅲではより平坦に造成することを意識したものと捉えられる。この時期の大規模造成については、中期中葉以後、京の中心が左京域に移り、東京極大路東側の京外の開発が進むことと連動したものと考えられる。また、路面の厚い嵩上げは、鴨川などの洪水に対応するために堤状にする意図があったのではないかと考えられる。しかし、この段階でも、礫敷きが行われた路面幅は約8.0mであり、大路としては狭い。これについては、文献史料から中期以降、東京極大路と鴨川との間の二条以北に「東朱雀大路」と呼ばれた路が存在したことがわかること⁵⁾から、東京極大路は実際には大路として使用されることがなく、大路幅を必要としなかったと推測される。

第4期の路面Ⅳの段階には、再び路面幅が縮小される。礫敷きの東端では、複数回にわたって掘り直されたと考えられる柱列と溝群が重複して検出され、柵か溝で区切っていたと考えられる。また、調査区北東角ではその溝群と重複して小規模な掘立柱建物1が建てられていることも、この溝群より東が道として使用されていなかったことの傍証となろう。第5期の路面Ⅴも路面Ⅳの位置と幅をほぼ踏襲する。路面上には集石や土坑、溝などの遺構があり、実際に道として機能していたかどうかについては不明であるが、上面には礫敷きを行っていることから、天正地割が行われるまで東京極大路の名残の道として管理されていたことがわかる。

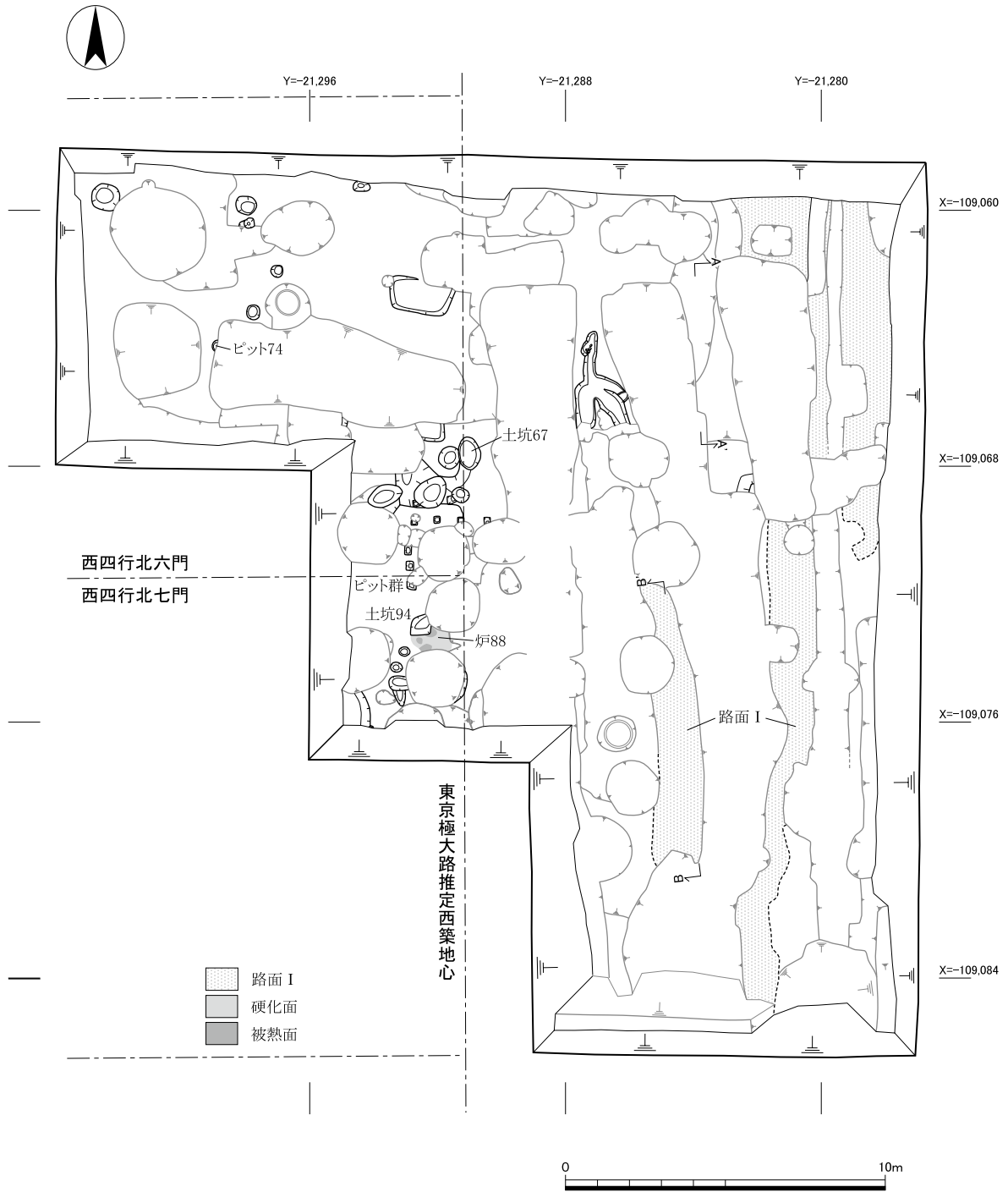
以上のように、平安時代前期から室町時代までの東京極大路の変遷が明らかになったことは大きな成果である。今後は、今回調査区外であった本来の幅の東京極大路の東半部の状況や東朱雀大

路との関係について明らかにしていく必要がある。

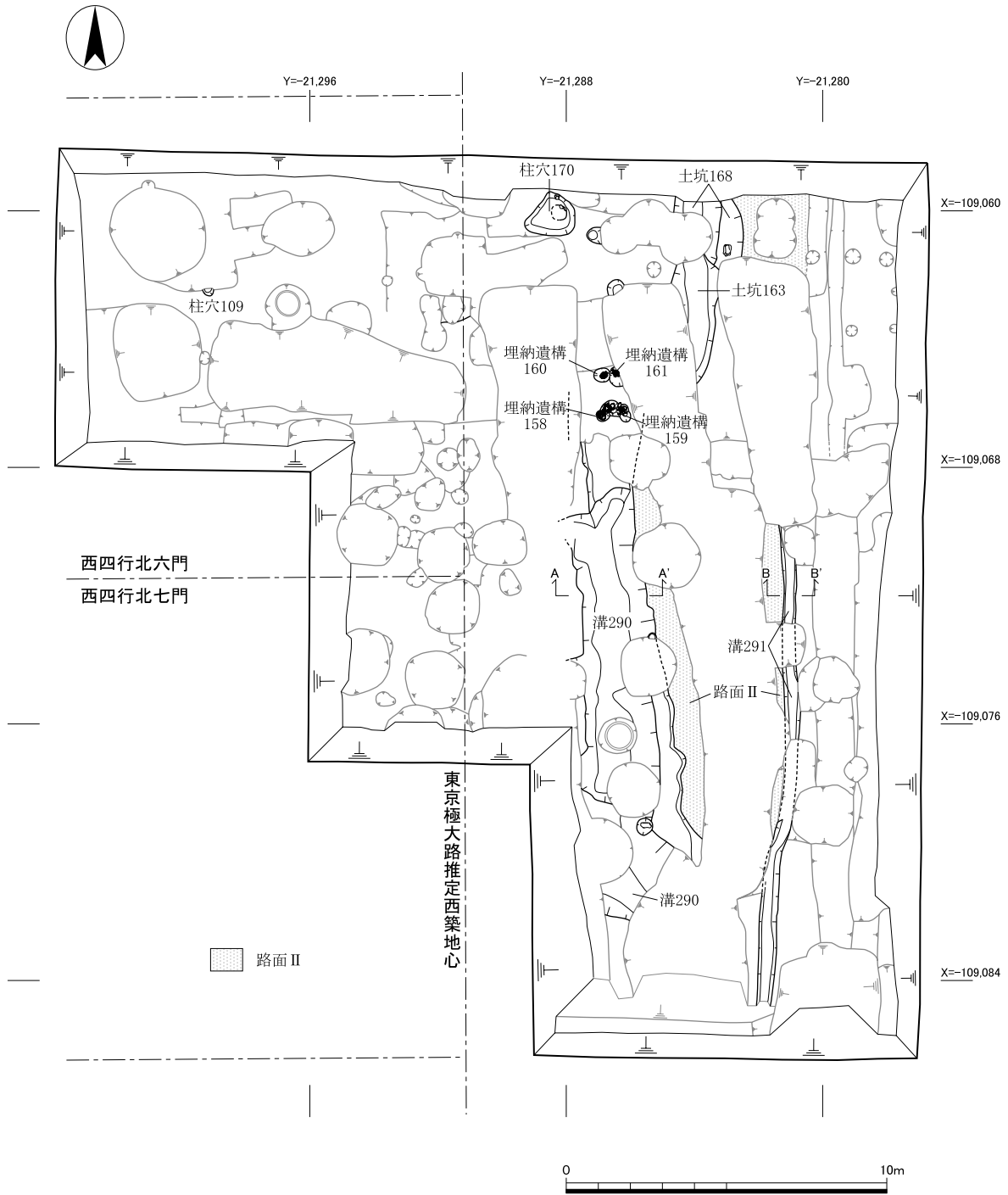
註

- 1) 増田繁夫「一 紀伊守の中川の家」『源氏物語と貴族社会』吉川弘文館 2002年
- 2) 勝山清次「平安時代における鴨川の洪水と治水」『人文論叢』第4号 三重大学人文学部文化学科 1987年
- 3) 「山槐記」治承三年四月十七日、十八日各条。(「山槐記二」『増補史料大成』第二十七巻 臨川書店 1965年)
- 4) 前掲註3の十七日条。
- 5) 鈴木進一「東朱雀大路小考」『史学研究集録』第6号 国学院大学日本史学専攻大学院会 1981年

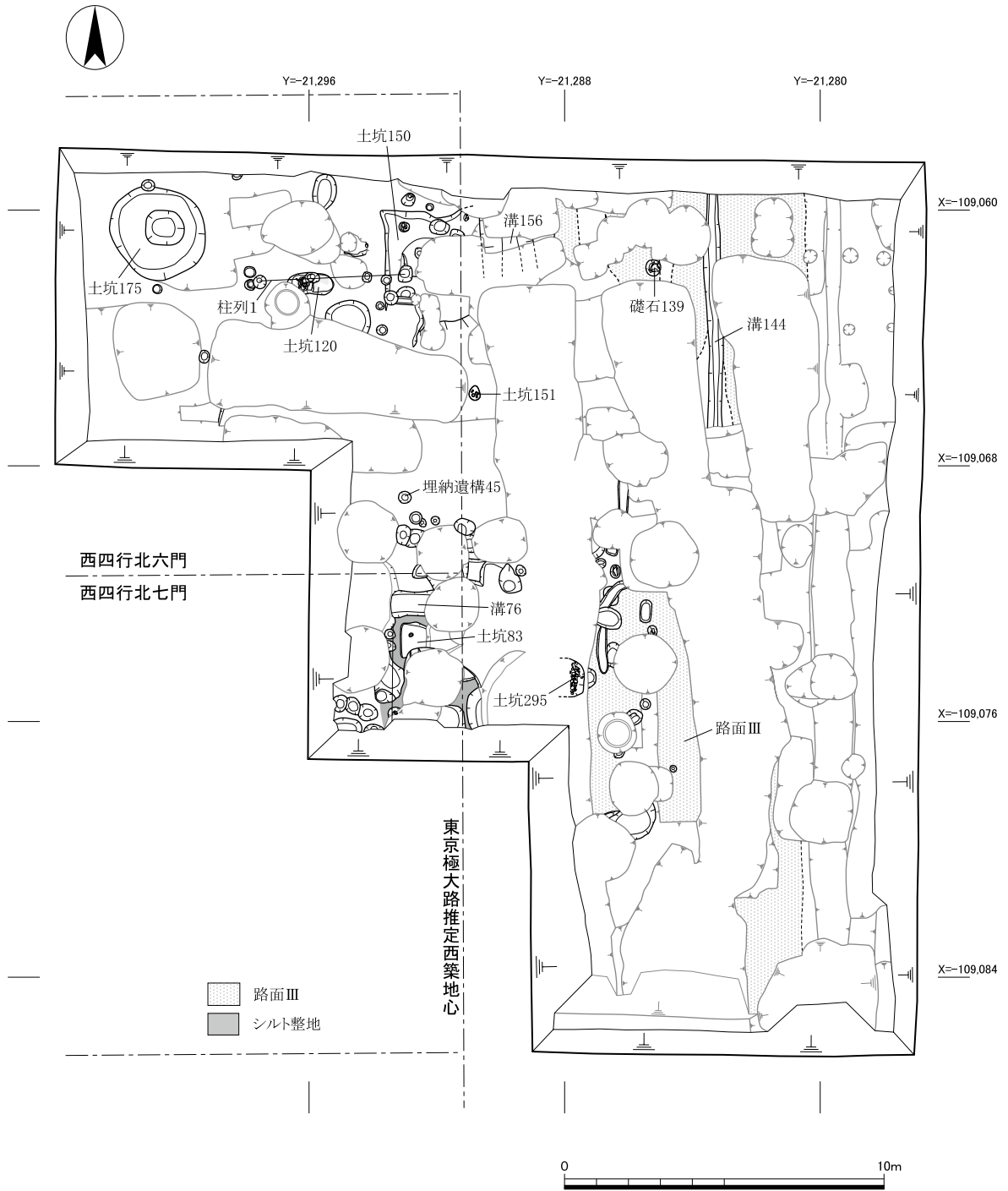
圖 版



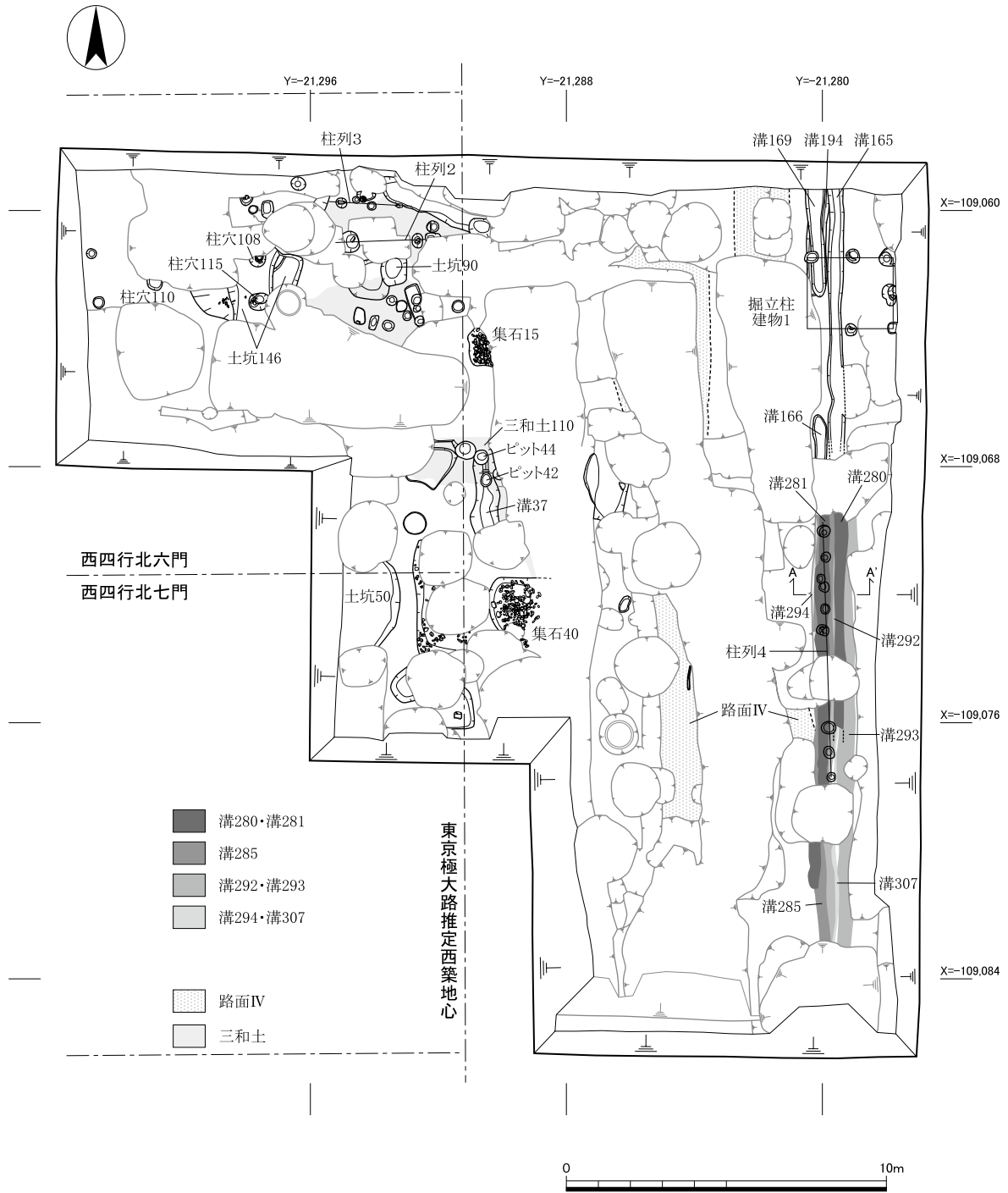
第1期遺構平面図 (1 : 200)



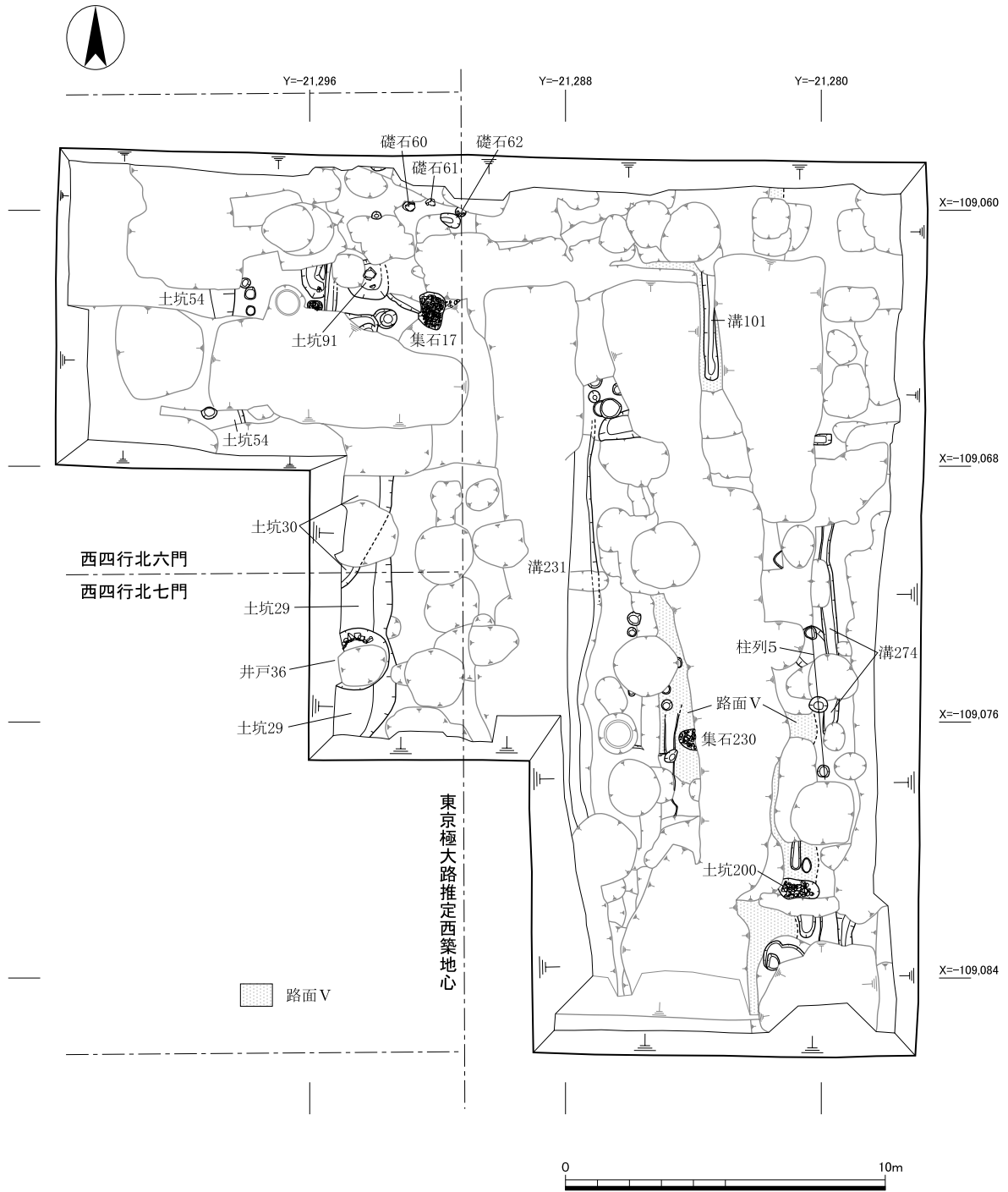
第2期遺構平面図 (1 : 200)



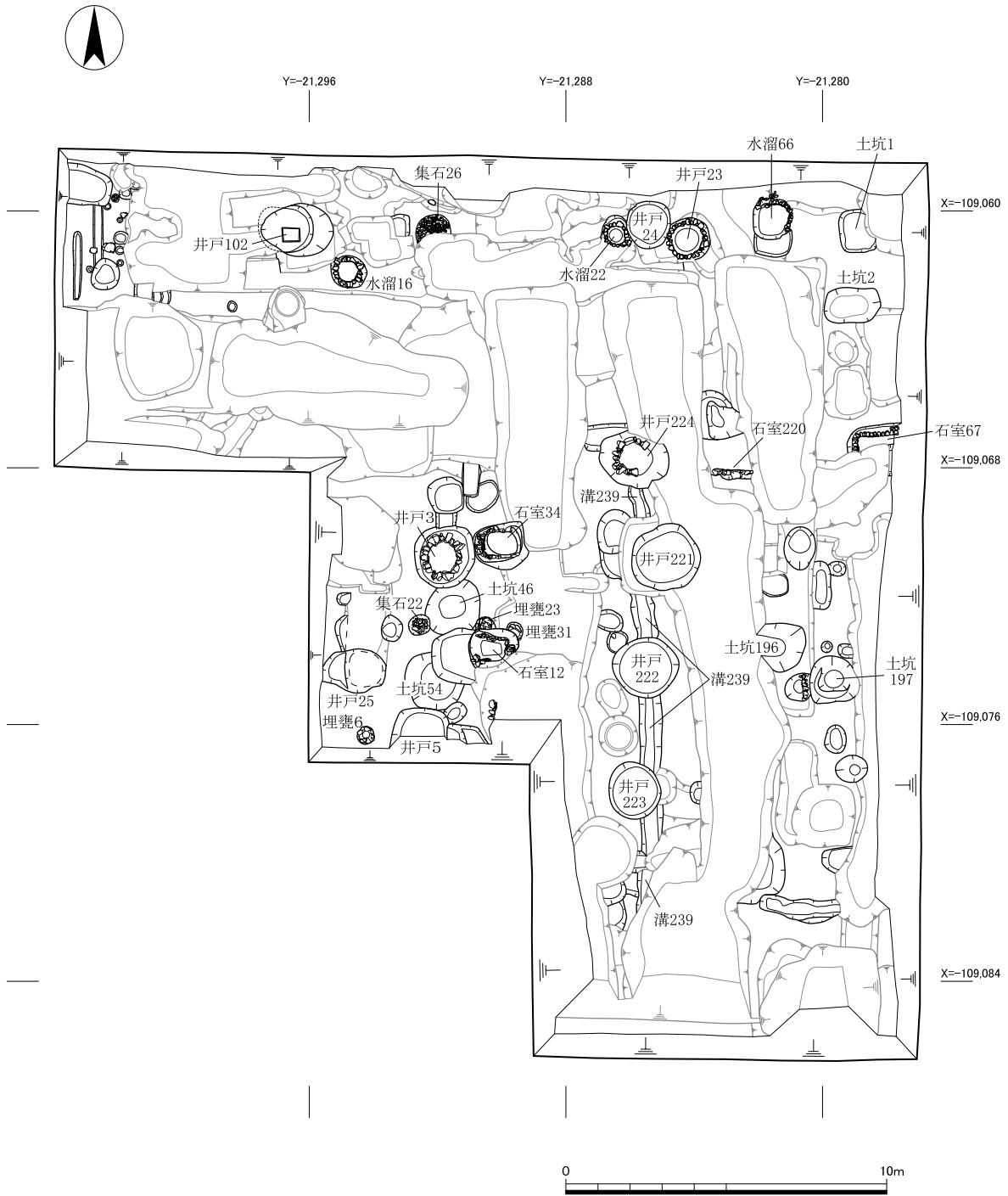
第3期遺構平面図 (1 : 200)



第4期遺構平面図 (1 : 200)



第5期遺構平面図 (1 : 200)



第6期遺構平面図 (1 : 200)



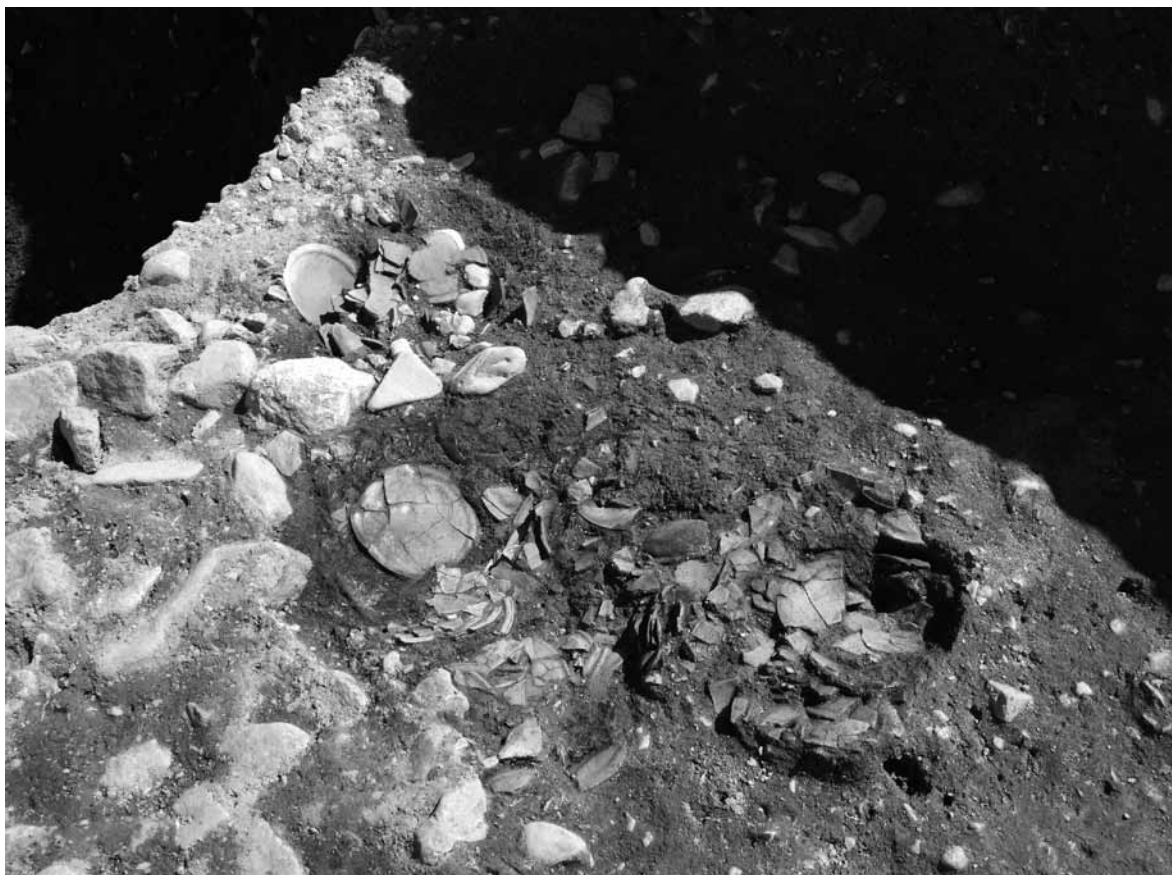
1 東京極大路路面断面（西から）



2 第1期北半全景（東から）



3 第1期南半全景（北から）



1 埋納遺構 158・159 (北西から)



2 埋納遺構 160・161 (北西から)



3 溝 290 (北から)



1 第3期北半全景（東から）



2 土坑150（北東から）



3 第3期南半全景（北東から）



1 土坑151 (北から)



2 土坑175 (北から)



3 礎石139 (西から)



4 第4期北半全景 (東から)



1 第4期南半溝群（北北西から）



2 路面Ⅳ（北から）



3 集石15（東から）



5 柱穴108（北から）



4 掘立柱建物1（北東から）



6 柱列2の柱穴80（南から）



1 第5期北半全景（東から）



2 路面Ⅴ（北東から）



1 第6期北半全景（東から）



2 第6期南半全景（北から）



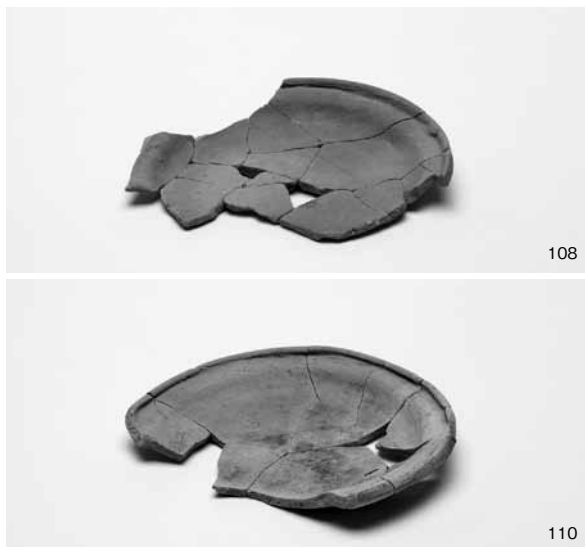
3 石室67（東から）



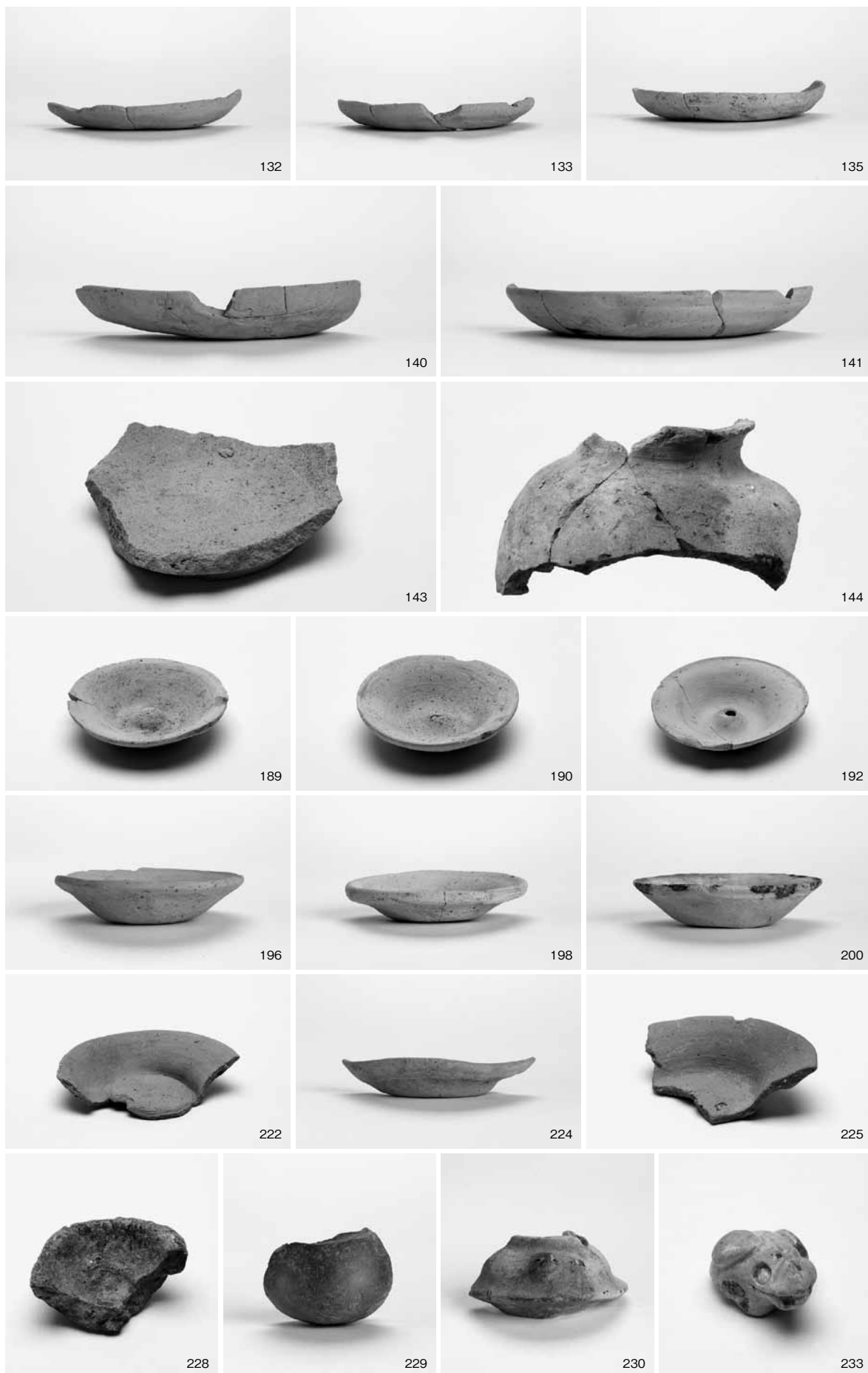
4 水溜66（西から）



埋納遺構 160・159、路面Ⅲ構築土出土土器類



路面Ⅲ構築土、土坑175出土土器類



土坑150·54出土土器類



土坑54、井戸102出土土器類



土坑196、水溜66出土土器類



土坑197出土土器類、土製品



瓦3



瓦5



瓦2



瓦12



瓦16



瓦17



瓦27



瓦21



瓦30



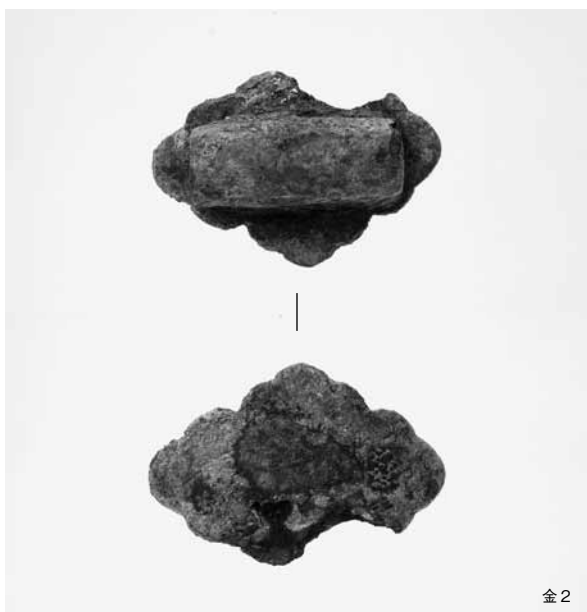
瓦22



瓦18



瓦26



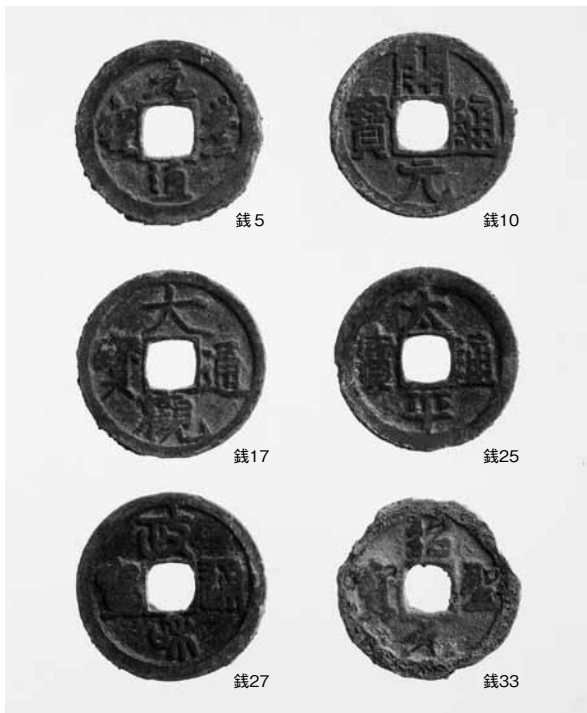
金2



石4



石3



錢5

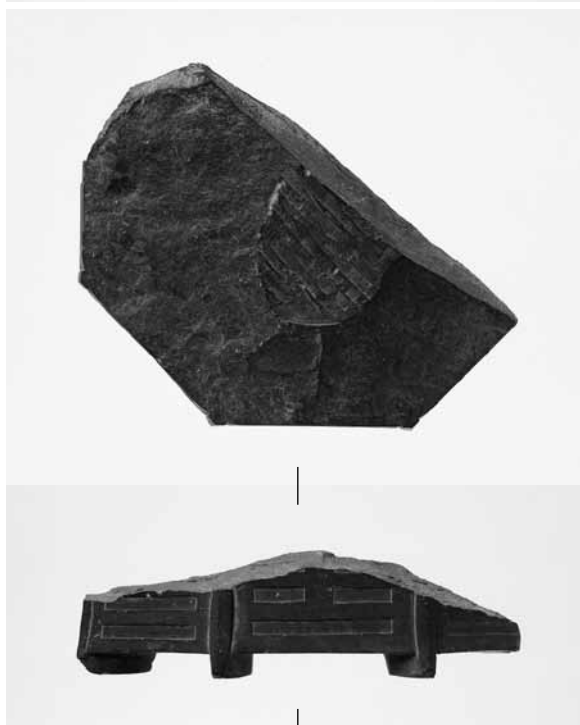
錢10

錢17

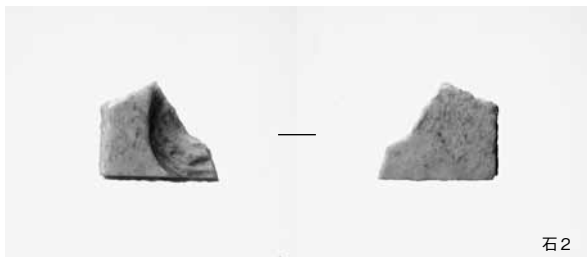
錢25

錢27

錢33



石1



石2



石5



1 第1期全景（北から）



2 炉88（東から）



3 炉88（北東から）



1 第3期全景（北から）



2 埋納遺構45（東から）



3 溝76（西から）



1 第4期全景（北から）



2 溝37、ピット42・44（北から）



3 集石40（北東から）



4 井戸36（南から）



1 第5期全景（北から）



2 第6期全景（北から）



1 埋甕6 (西から)



2 埋甕23 (南から)



3 埋甕31 (西から)



4 集石22 (南から)



5 石室12 (西から)



6 石室34 (東から)



埋納遺構45、井戸36、土坑50ほか出土土器類



土坑30·54出土土器類



埋甕6、石室12出土土器類



瓦1



瓦2



瓦3



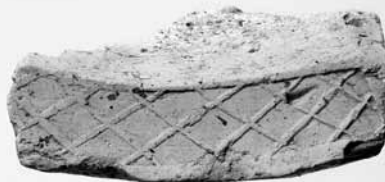
瓦8



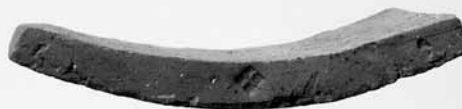
瓦4



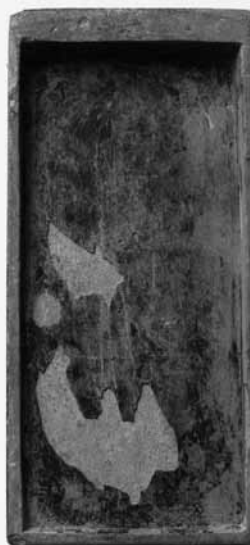
瓦5



瓦6



瓦7



石1

報 告 書 抄 録

ふりがな	へいあんきょうさきょうにじょうしぼうじゅうごちょうあと・ひがしきょうごくおおじあと							
書名	平安京左京二条四坊十五町跡・東京極大路跡							
シリーズ名	京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告							
シリーズ番号	2015-5							
編著者名	柏田有香・持田 透							
編集機関	公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所							
所在地	京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265番地の1							
発行所	公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所							
発行年月日	西暦2015年10月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
へいあんきょうあと 平安京跡	きょうとしなかぎょうく 京都市中京区 ごこまちどおりたけやまち 御幸町通竹屋町 あがびしゃもんちょう 上る毘沙門町 546番 他	26100	1	35度 01分 00秒	135度 46分 00秒	2014年 8月 4日～2015 年 7月31日	576㎡	マンション 新築計画
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
平安京跡	都城跡	平安時代前期	路面、ピット	土師器、須恵器、黒色土器、白色土器、灰釉陶器、緑釉陶器、瓦器、瓦質土器、輸入陶磁器、土製品、壁土、瓦類、石製品、銭貨、金属製品		平安時代前期から室町時代までの東京極大路の変遷が明らかとなった。平安時代前期から近世までの宅地利用の変遷が明らかとなった。平安時代末から鎌倉時代の東京極大路に開く門跡と考えられる遺構が見つかった。		
		平安時代中期前半	路面、溝、埋納遺構、柱穴、土坑					
		平安時代中期後半～後期	路面、溝、柱列、土坑、礎石					
		平安時代末～鎌倉時代	路面、溝、掘立柱建物、柱列、柱穴、集石、土坑					
		室町時代	路面、溝、柱列、礎石、集石、土坑	土師器、取鍋、瓦質土器、焼締陶器、施釉陶器、輸入陶磁器、瓦類、石製品				
桃山時代～江戸時代	井戸、水溜、石室、土坑、溝	土師器、瓦質土器、焼締陶器、軟質施釉陶器、施釉陶器、磁器、輸入陶磁器、土製品、瓦類、石製品、銭貨、金属製品、骨、貝殻						

京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2015-5
平安京左京二条四坊十五町跡・
東京極大路跡

発行日 2015年10月30日

編集行 公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

住 所 京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265番地の1
〒602-8435 TEL 075-415-0521
<http://www.kyoto-arc.or.jp/>

印 刷 三星商事印刷株式会社

住 所 京都市中京区新町通竹屋町下る弁財天町298番地
〒604-0093 TEL 075-256-0961